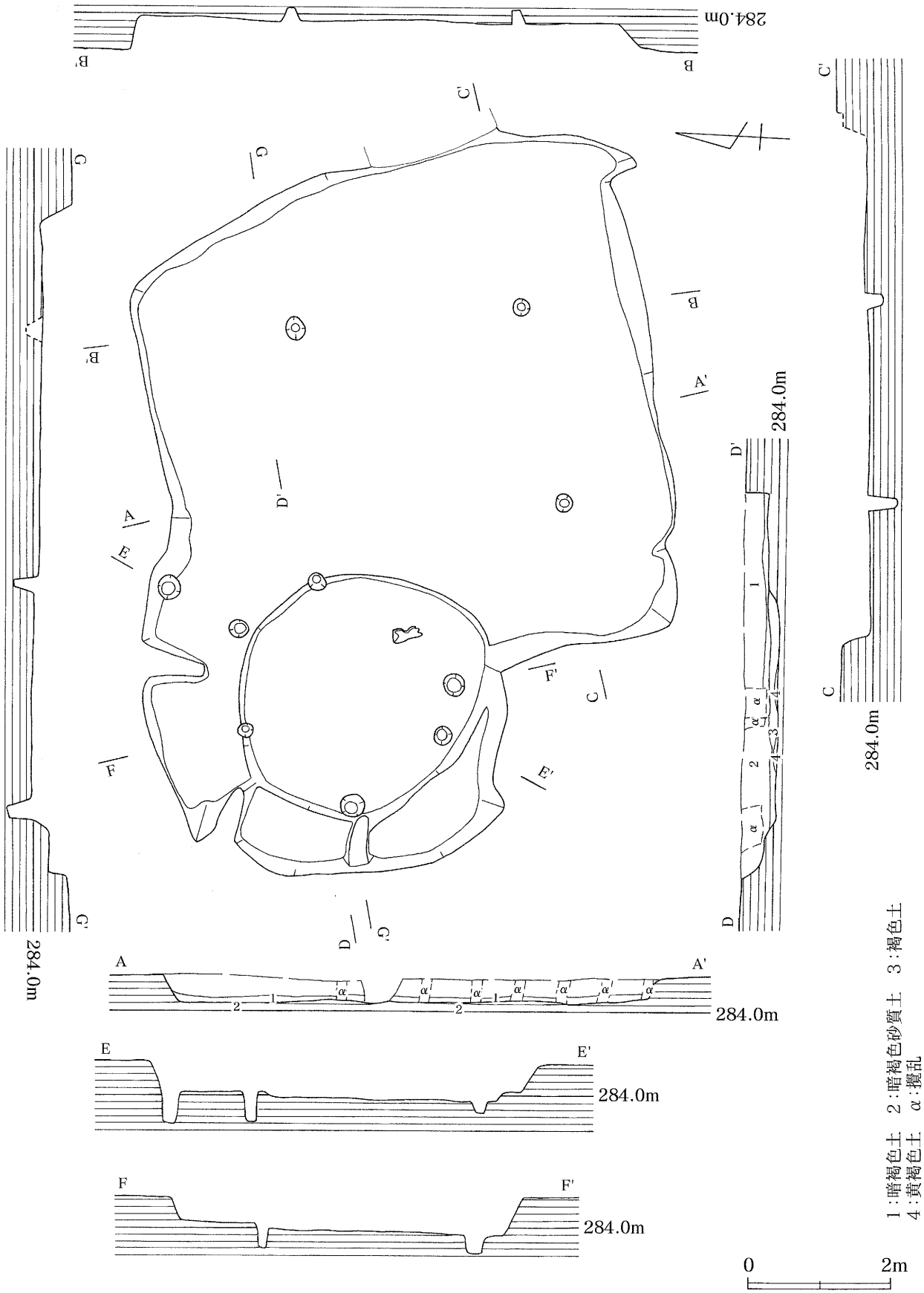
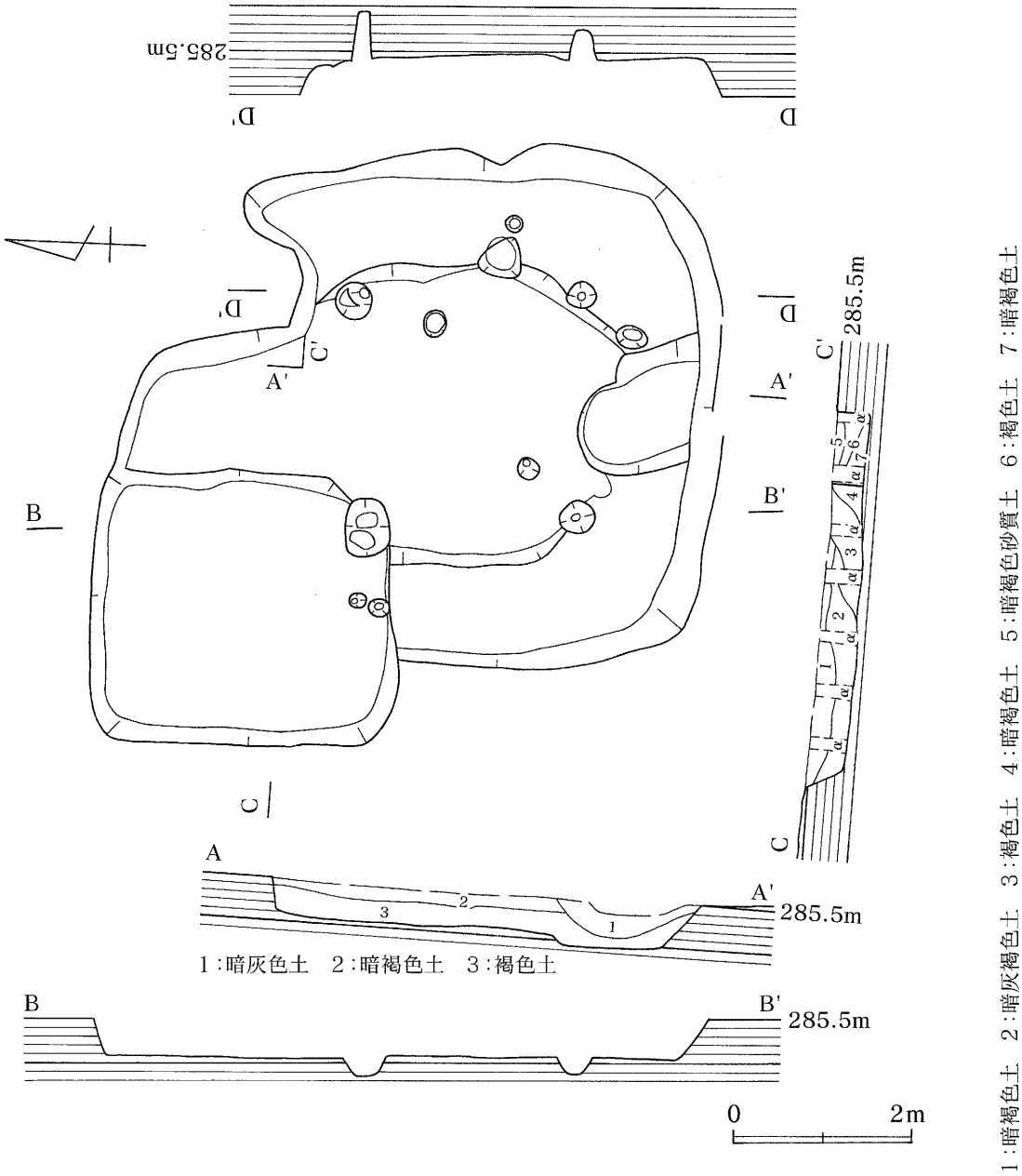
壷・甕・高坏の破片が多い。丹塗りの壷の体部（1468）が1点出土している。石器は打製石鏃・石匙・スクレイパー・磨石・剥片・石核（黒曜石）が出土している。



第79図　SA－114・115　遺構実測図



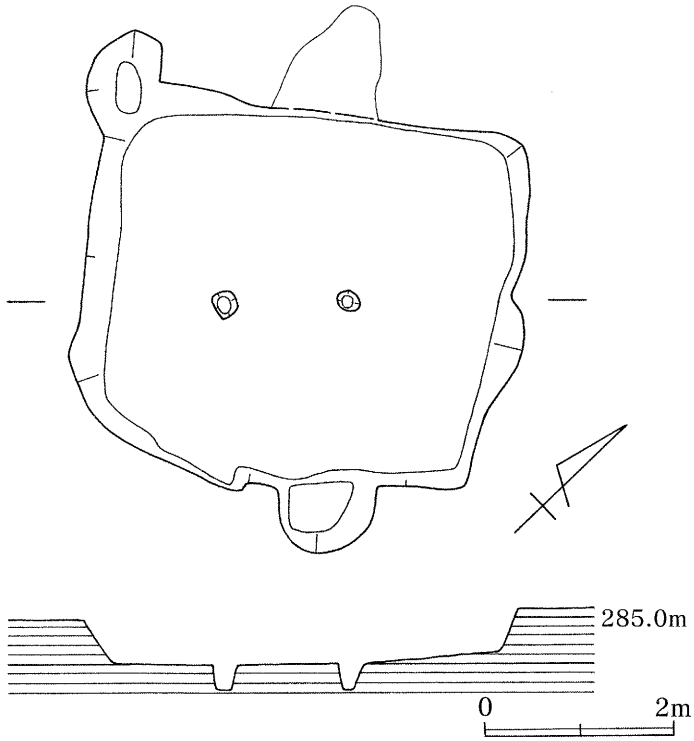
第80図　SA－128・127　遺構実測図

SA－18（第97図、図版30・31・140）

3.7×3.8mのほぼ正方形を呈し、床面までの深さは60㎝を測る。柱穴は8個あり、径15～30㎝、深さは10～55㎝を測る。床は平均10㎝の貼床がみられる。出土遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏の破片が多く、丹塗りの小型壷の体部1点が出土している。また、北東壁のほぼ中央、検出面レベルで勾玉が出土した。この勾玉は、長さ3.2㎝、厚さ2mmの扁平な形をしており、その形状から玦状耳飾であったものを、再加工して作られたものと思われる。石器は打製石鏃が出土している。

SA－19（第98図、図版32・140・141）

南東隅を撹乱によって切られている、東西3.8m、南北4mの方形住居である。床面までの深さは40㎝を測り、柱穴は3個で径24～34㎝、深さ32～48㎝を測る。出土遺物は縄文土器が数点と、



第81図　SA－01　遺構実測図

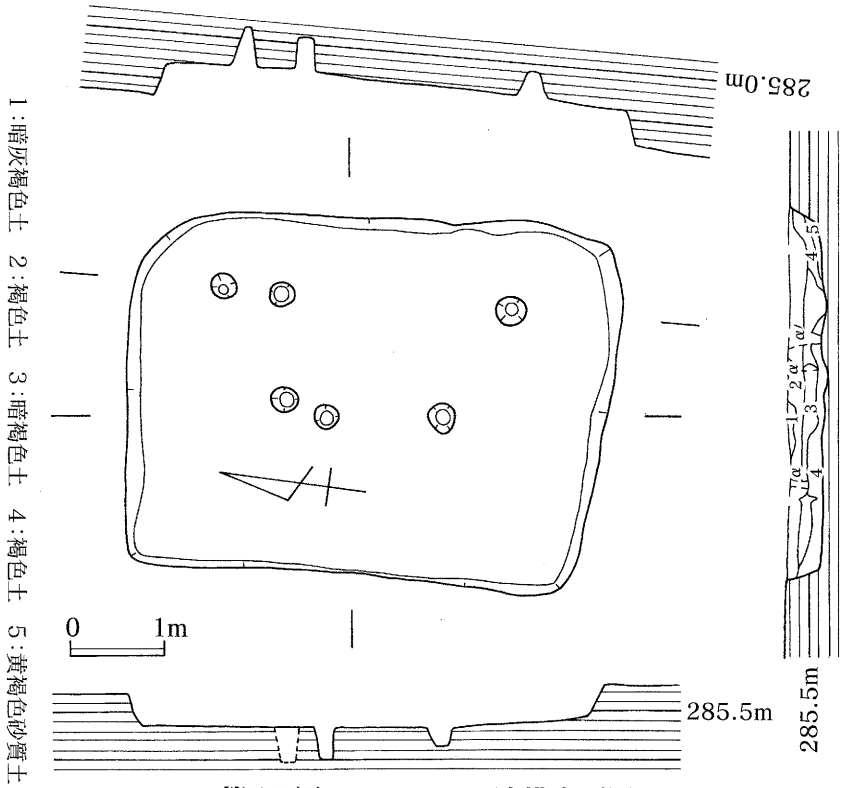
土師器の壷・甕・高坏の破片が中心で、丹塗りの高坏の口縁部が1点出土している。石器は打製石鏃・石匙・スクレイパー・剥片が出土している。

SA－20（第99図、図版32・33・141）

不整形を呈する住居である。床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は径18～30㎝で、深さは25～40㎝である。出土遺物は縄文土器数点と、土師器の甕の口縁部がある。

SA－23（第100図、図版33・34・142・143）

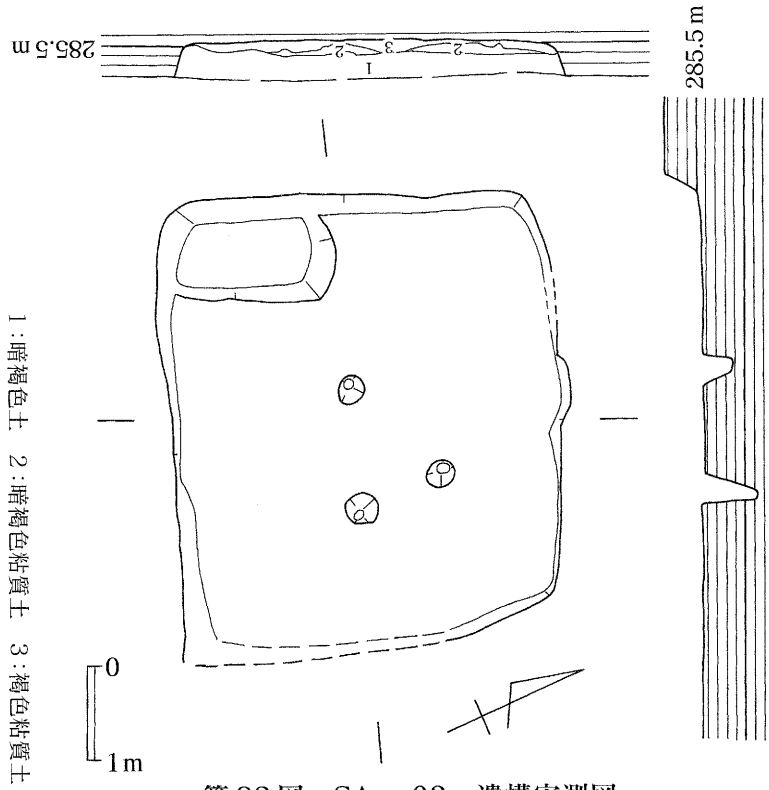
南北5～5.5m、東西5.1～6.3mの方形を呈し、東側にベッド状遺構を有する。検出面からの深さは、ベッド上面で10㎝、床面までは40㎝を測る。柱穴は径20～30㎝、深さ20～50㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の甕・壷・高坏が主に出土している。1578は甕で、口径30㎝、器高29.6㎝を測る。器壁が薄く、胴部に外面から錐状工具での穿孔が複数みられる。丹塗りの壷の口縁と高坏の脚が出土している。また、須恵器の破片1点が出土している。石器は打製石鏃・石匙・石錐・石核（頁岩・黒曜石・チャート）が出土している。



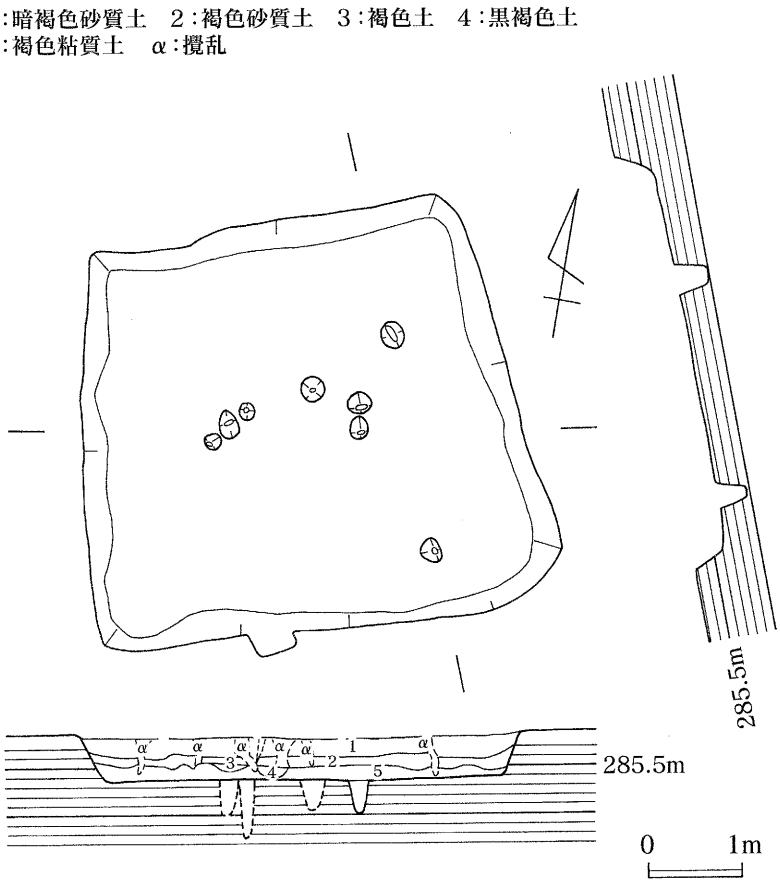
第82図　SA－02　遺構実測図

SA－24（第101図、図版34・35・143）

6.1×5.4mの長方形を呈する。床面までの深さは80㎝を測る。柱穴は径22～32㎝、深さは26～58㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏を中心に多量に出土している。



第83図　SA－03　遺構実測図



第84図　SA－04　遺構実測図

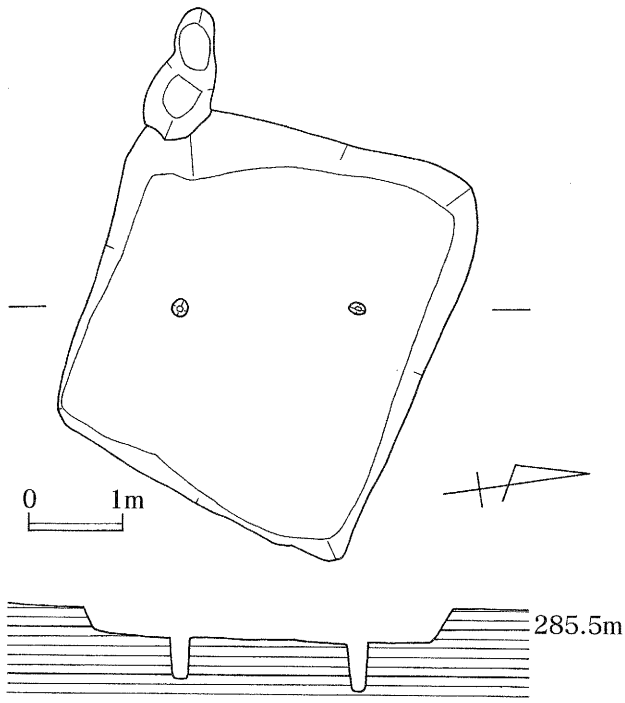
1643は高坏を転用した鞴の羽口である。石器は、打製石鏃・磨製石鏃・石匙・磨製石斧・二次加工の剥片・石核（黒曜石・チャート）・佩帯状砥石（4647）が出土している。住居内から北東隅と北西隅に土坑が検出されたが、遺物は出土しなかった。

SA－25（第102図、図版35・144・145）

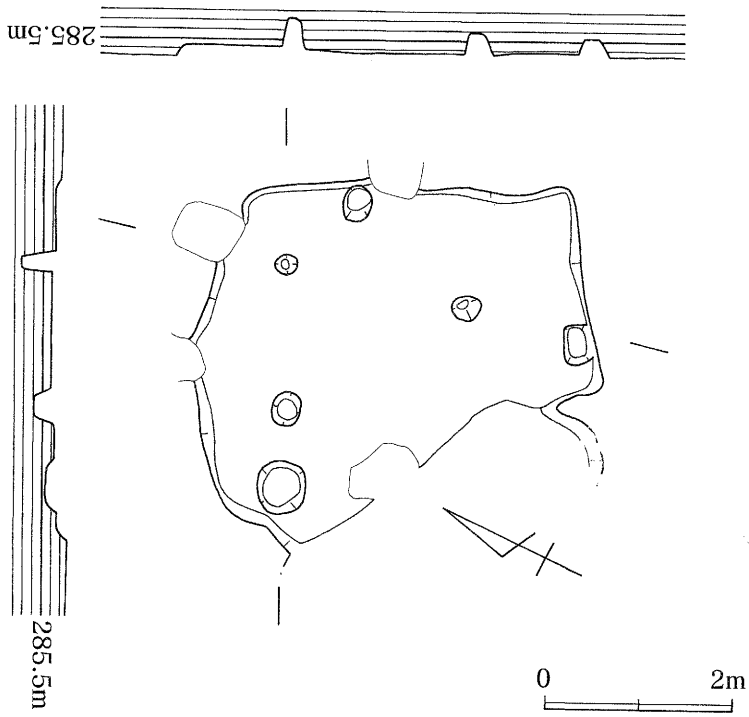
南北5.2m、東西4.8mの西半分が隅丸の住居である。中央南側に炉を持つ。床は貼床で検出面からの深さは48㎝を測る。貼床は薄いところでは5㎝で平均10㎝である。出土遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・坏・高坏が主である。丹塗りの壷の口縁が出土している。石器は西壁付近から玦状耳飾が出土したほか、打製石鏃、石匙、石錐、磨製石斧、石核（黒曜石）、台石が出土している。

SA－26（第103図、図版36・146）

南北4.5m、東西5.1mの長方形を呈する住居である。床は貼床で検出面からの深さは、58㎝を測る。貼床の厚さは20㎝である。柱穴は径20～34㎝、深さ20～70㎝を測る。出土遺物は縄文土器数点と、土師器の壷・甕・高坏が主である。石器は石匙・スクレイパー・台石が出土している。



第85図　SA－05　遺構実測図



第86図　SA－06　遺構実測図

SA－27（第119図、図版37・147）

4.2×4.6mの長方形を呈する住居である。床は貼床で厚さ10～20㎝を測る。検出面から床面までの深さは50㎝を測る。柱穴は7個で、径16～30㎝、深さ30㎝を測る。出土遺物は縄文土器数点と、土師器の壷・甕・高坏が主で、丹塗りの壷の口縁、高坏の坏部、脚部が出土している。石器は打製石鏃・磨製石鏃・スクレイパーが出土している。

SA－28（第120図、図版37・38・148）

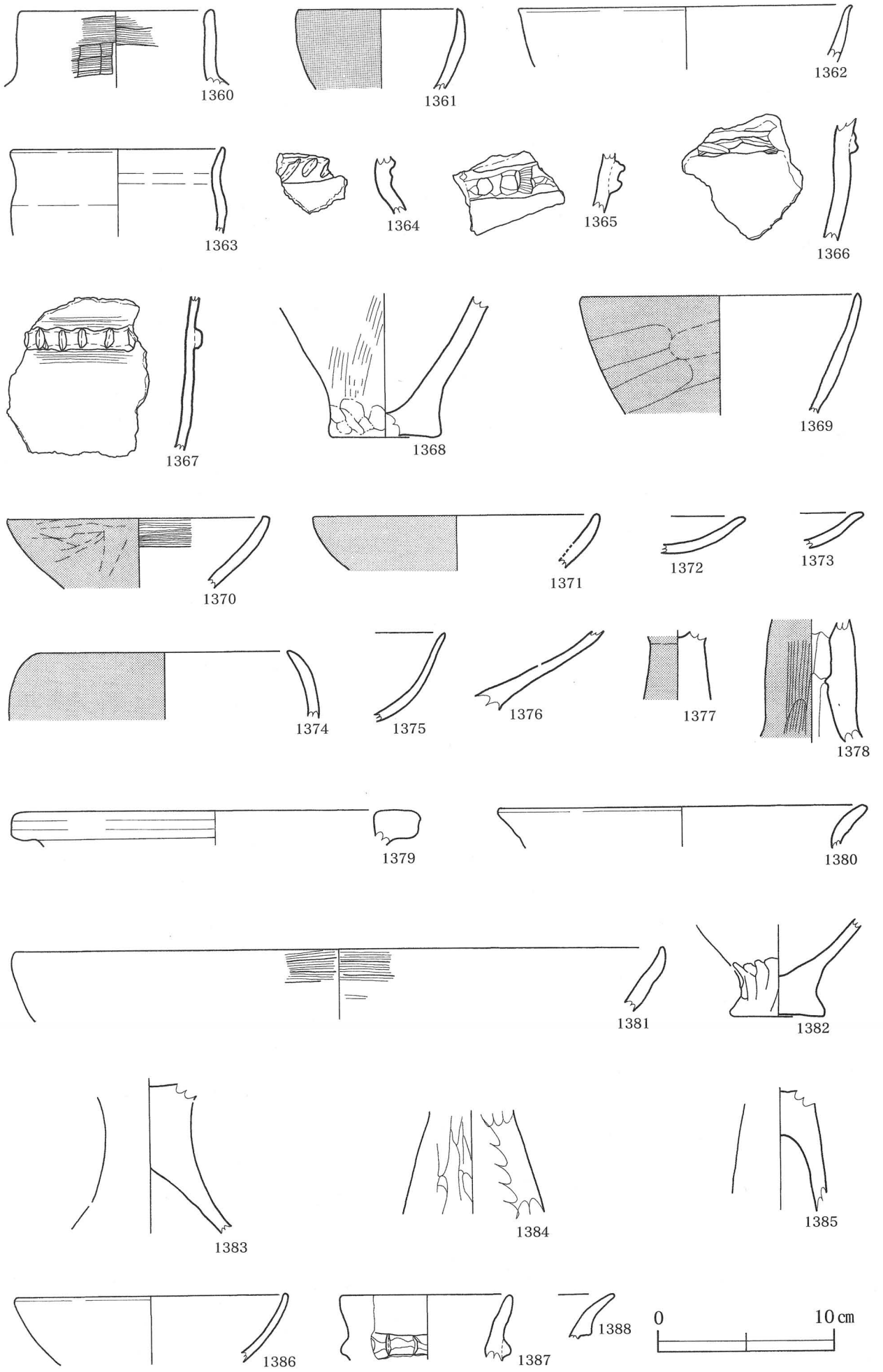
南北4.8m、東西5mの方形を呈し、床面までの深さは54㎝を測る。柱穴は1個で、径30㎝、深さ20㎝である。遺物は少ないが、縄文土器数点と、土師器の壷・甕・高坏が出土している。石器は打製石鏃・石匙・石核（チャート）・台石が出土している。

SA－29（第121図、図版38・39・148）

東西6.2m、南北5mの長方形を呈し、床面までの深さ36㎝を測る。柱穴は4個で径20～28㎝、深さ40～65㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・坏・高坏が出土している。また、丹塗りの高坏が1点出土している。石器は打製石鏃・スクレイパー・二次加工のある剥片・打製石斧・石鍬が出土している。

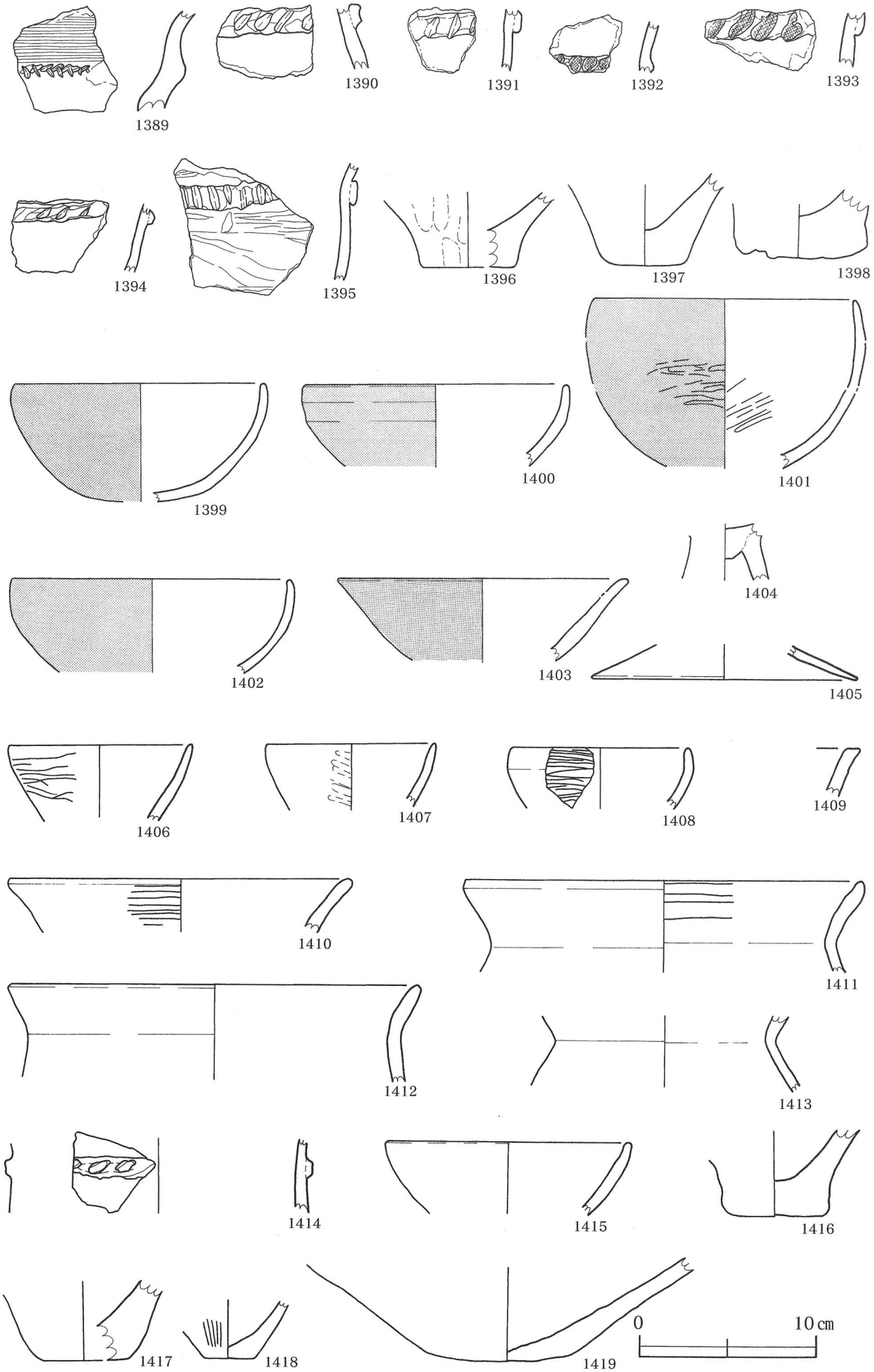
SA－30（第122図、図版39・149・150）

4.4×4.2mの2段掘りの住居で、床面までの深さ50～68㎝を測る。柱穴は径25㎝で深さ30～55㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器が多量に出土しており、器種は甕・高坏がみられる。石器は打製石鏃が出土している。



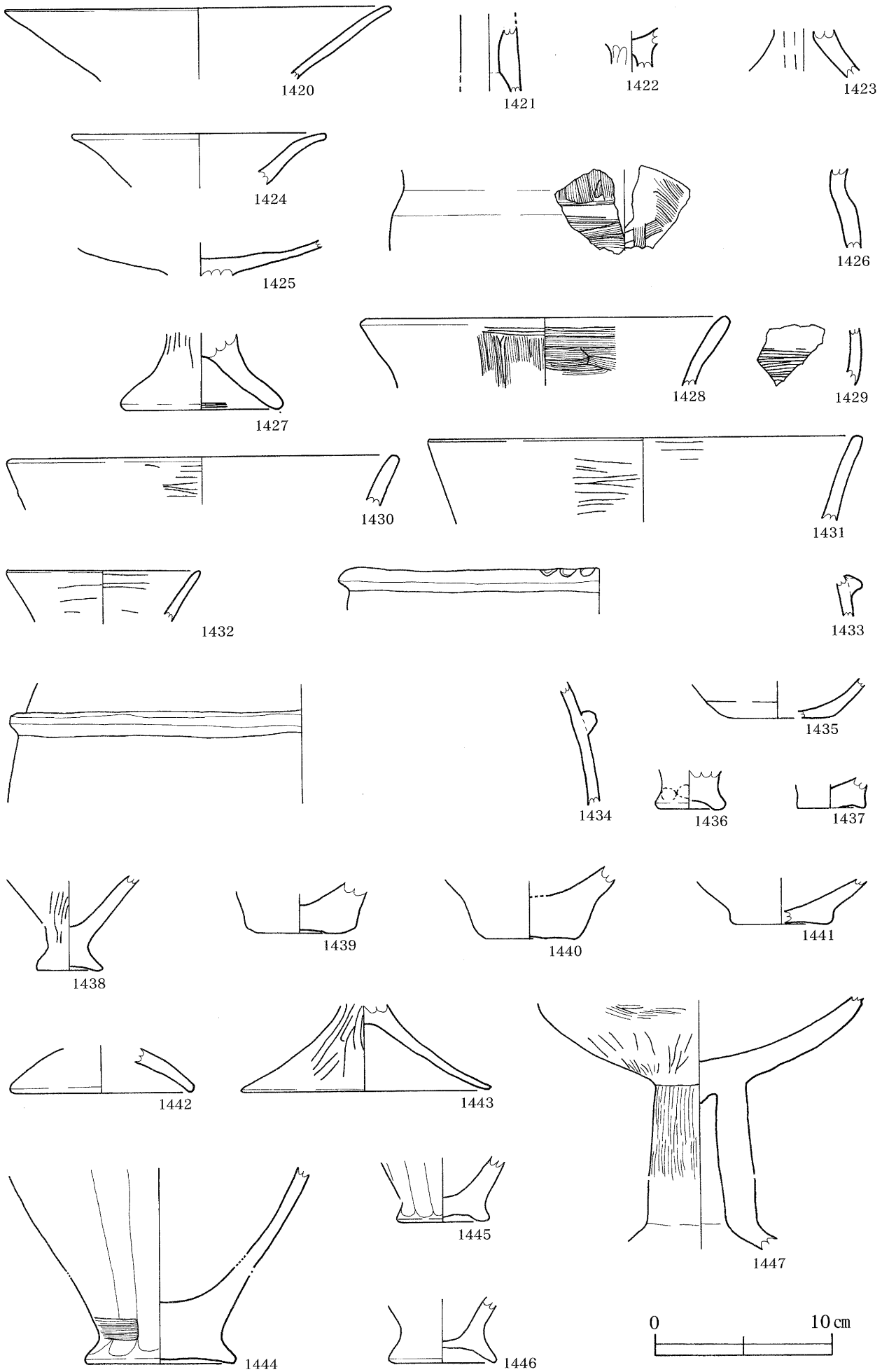
第87図　SA出土遺物実測図（22）

1360～1378：SA-01、1379～1385：SA-02、1386～1388：SA-03

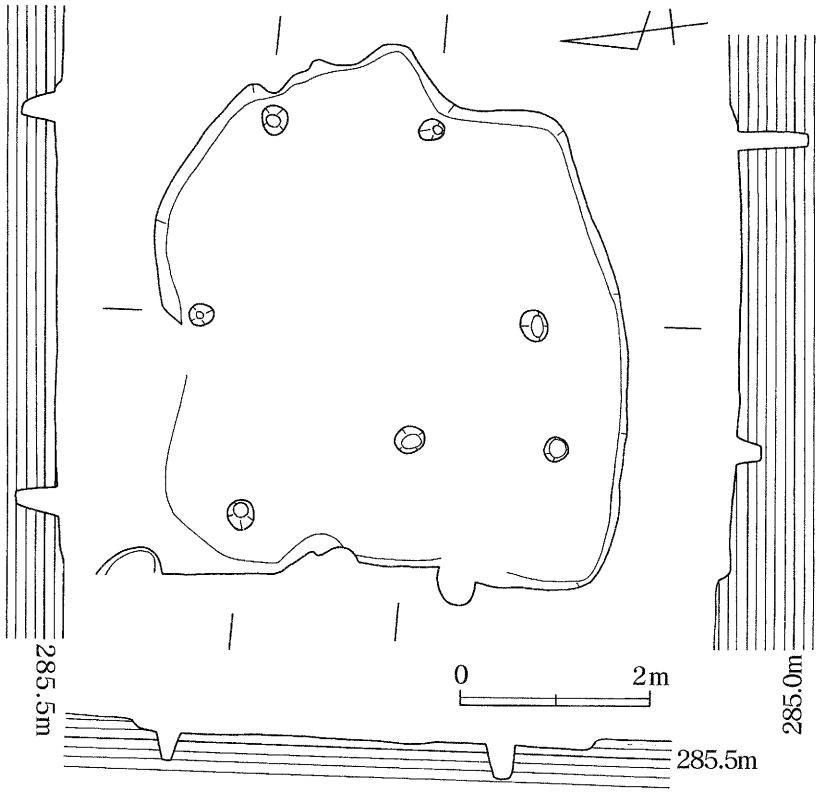


第88図　SA出土遺物実測図（23）

1389～1405：SA-03、1406～1419：SA-04

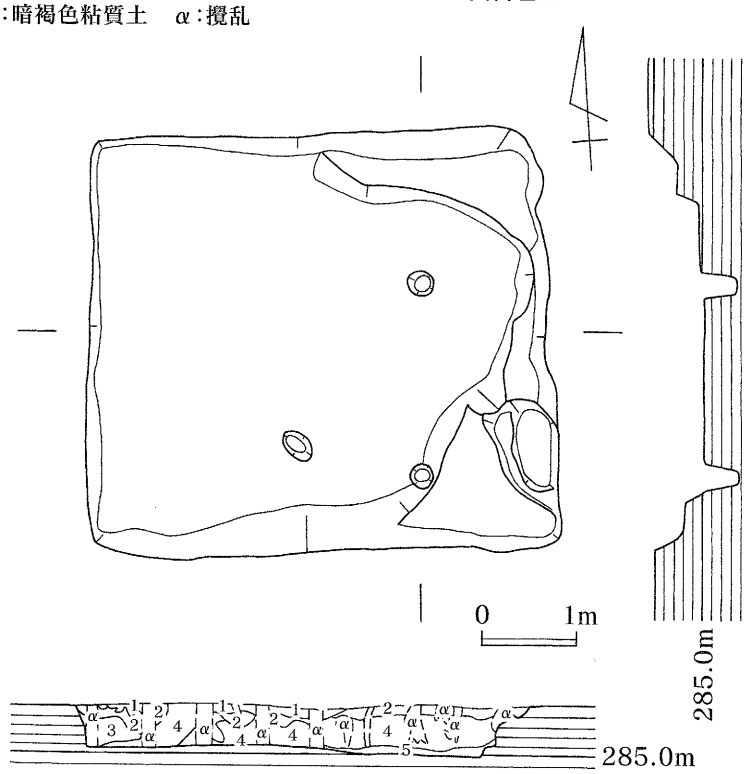


第89図　SA出土遺物実測図（24）　1420～1425・1427：SA-04、1426：SA-05、1428～1429：SA-07、1444～1447：SA-08



第90図　SA－07　遺構実測図

1：暗褐色砂質土　2：暗褐色土　3：褐色土　4：黄褐色土
5：暗褐色粘質土　α：攪乱



第91図　SA－08　遺構実測図

SA－31（第122図、図版10・150）

4.8×5m、検出面から床面までの深さ62㎝を測る。柱穴は径26～30㎝、深さ30㎝を測る。遺物は土師器が出土しており、器種は甕・壷・高坏がみられる。

SA－33（第123図、図版40）

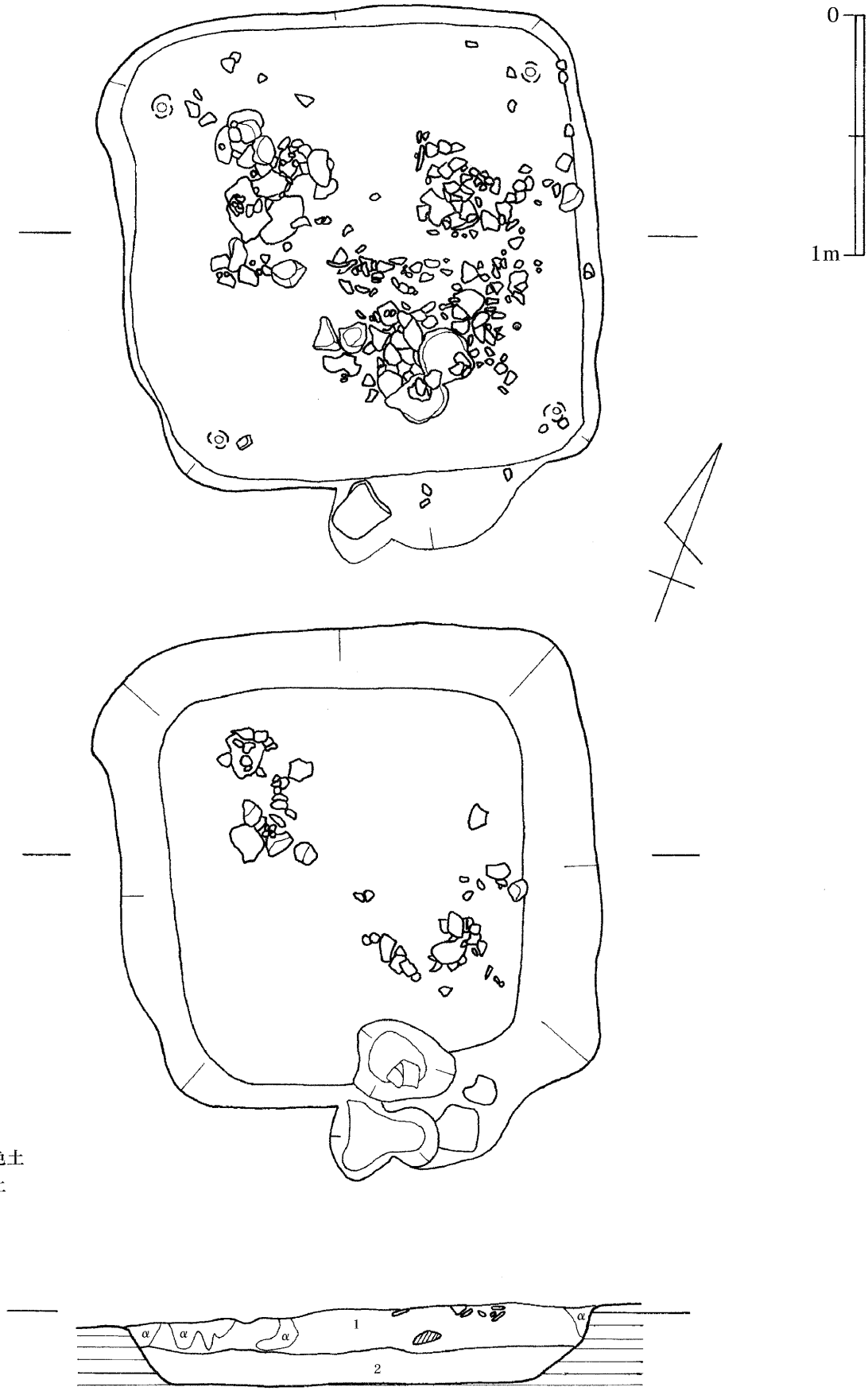
4.1×4mの方形を呈し、床面までの深さは38㎝を測る。出土遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏が主である。1922は坏で、口径13.8㎝、器高6.7㎝で外器面に丹が塗ってある。石器は打製石鏃・磨製石鏃・石皿が出土している。

SA－34（第124図、図版40・41・151）

4.1×3.7mの方形を呈し、床面までの深さは55㎝を測る。柱穴は2個で、径16～24㎝、深さ30～38㎝である。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏が主に出土しており、石器は打製石鏃・石核（黒曜石）が出土している。

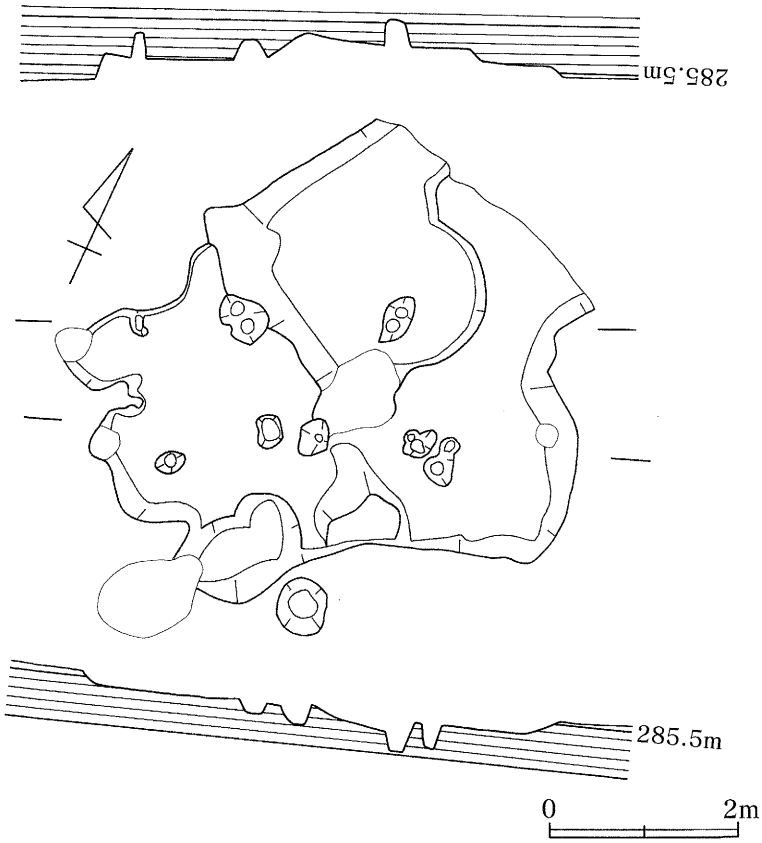
SA－36（第125図、図版41・152）

4.1×4mの方形を呈し、検出面から床面までの深さ40㎝を測る。柱穴は2個で、径18㎝、深さ14～24㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏が主に出土し、丹塗りの高坏の脚が1点出土している。石器は打製石斧と石核（黒曜石）が出土している。

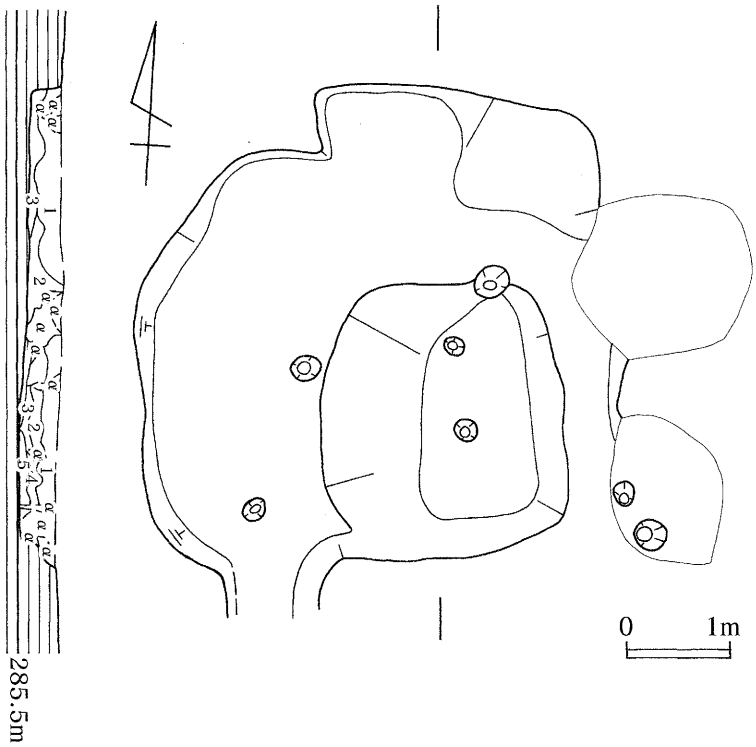


第92図　SA－09　遺構実測図

SA－37（第126図、図版41・42・152・153）



第93図　SA－10　遺構実測図



1：暗褐色土　2：褐色土　3：暗褐色土　4：明赤褐色土
5：暗褐色土　α：攪乱

第94図　SA－14　遺構実測図

3.9×3.5mの長方形を呈し、検出面から床面までの深さ38cmを測る。遺物は土師器の甕を中心として、壷、高坏が出土し、丹塗りの壷の体部が2点ある。1976は甕で、口径22.6cm、器高22.8cmを測る。石器は台石が出土している。

SA－38（第127図、図版42・154）

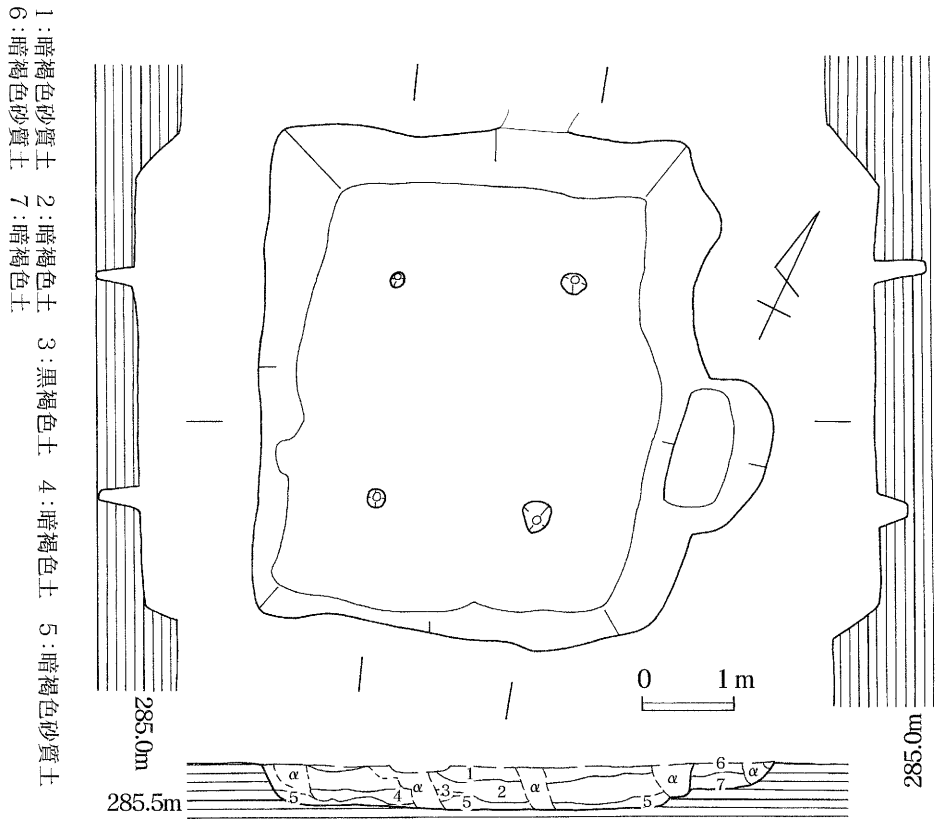
4.4×4.3mの方形の住居で、床面までの深さは63cmを測る。柱穴は径22～28cm、深さ26～36cmである。遺物は少ないが、縄文土器が数点と、土師器が出土し、丹塗りの高坏の坏部が出土している。石器は打製石鏃・磨製石斧・石匙が出土している。

SA－39（第128図、図版42・43・153）

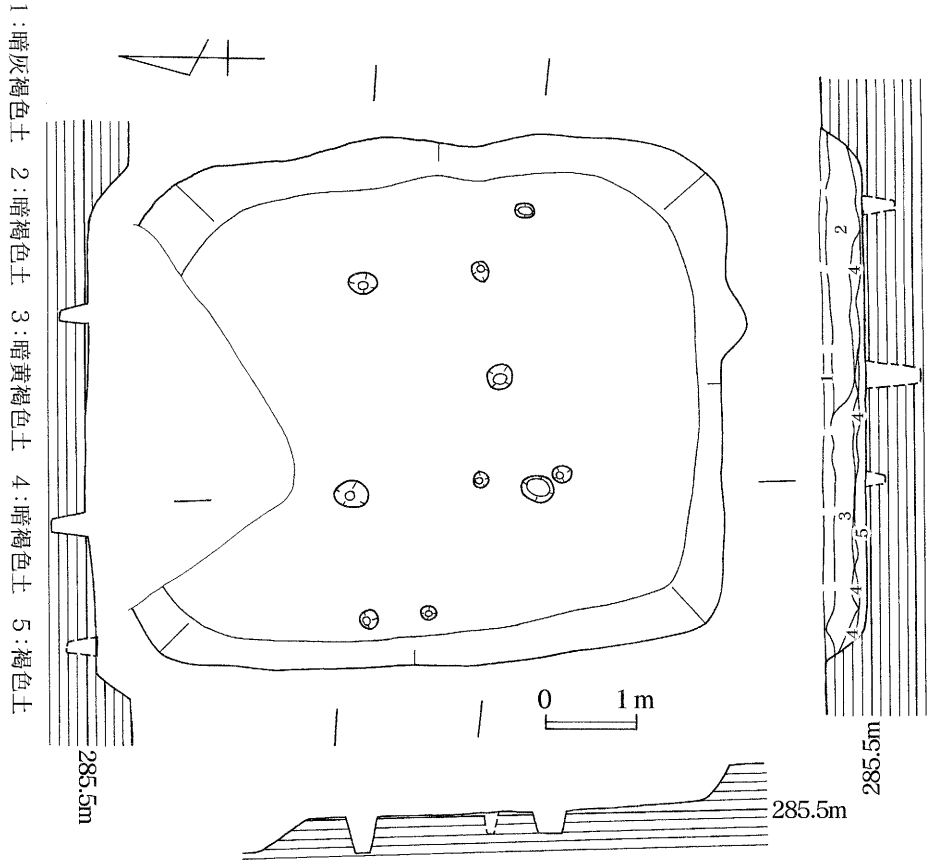
1辺が3.3mの方形を呈する住居で、床面までの深さは40cmを測る。柱穴は5個で、径20～40cm、深さ18～120cmを測る。出土遺物は少ないが、縄文土器が数点と須恵器の甕の破片が1点出土している。

SA－40（第129図、図版44・153）

2.8×2.3mの方形を呈し、検出面から床面までの深さは28cmを測る。柱穴は2個で、径20～30cm、深さ40cmを測る。出土遺物は、土師器が数点と須恵器の甕の破片1点と、打製石鏃・石錐が1点ずつである。



第95図　SA－16　遺構実測図



第96図　SA－17　遺構実測図

SA－41（第130図、図版43・154）

推定で3.4×2.75mの方形を呈し、床面までの深さ54㎝を測る住居である。柱穴は3個で、径20～24㎝、深さ40㎝を測る。出土遺物は土師器数点と、石匙・台石が各1点である。

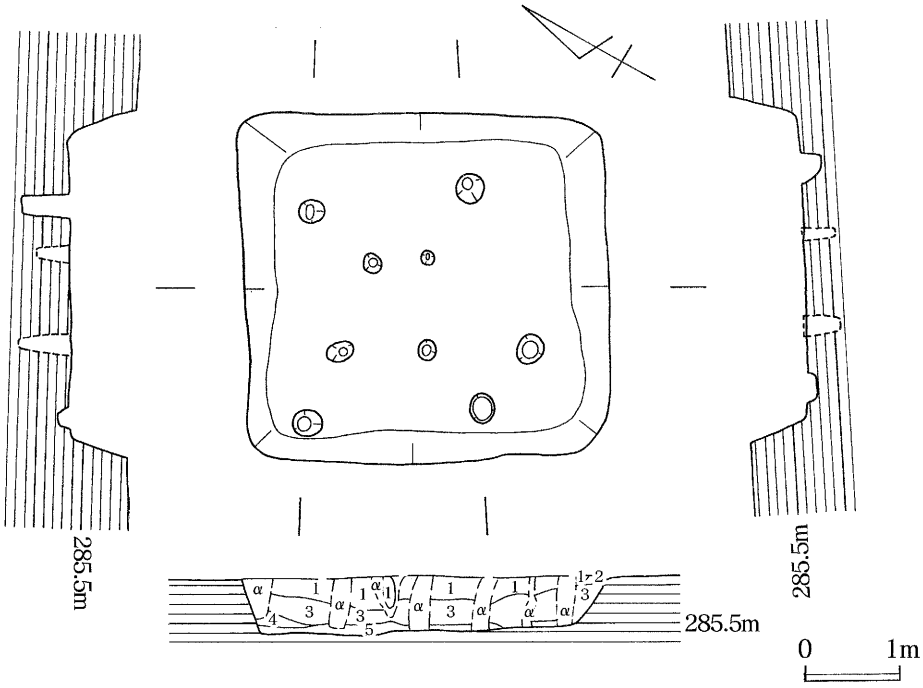
SA－43（第131図、図版45・155）

3.76×3.84mの方形を呈し、床面までの深さは62㎝を測る。柱穴は径18～38㎝、深さ20～30㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏が多く出土しており、石器は打製石鏃・磨製石鏃・石匙・石錐が出土している。

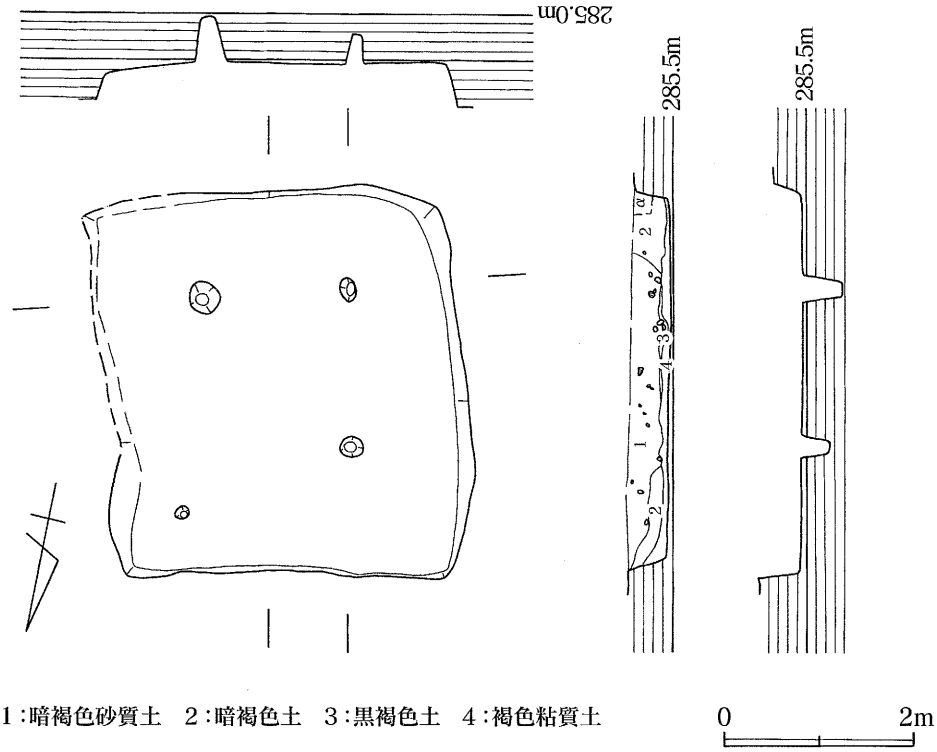
SA－44（第132図、図版45・46・155・156）

南北3.1m、東西3.4mの方形を呈する2段掘りの住居である。床面までの深さは52㎝を測る。柱穴はない。遺物は少量で、縄文土器が数点と、土師器の丹塗りの高坏の坏部が出土している。また、須恵器の甕の破片が1点出土してい

1：暗褐色砂質土　2：暗褐色土　3：暗黄褐色土　4：黒褐色土　5：褐色・黄褐色土



第97図　SA－18　遺構実測図



1：暗褐色砂質土　2：暗褐色土　3：黒褐色土　4：褐色粘質土

第98図　SA－19　遺構実測図

る。石器は打製石鏃・石匙・石錐・磨製石斧・石核（黒曜石）が出土している。

SA－45（第148図、図版46・157）

5.4×6mの方形を呈し、東壁から南壁にかけてベッド状遺構を有する住居である。検出面から床面までの深さは40㎝を測る。出土遺物は少量で、石器は磨石が出土している。

SA－46（第149図、図版44・157）

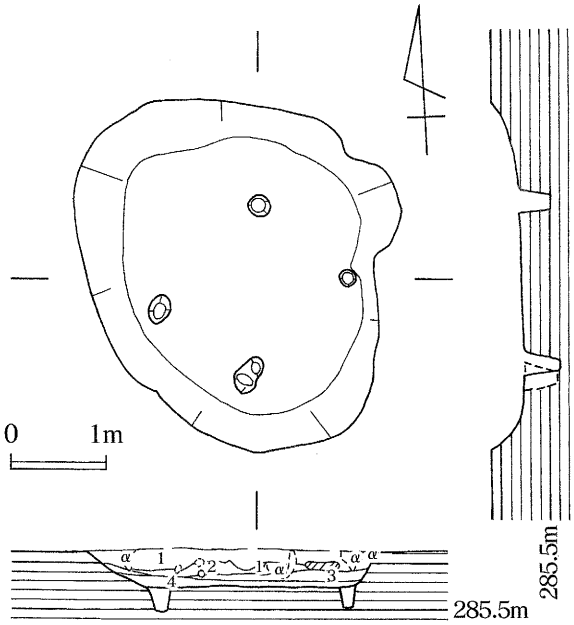
3.52×3mの住居で、検出面から床面までの深さは36㎝を測る。柱穴は1個で、径32㎝、深さ44㎝を測る。出土遺物は少量で、縄文土器が数点と土師器が出土している。石器はスクレイパーが出土している。

SA－47（第150図、図版47・157・158）

南北4.5m、東西4～4.7mの方形を呈する住居である。床面までの深さ56㎝を測る。柱穴は径20～40㎝、深さ22～30㎝を測る。出土遺物は縄文土器が数点と、土師器が壷・甕・高坏を中心にして多く出土しており、弥生土器も僅かながら出土している。石器は打製石鏃・石匙・スクレイパー・剥片・敲石が出土している。

SA－50（第47図、図版47・48・158）

1：暗褐色砂質土　2：褐色土　3：黒褐色土　4：褐色粘質土

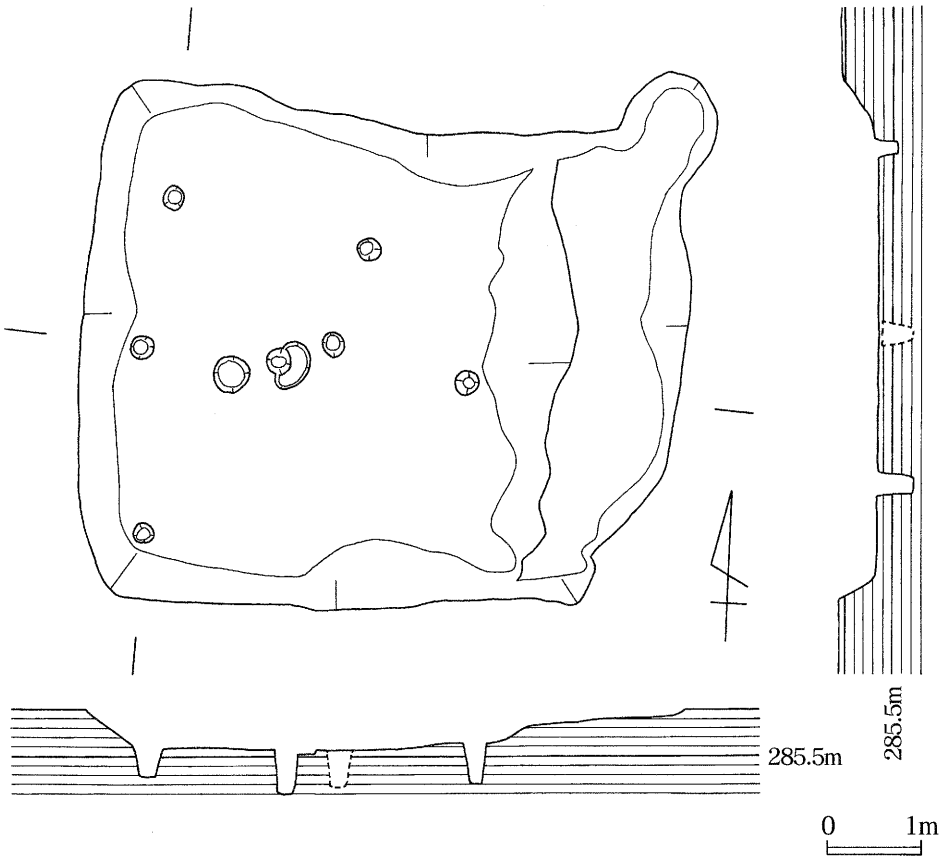


第99図　SA－20　遺構実測図

Ⅰ区西壁に検出された住居で、1辺4mの正方形を呈する。検出面から床面までの深さ64㎝を測る。また、床面に径1.4m、深さ24㎝の円形の穴がみられる。この穴は、壁際に掘り込みがみられ、断面に幅6㎝の炭化物が確認されることから、板状のものを壁に貼り付けていたように思われる。出土遺物は少ない。

SA－52（第151図、図版48・49・159・160）

南北4.5m、東西4.3mの方形を呈し、検出面から床面までの深さは30㎝を測る。柱穴は2個で、径18～32㎝、深さ40㎝を測る。住居内からは、土師器の壷・高坏が多く出土しており、コップ型土器が1点出土している。また、住居中央部西側の柱穴に南接するピットの底から、ほぼ完形の丹塗りの鉢（2178）が出土した。石器は、打製石鏃・磨製石鏃・石包丁・スクレイパーが出土している。



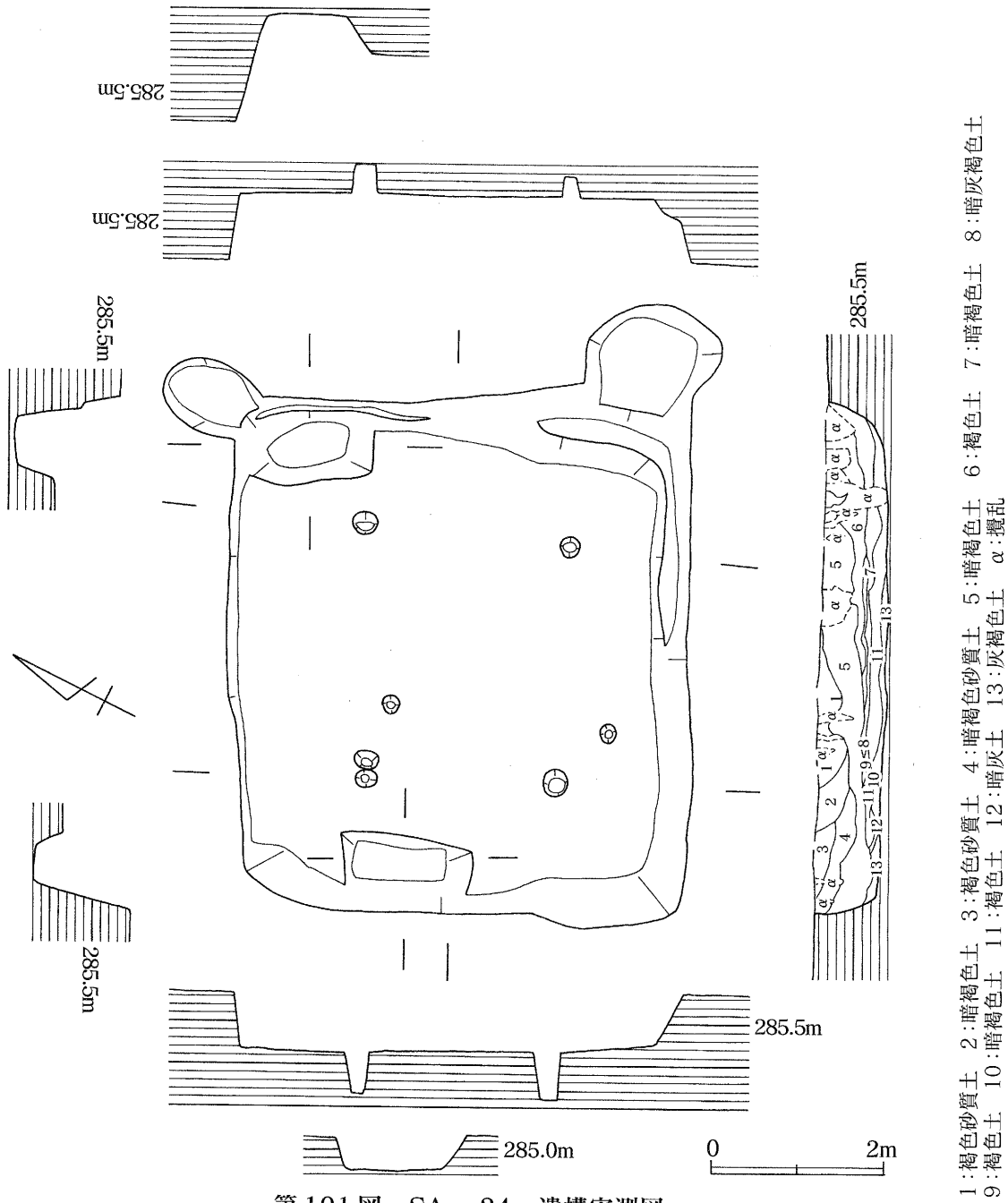
第100図　SA－23　遺構実測図

SA－54（第152図、図版49・160）

3.26×3.96mの方形を呈し、検出面から床面までの深さは34㎝を測る。柱穴はない。出土遺物は、小型の壷を中心に甕・高坏・台付鉢がある。石器は台石が出土している。

SA－55（第153図、図版49・50・160・161）

3.54×3.7mの方形を呈し、床面までの深さは80㎝を測る。住居の南東壁の中央部には幅90㎝、長さ96㎝の突出

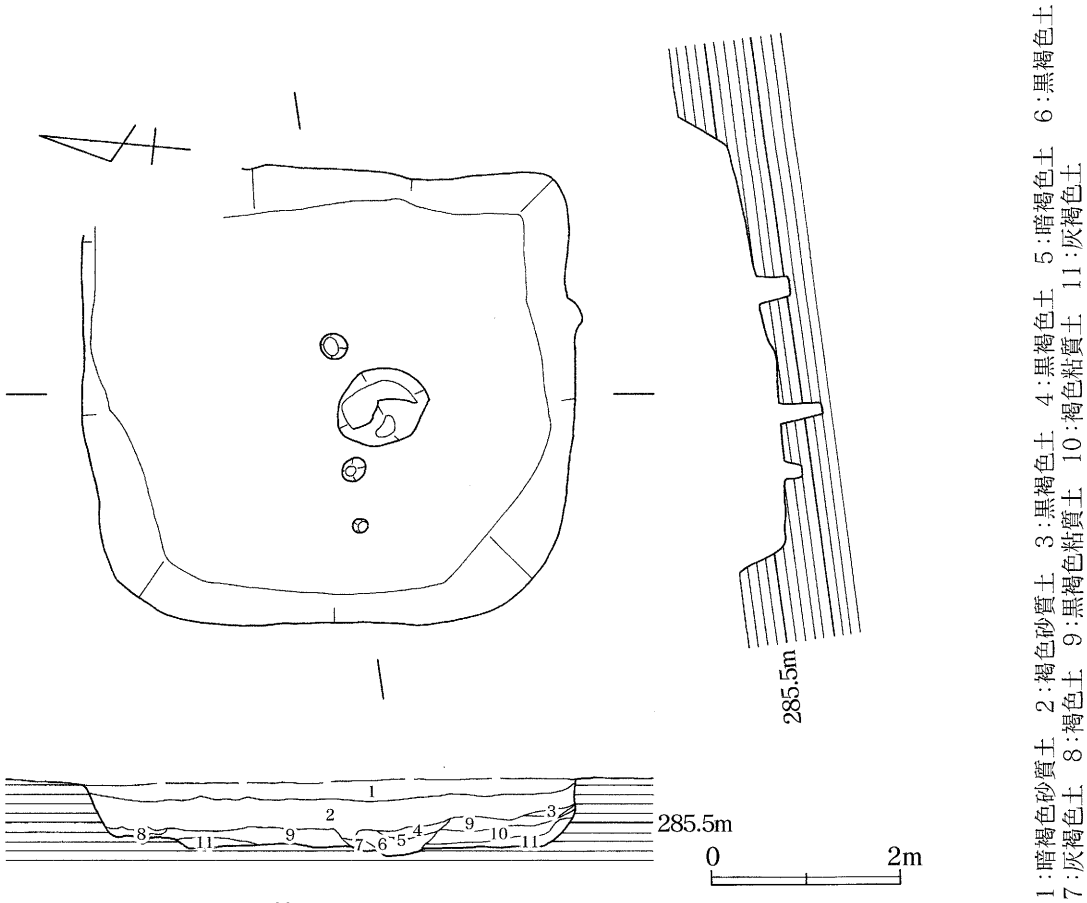


第101図　SA－24　遺構実測図

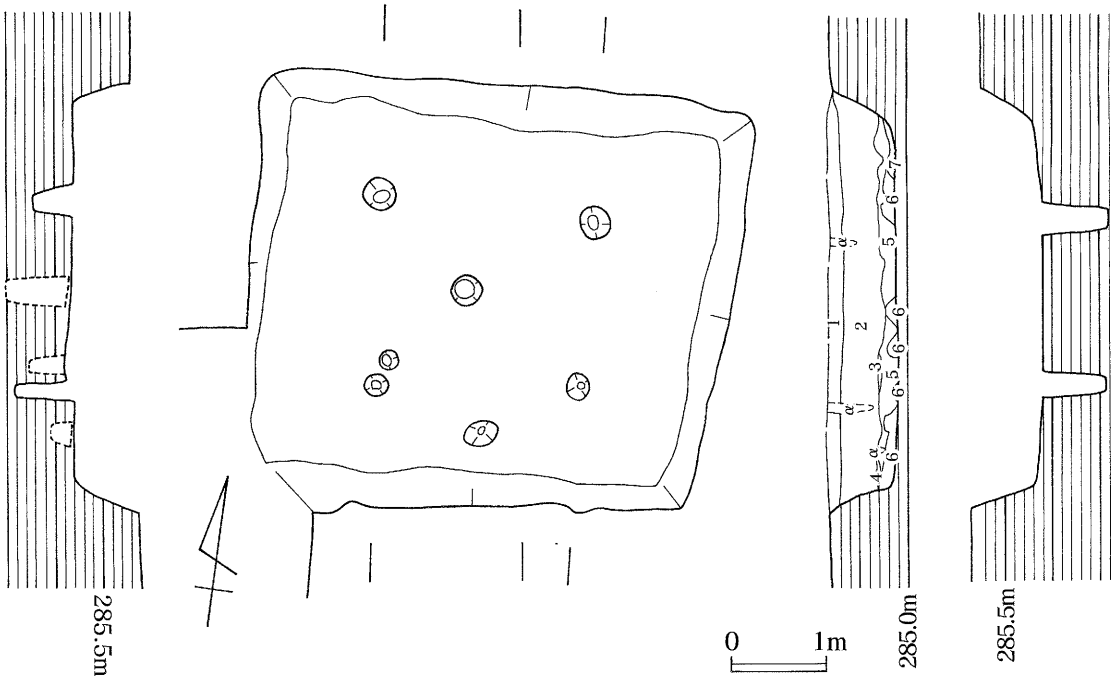
した部分があり、おそらく入り口と思われる。床は貼床で、厚さ10～20㎝を測る。柱穴は径14～28㎝、深さ24～38㎝を測る。出土遺物は高坏を中心として、壷・甕が出土している。石器は石匙が1点出土している。

SA－56（第154図、図版50・161・162）

Ⅰ区の北中央の壁際にかかっていた住居で、検出面から床面までの深さは46㎝を測る。柱穴は1個で、径28㎝、深さ16㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕類が多く、丹塗りの壷・鉢が出土している。また、手捏ね土器が1点出土している。石器は石匙・磨石・石核（黒曜石）が出土している。



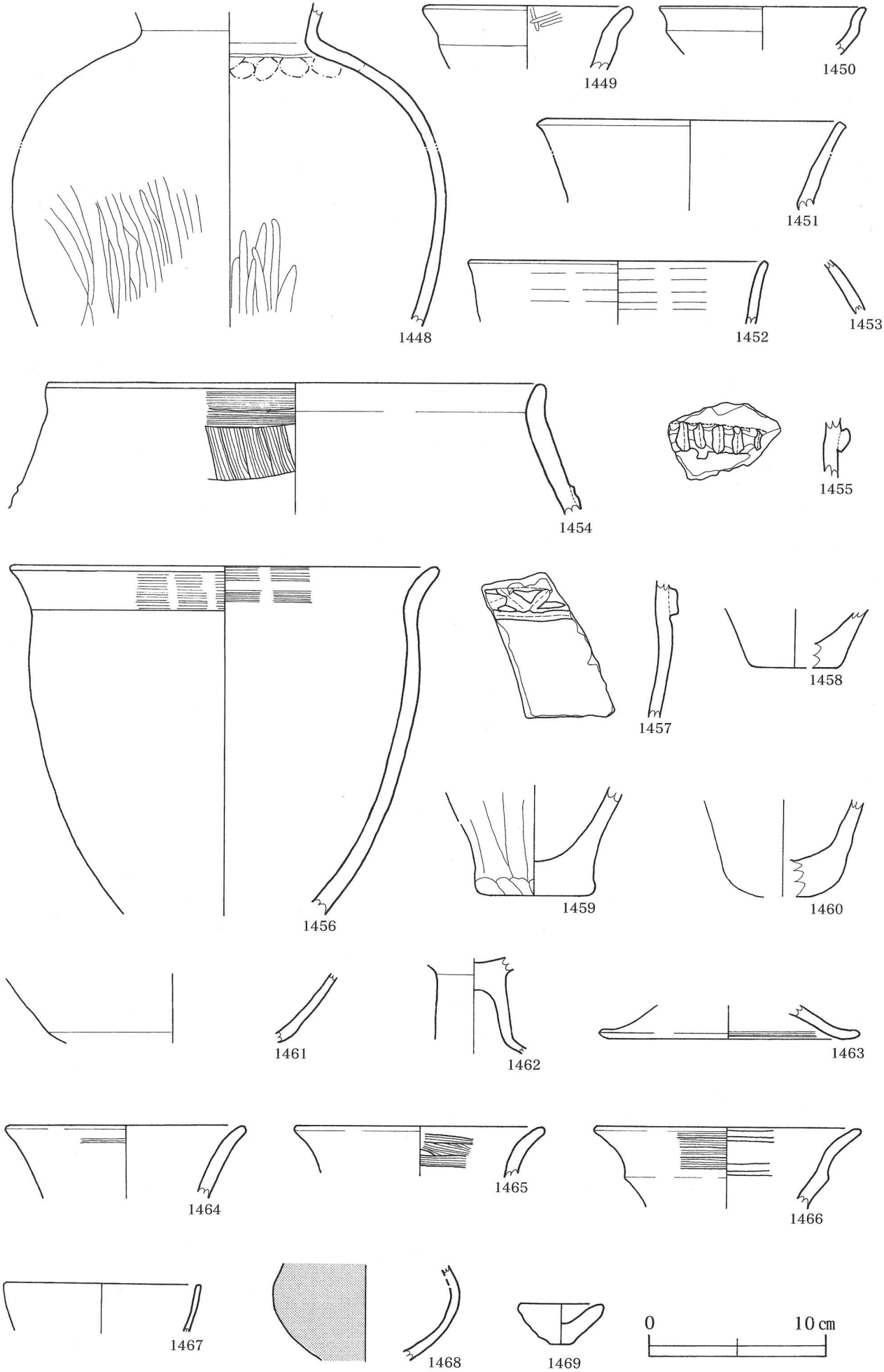
第102図　SA－25　遺構実測図



第103図　SA－26　遺構実測図

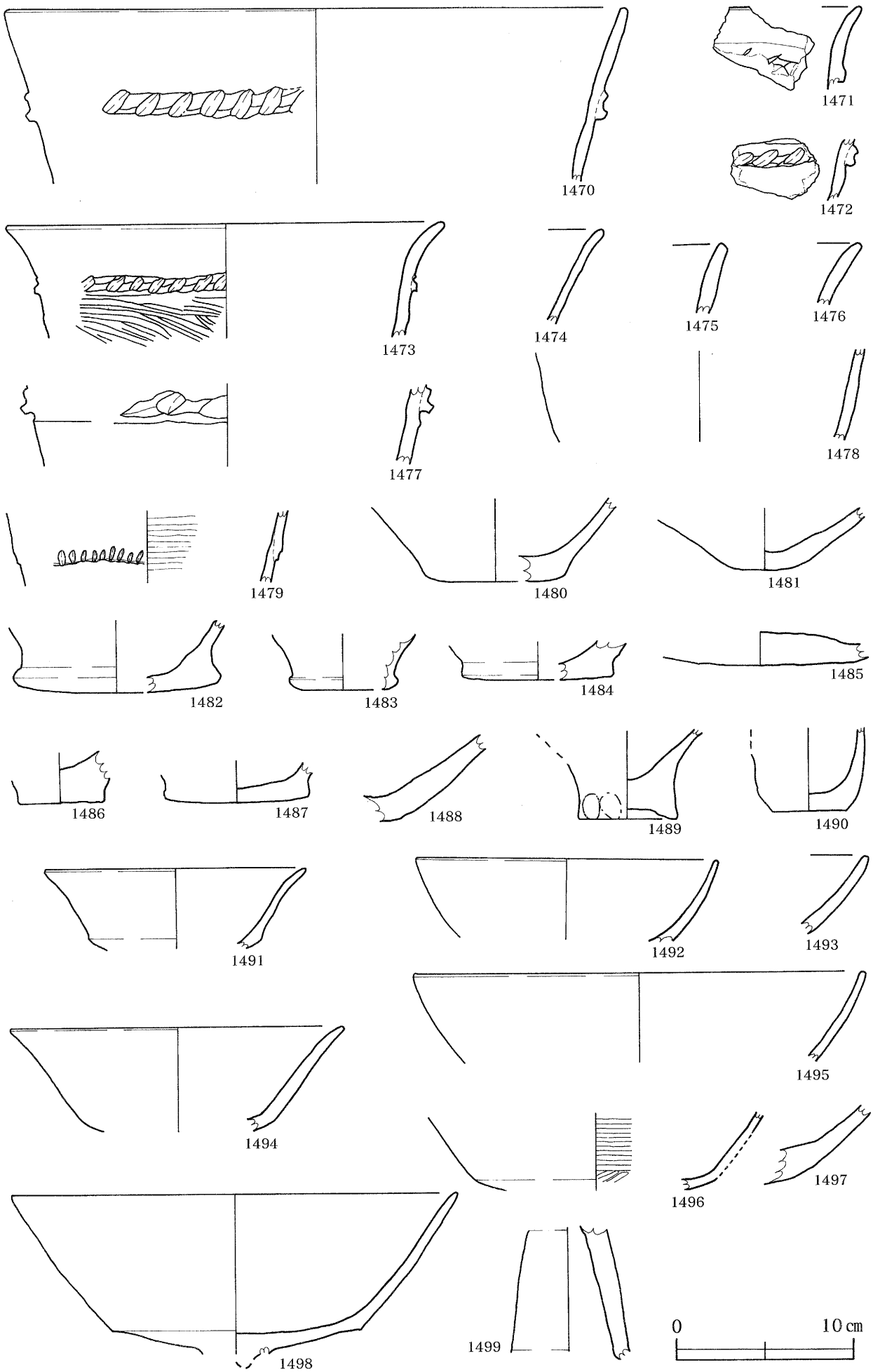
SA－59（第155図、図版51・162・163・164・165）

Ⅰ区の中央部の壁際にかかっていた住居である。床面までの深さは80㎝を測る。床は貼床で、厚



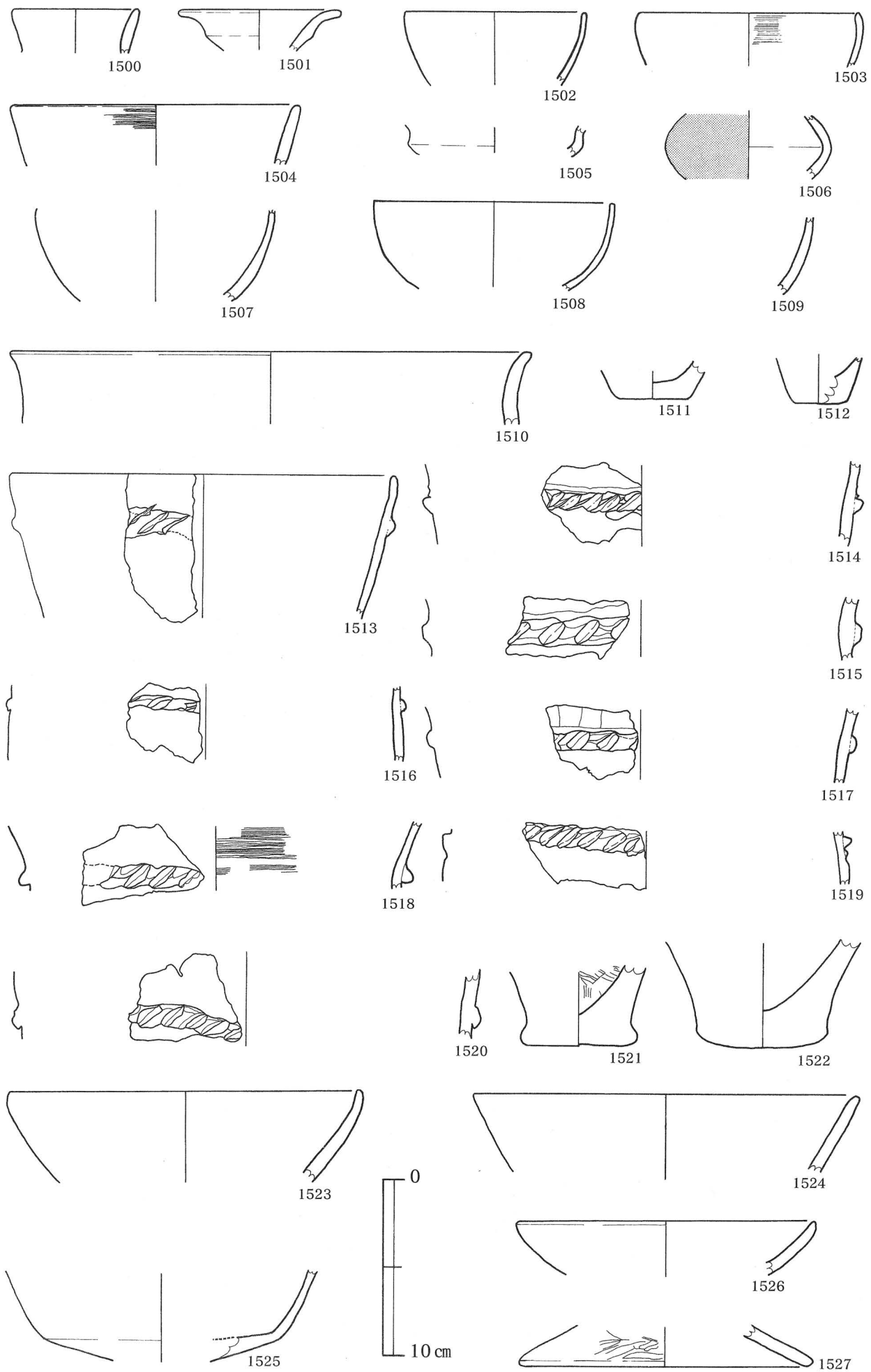
第104図　SA出土遺物実測図（25）

1448～1463：SA-16、1464～1469：SA-17



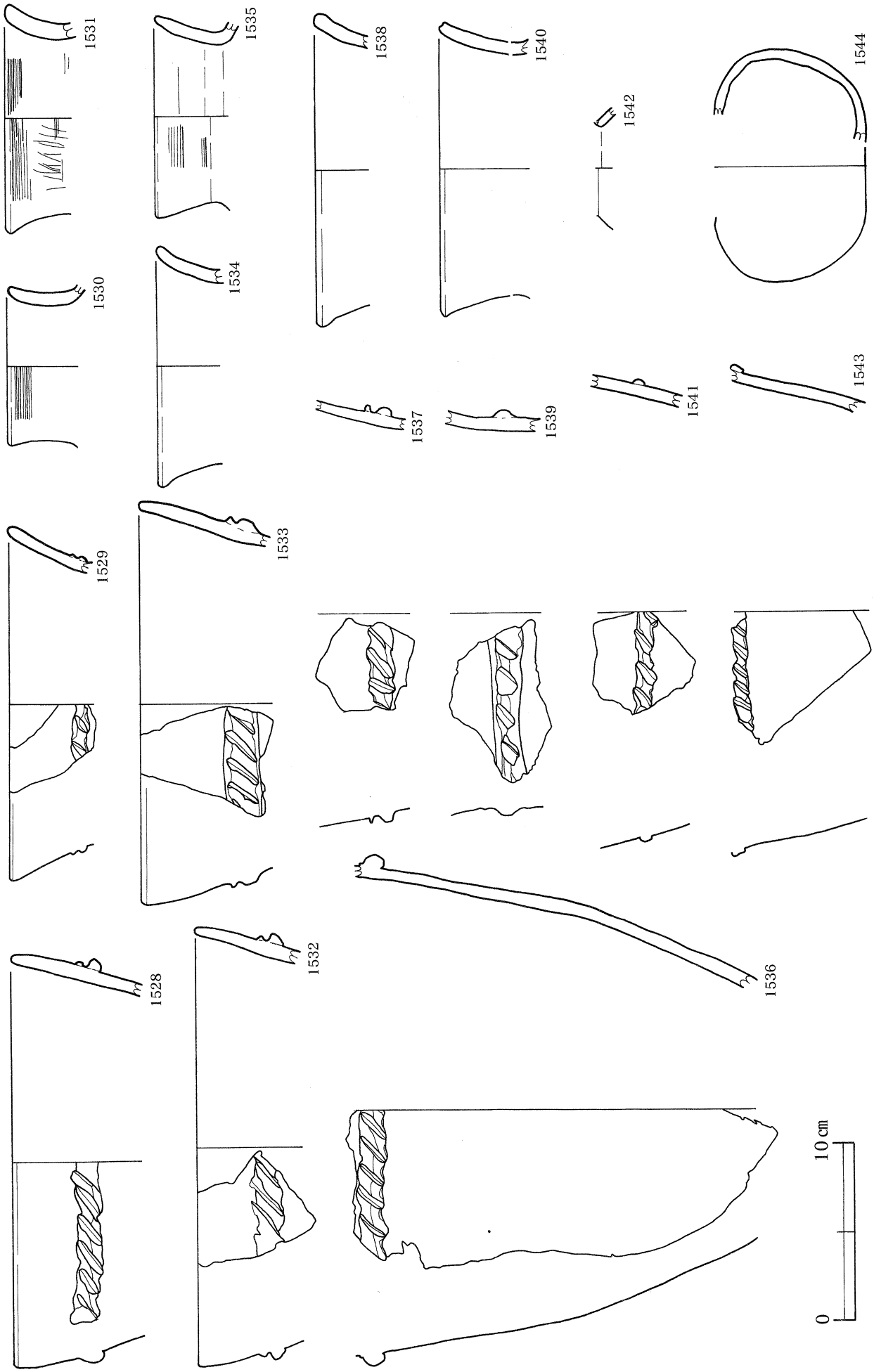
第105図　SA出土遺物実測図（26）

1470～1499：SA-17



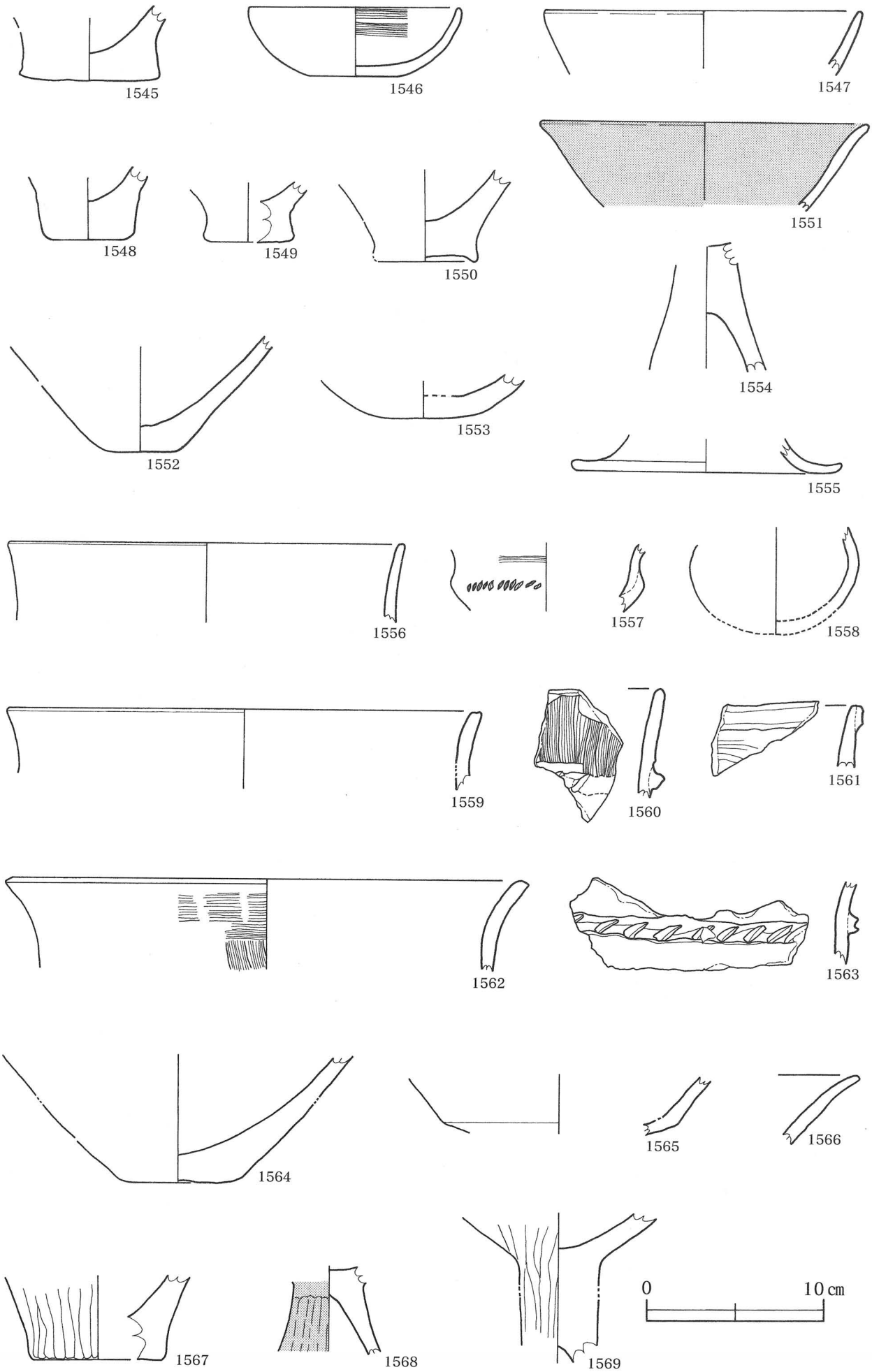
第106図　SA出土遺物実測図（27）

1500～1527：SA-18

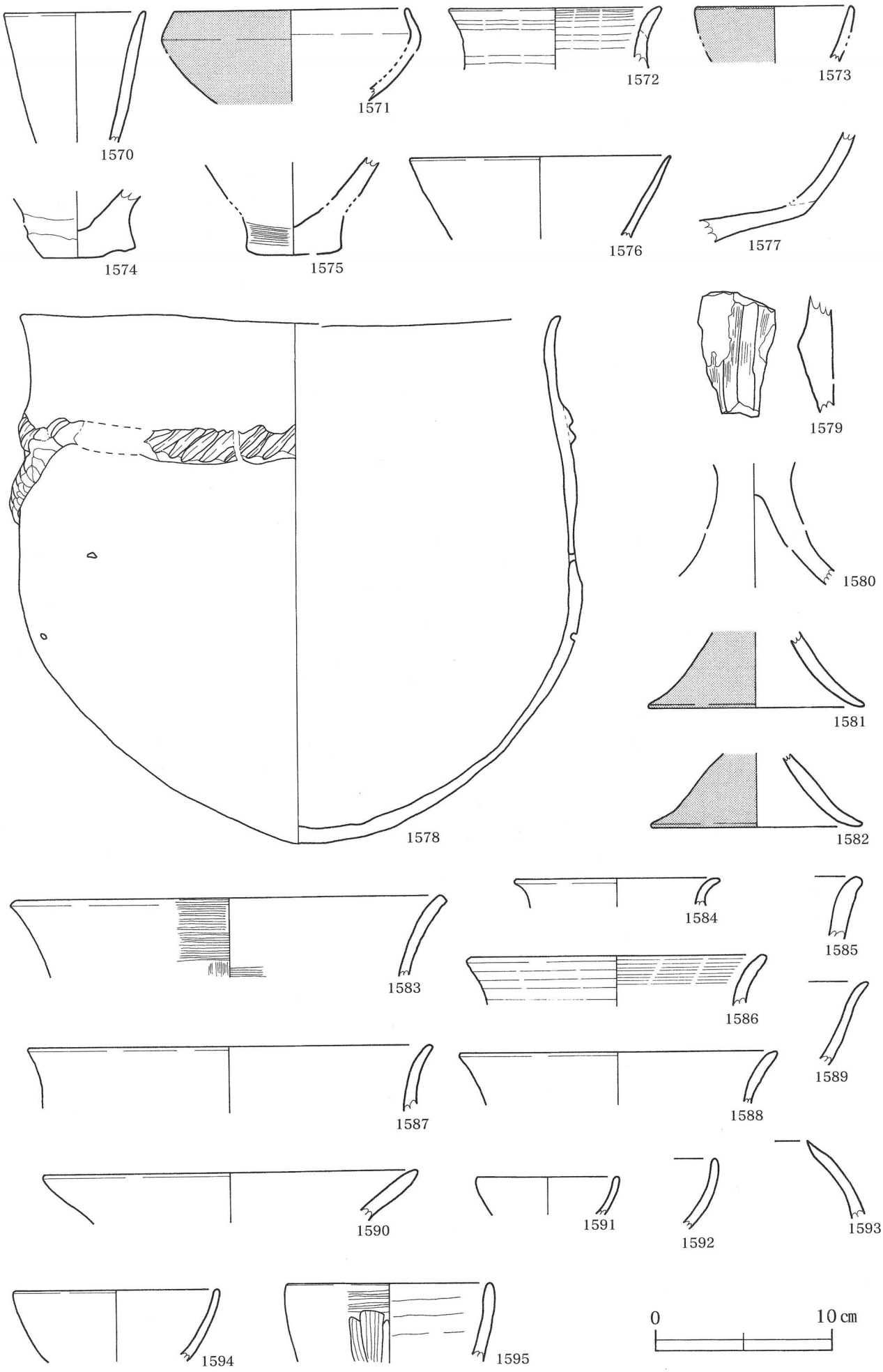


第107図　SA出土遺物実測図（28）

1528～1537・1539・1541～1544：SA-19、1538・1540：SA-20

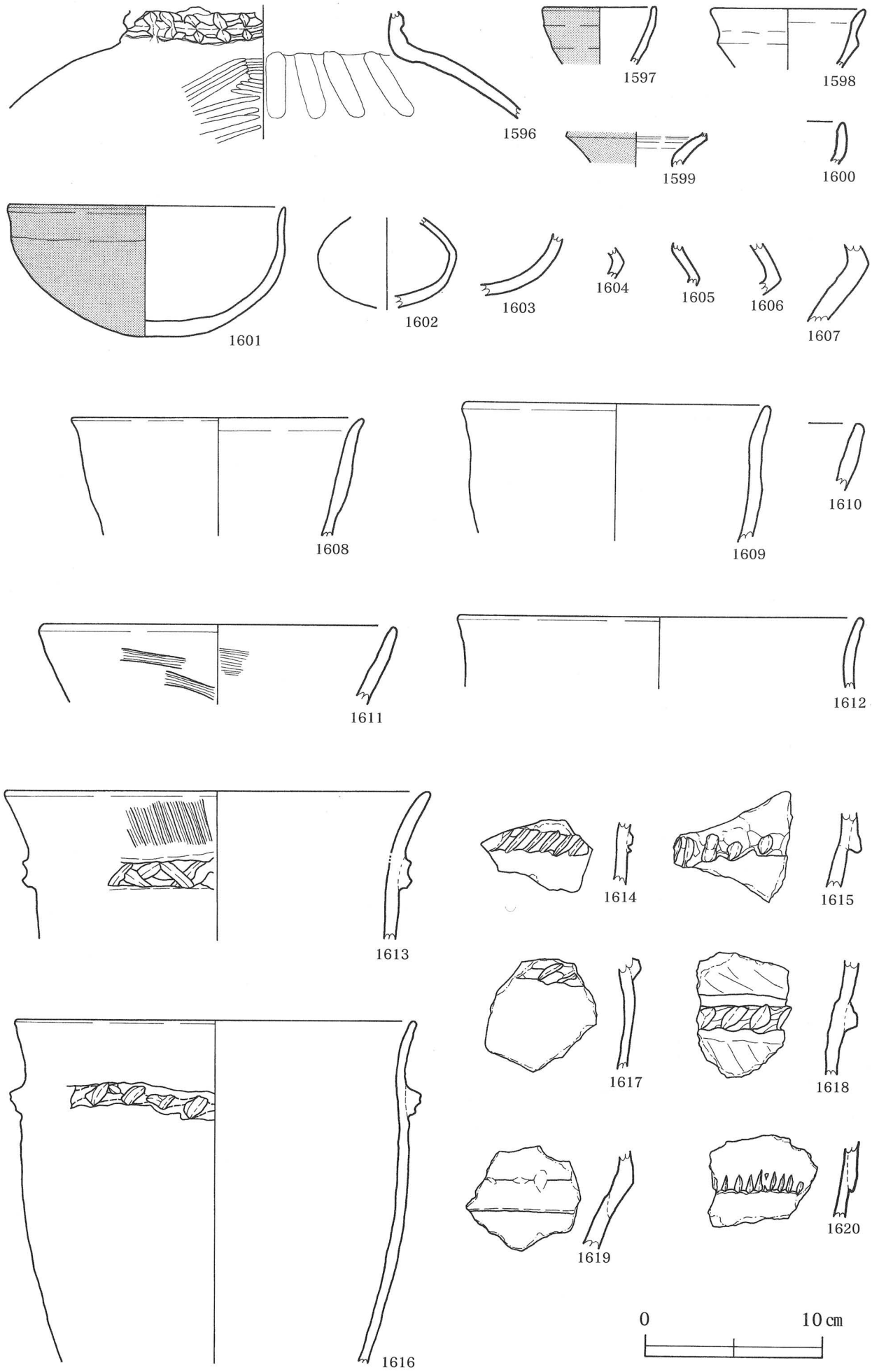


第108図　SA出土遺物実測図（29）　1545～1548・1551～1555：SA-19、1549・1550：SA-20、1556～1569：SA-22



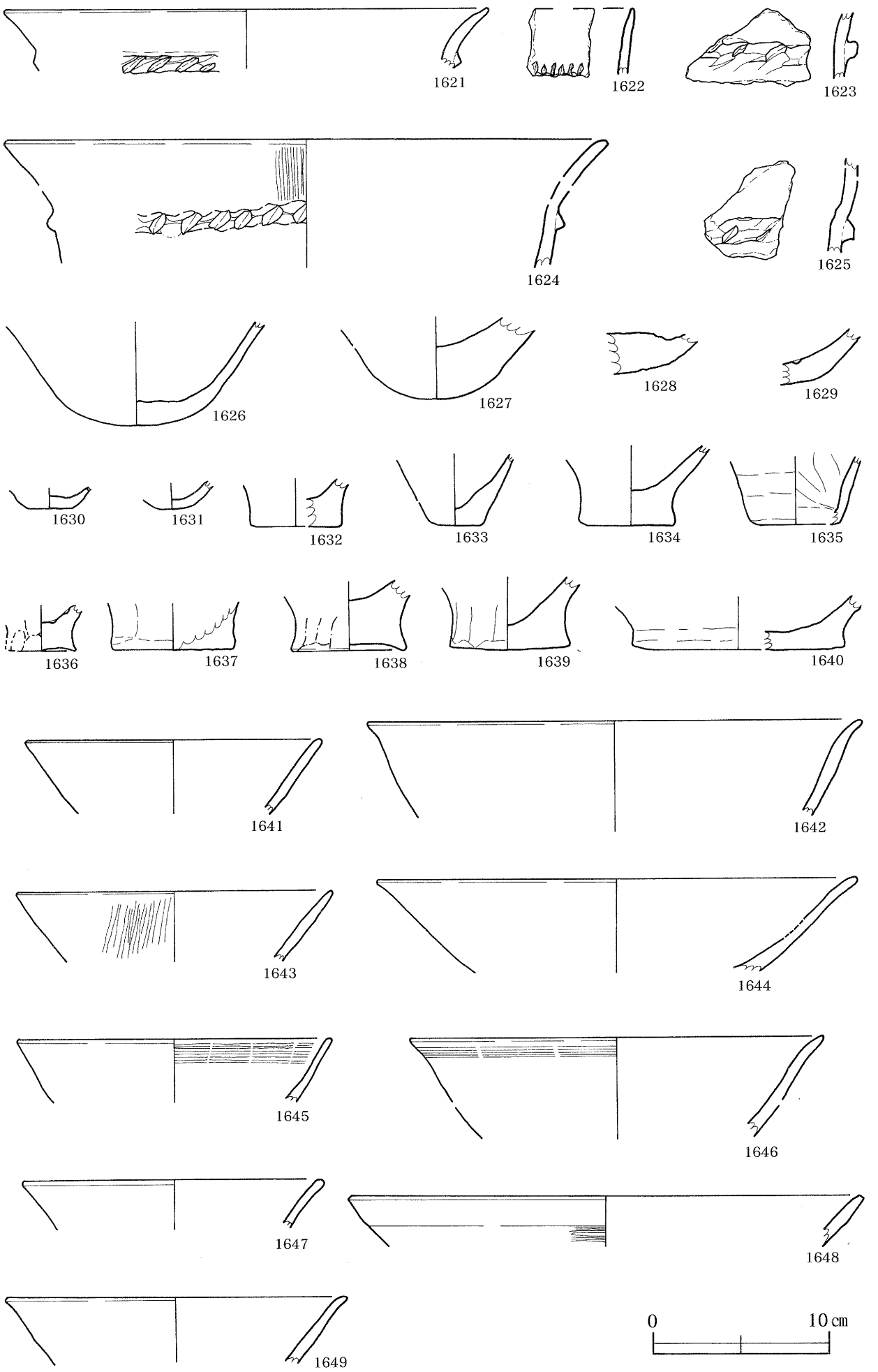
第109図　SA出土遺物実測図（30）

1570～1582：SA-23、1583～1595：SA-24



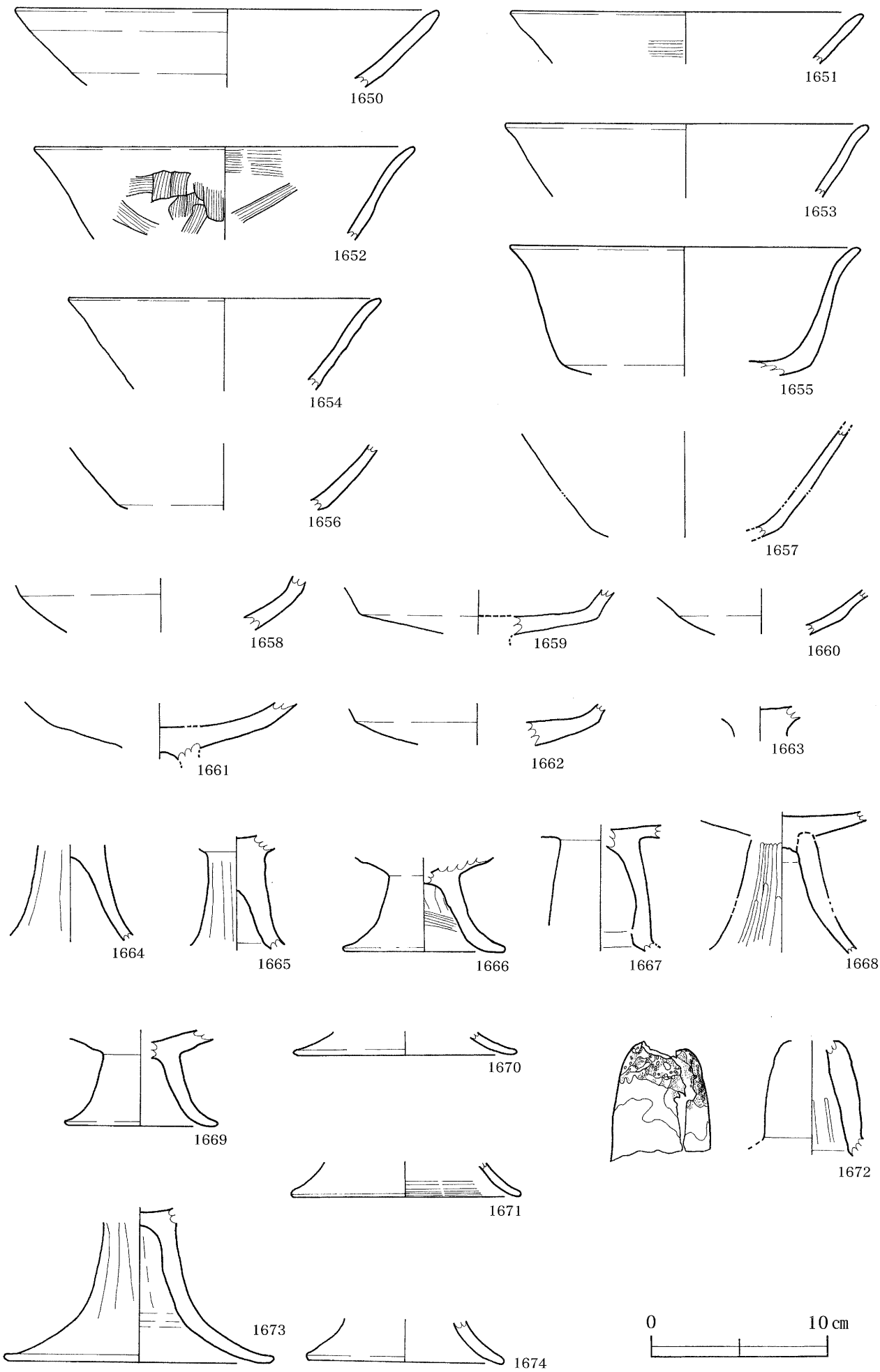
第110図　SA出土遺物実測図（31）

1596～1620：SA-24



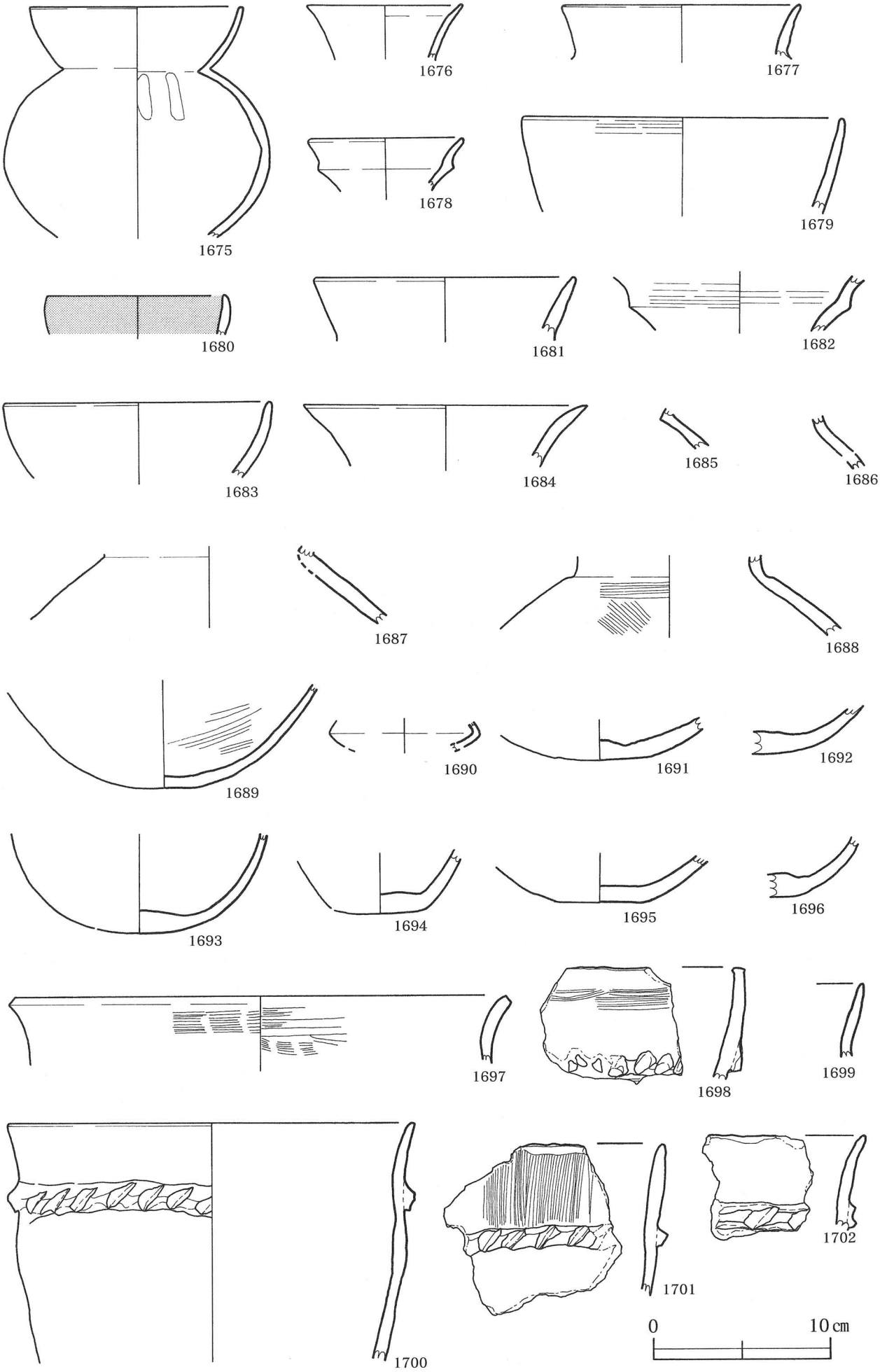
第111図　SA出土遺物実測図（32）

1621～1649：SA-24



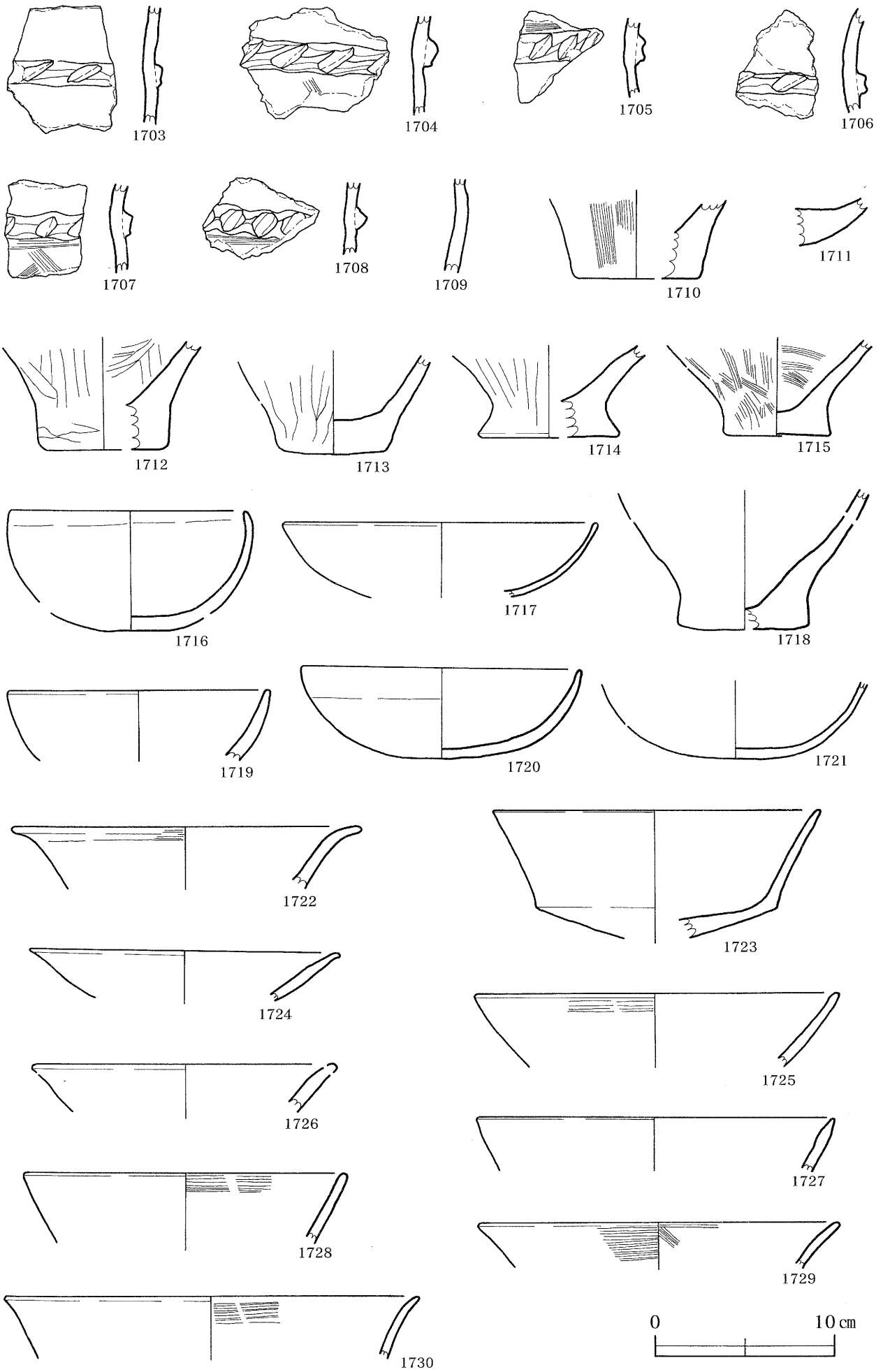
第112図　SA出土遺物実測図（33）

1650～1674：SA-24



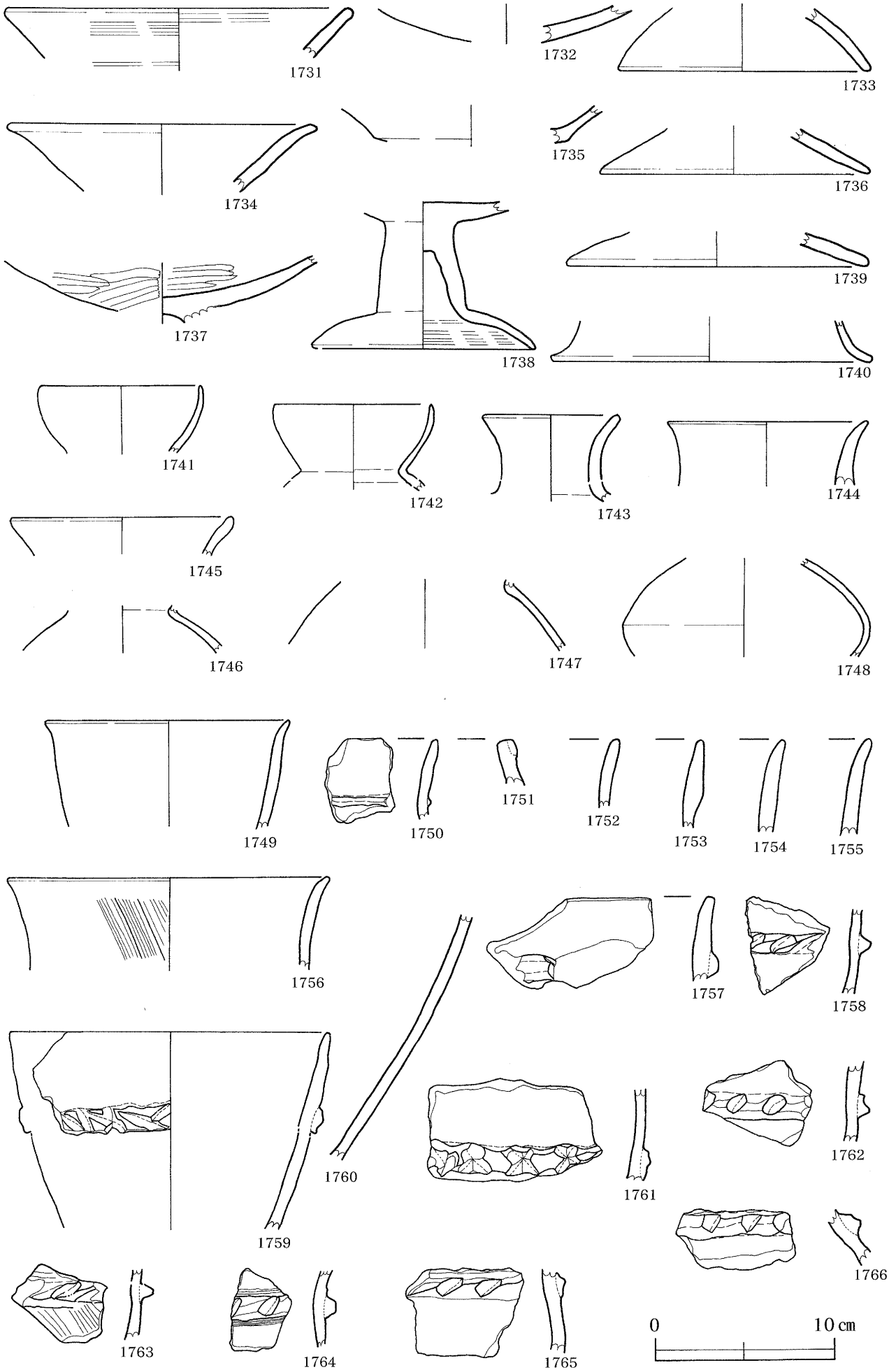
第113図　SA出土遺物実測図（34）

1675～1702：SA-25



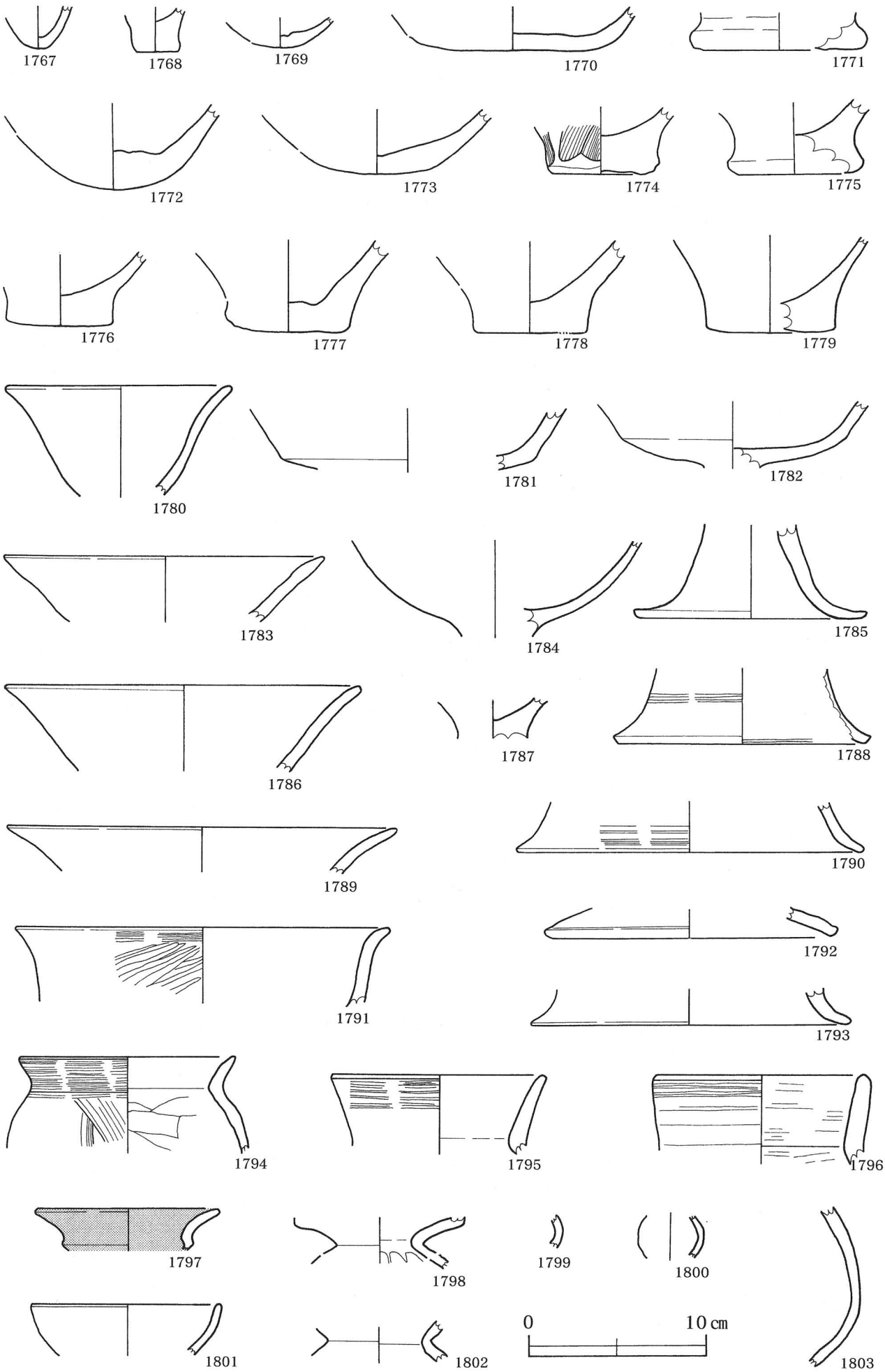
第114図　SA出土遺物実測図（35）

1703～1730：SA-25



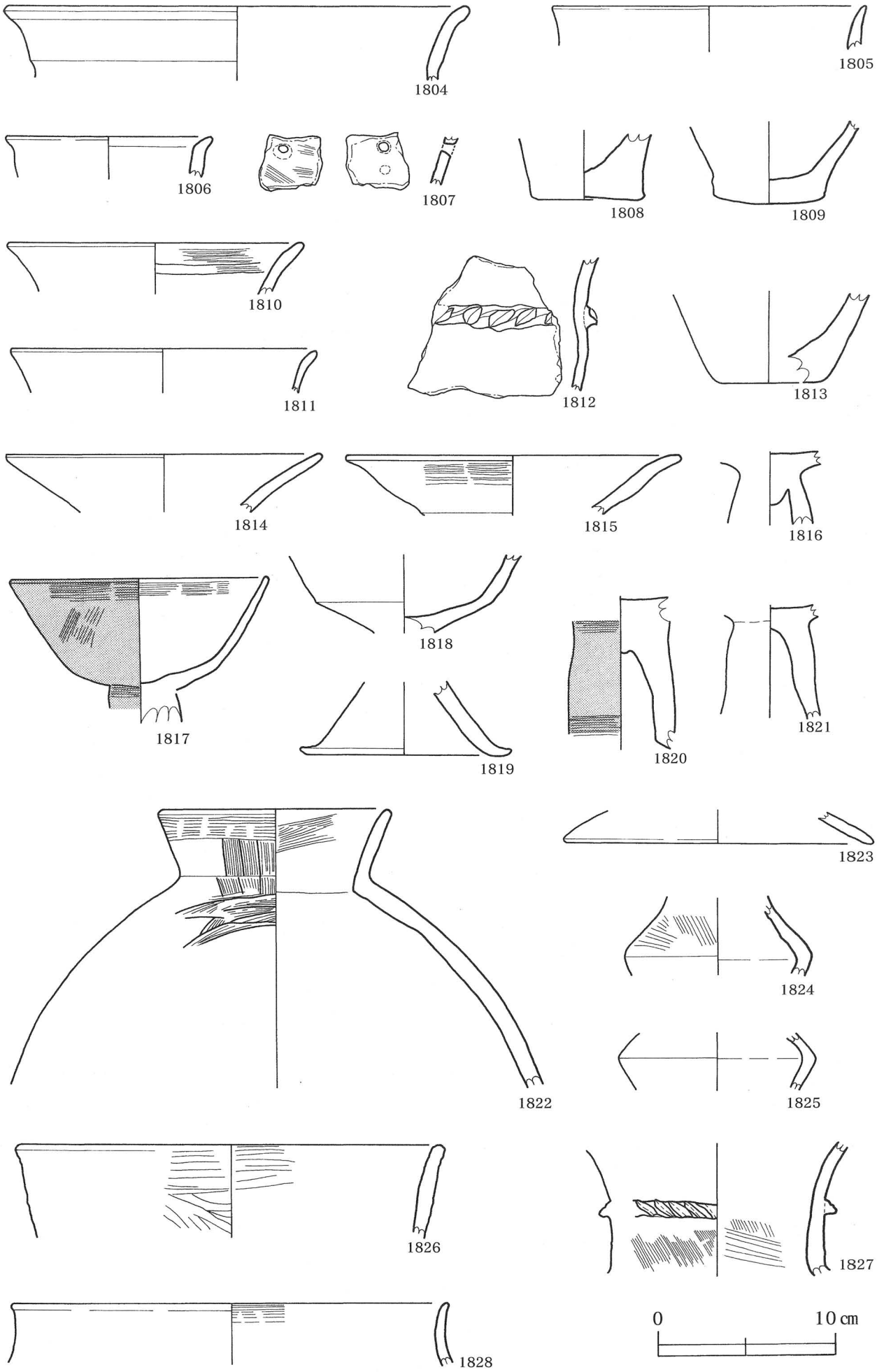
第115図　SA出土遺物実測図（36）

1731～1740：SA-25、1741～1766：SA-26



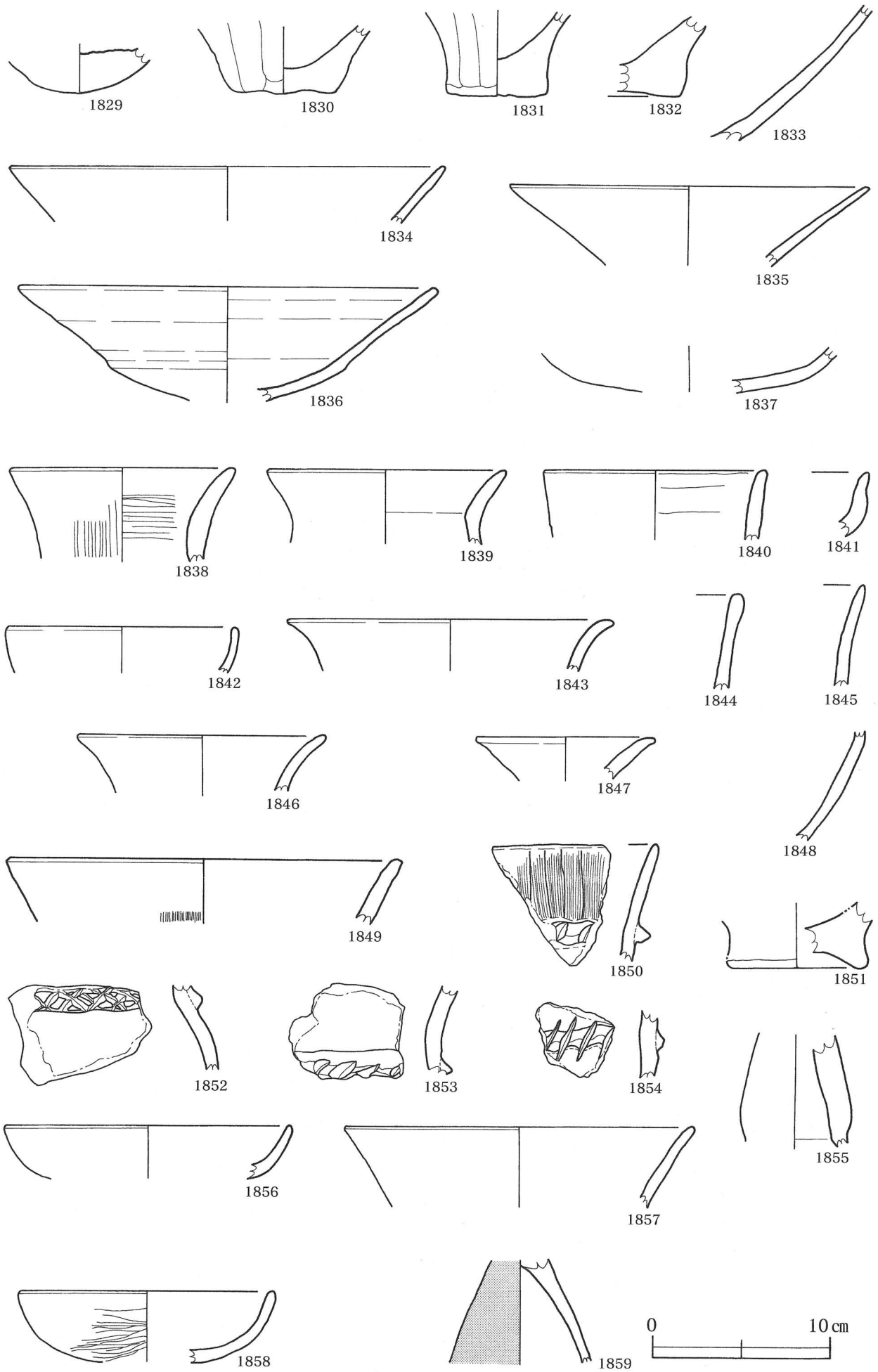
第116図　SA出土遺物実測図（37）

1767～1793：SA-26、1794～1803：SA-27



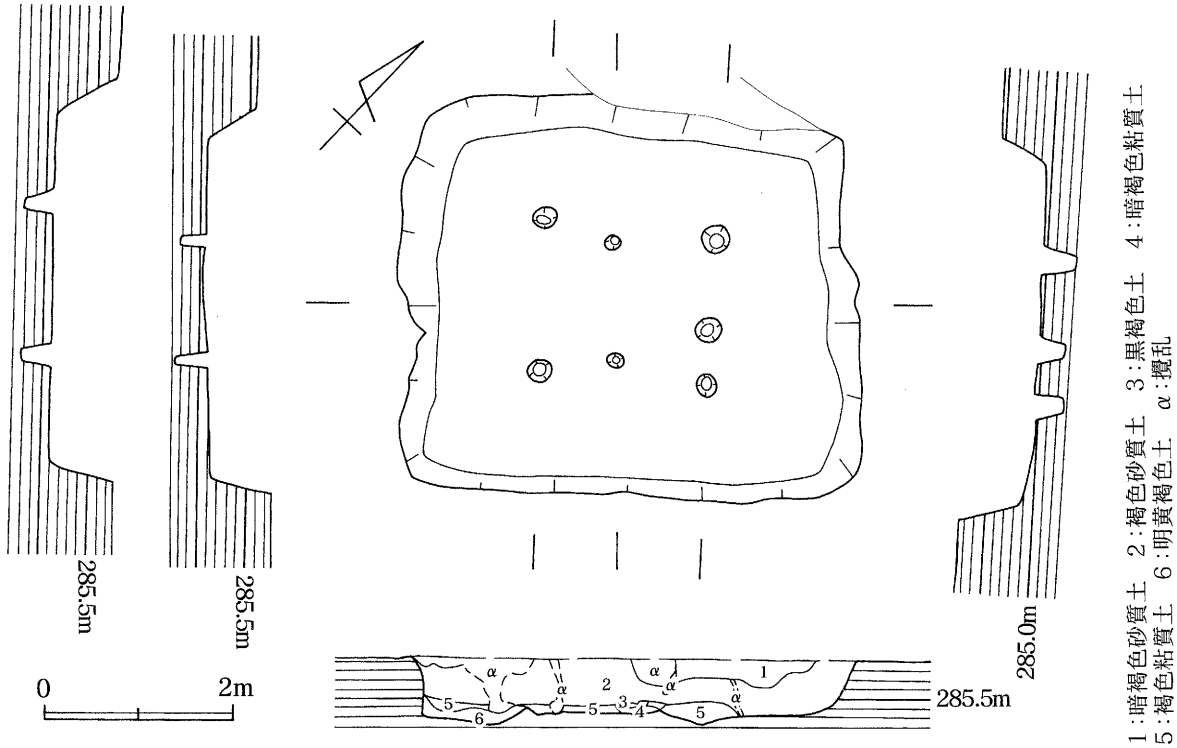
第117図　SA出土遺物実測図（38）

1804～1821：SA-27、1822～1828：SA-28



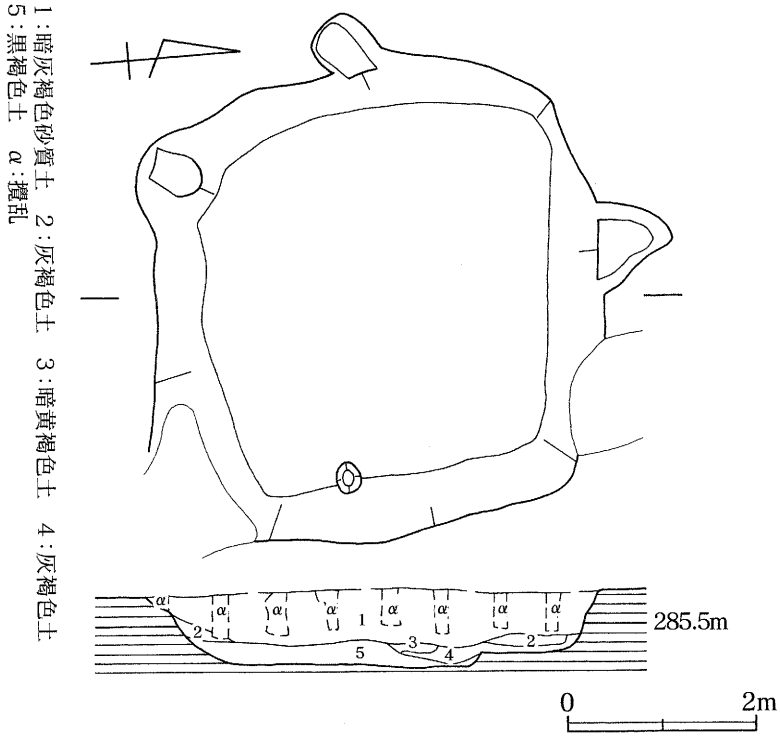
第118図　SA出土遺物実測図（39）

1829～1837：SA-28、1838～1859：SA-29



第119図　SA－27　遺構実測図

は薄いところで6㎝、厚いところでは26㎝を測る。柱穴はない。柱穴検出の際、貼床を剥いでいたところ、住居の南東隅に径1.2m、深さ64㎝の土坑を検出した。遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷・甕・高坏を中心に多量で、丹塗りの壷・高坏の破片が出土している。また、須恵器の坏が出土している。石器は、打製石鏃・磨製石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧・石核（黒曜石）が出土している。



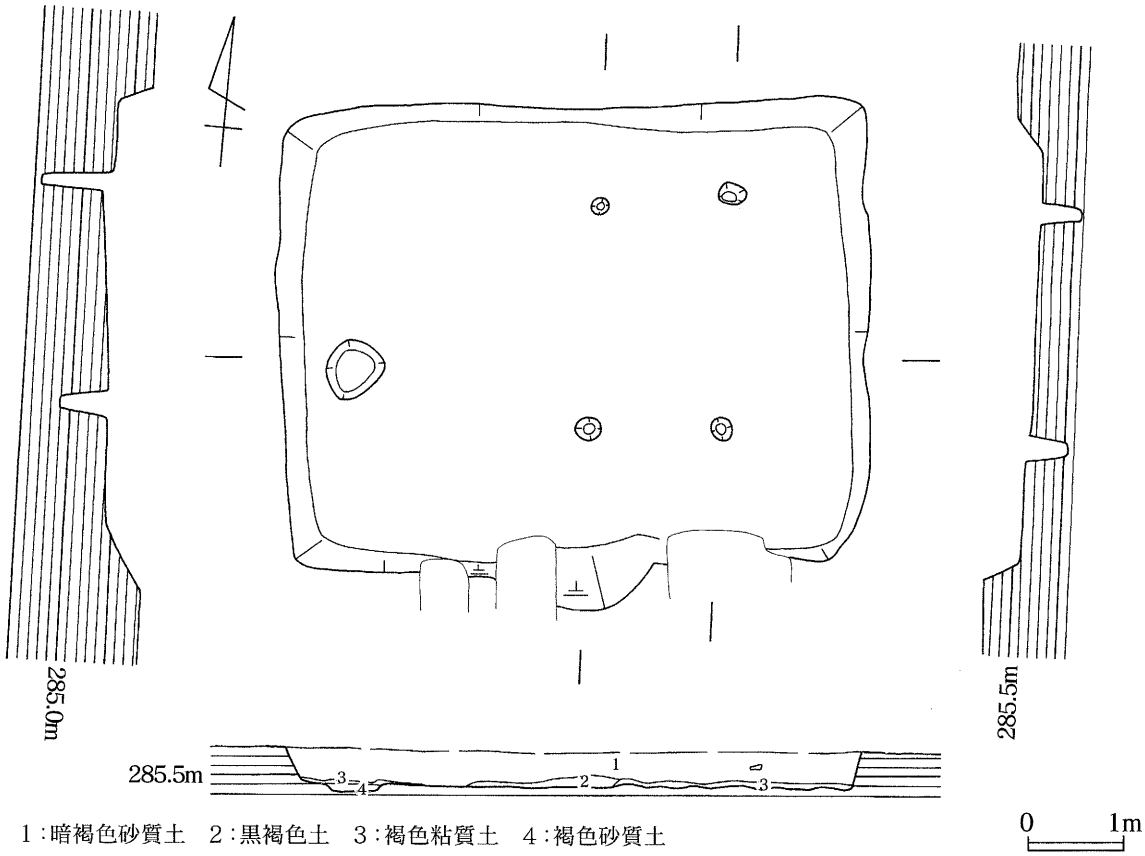
第120図　SA－28　遺構実測図

SA－60（第156図、図版52・165・166）

2.5×2.6mの方形を呈し、床面までの深さは26㎝を測る。柱穴はない。出土遺物は甕が多く、高坏・壷は少量である。丹塗りの壷・高坏の破片が出土している。

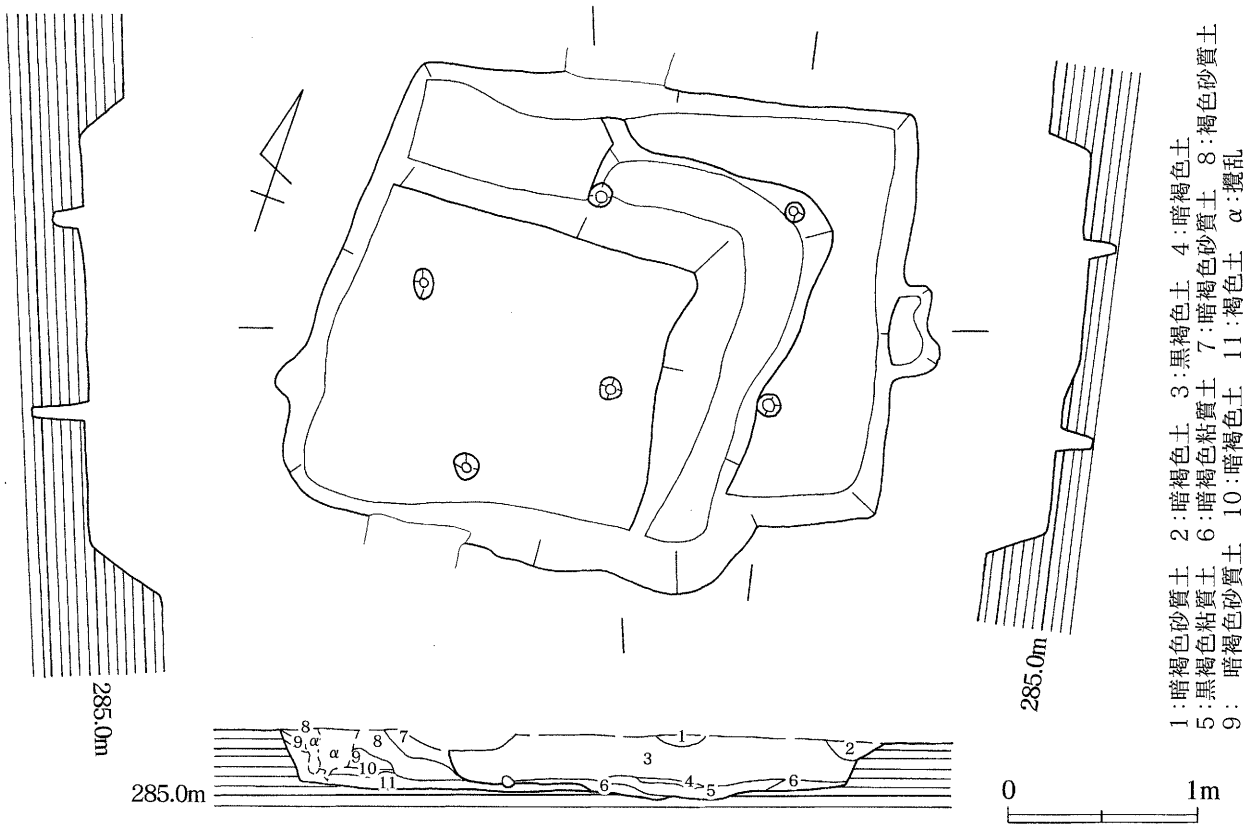
SA－61（第157図、図版53）

2.5×2.6mの隅丸方形2段掘りの住居で、床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は4個で、径20～25㎝、深さ20～30㎝を測る。出土遺物は縄文土器が数点と石核（黒曜石）1点である。



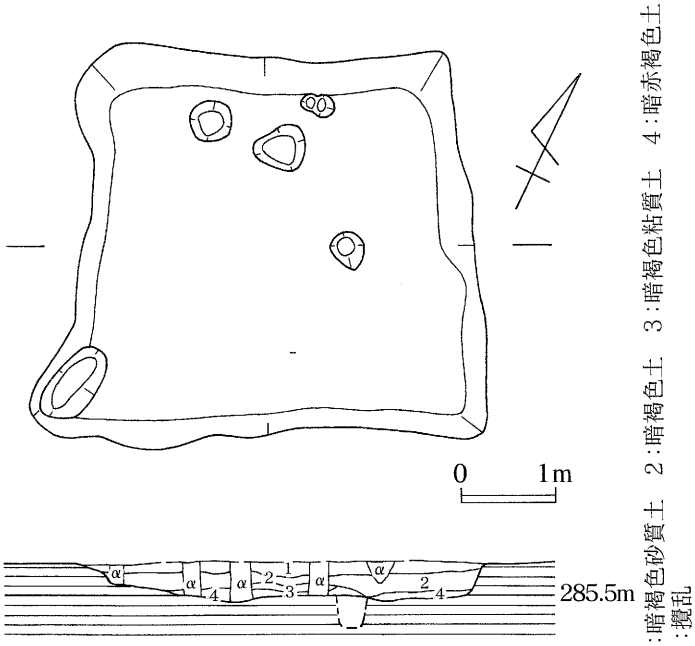
1：暗褐色砂質土　2：黒褐色土　3：褐色粘質土　4：褐色砂質土

第121図　SA－29　遺構実測図

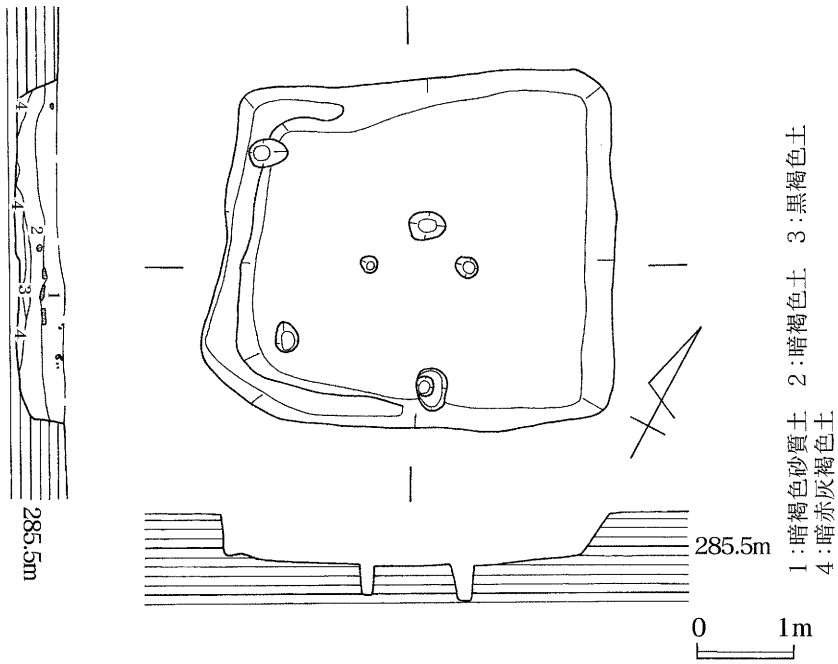


1：暗褐色砂質土　2：暗褐色土　3：黒褐色土　4：暗褐色土
5：黒褐色粘質土　6：暗褐色粘質土　7：暗褐色砂質土　8：褐色砂質土
9：　暗褐色砂質土　10：暗褐色土　11：褐色土　α：攪乱

第122図　SA－30・31　遺構実測図



第123図　SA－33　遺構実測図



第124図　SA－34　遺構実測図

SA－62（第158図、図版53）

4×5mの隅丸方形の住居で、床面までの深さは36㎝を測る。柱穴は3個で、径20～25㎝、深さ26～35㎝である。出土遺物は少量である。

SA－63（第159図、図版53・166）

Ⅱ区の南東隅に検出された住居で、検出面から床面までの深さは10㎝を測る。柱穴は2個で径20～28㎝、深さ36～60㎝を測る。出土遺物は甕の口縁のみである。

SA－64（第160図、図版52・167）

3.4×3.5mの方形を呈し、北側が2段掘りの住居である。検出面から床面までの深さは70㎝を測る。柱穴は2個で、径20㎝、深さ20㎝を測る。ベッド状遺構の規模は0.5×1.9mで楕円形を呈している。出土遺物は縄文土器が数点と、土師器が壷・甕・高坏が少量で、石器は打製石鏃・石匙・凹石・剥片が出土している。

SA－65（第161図、図版54・167）

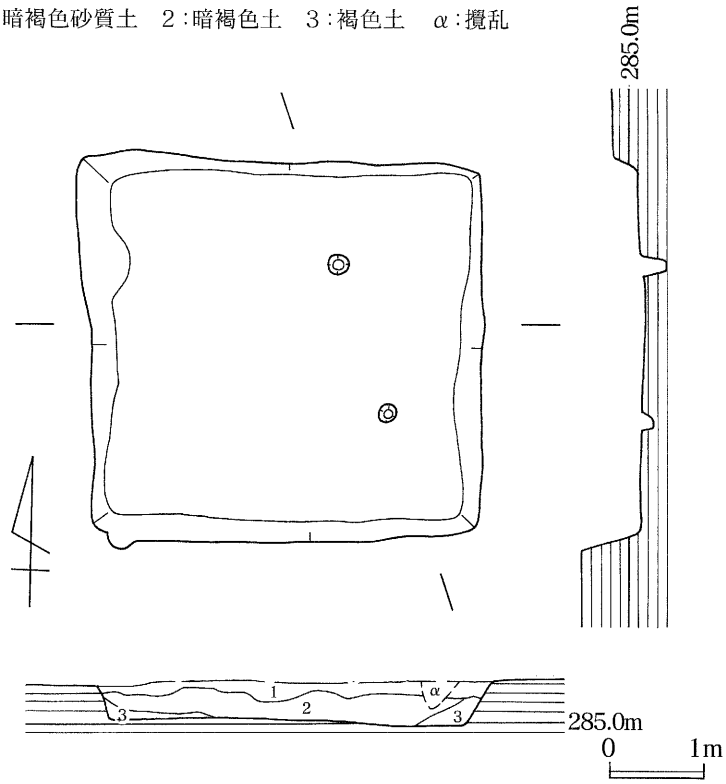
南北2.9m、東西3.1mの方形を呈する2段掘りの住居で、床面までの深さは40㎝を測り、柱穴はない。ベッド状遺構の規模は1.8×2.7mである。出土遺物は少量で、石器は台石が出土している。

SA－67（第162図、図版54・167）

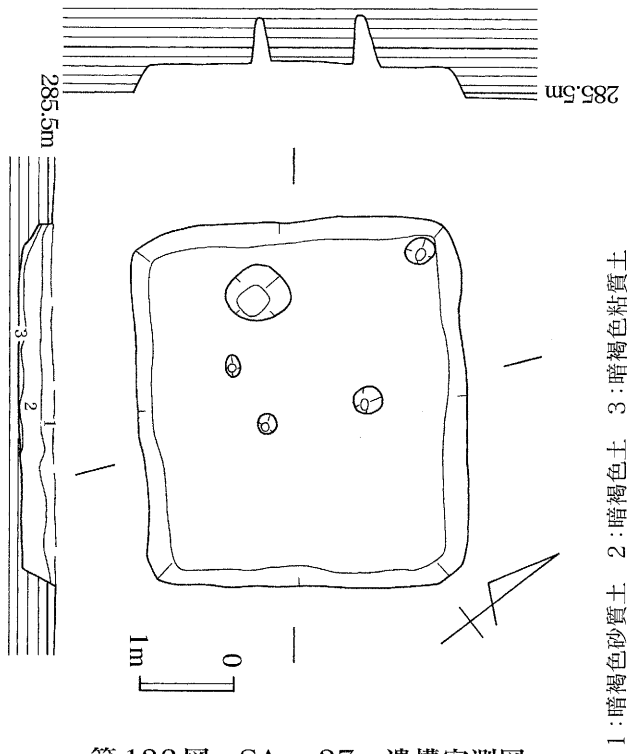
南北3.2m、東西4.3mの方形住居で、柱穴はない。出土遺物は非常に少なく、打製石鏃・砥石が出土している。

SA－72（第163図、図版55・168）

そのほとんどを攪乱によって破壊されている住居である。住居の中央と思われる部分に径30㎝、



第125図　SA－36　遺構実測図



第126図　SA－37　遺構実測図

深さ8cmの窪みがあるが火を使った形跡はみられない。柱穴は2個で径10cm、深さ25cmを測る。出土遺物は、壷・甕を中心とした土器が少量である。石器は石匙が出土している。

SA－73（第164図、図版168）

Ⅲ区の西壁際に検出された住居である。詳細は不明で、柱穴が1個である。出土遺物は少なく、土器が数点と磨製石鏃が1点出土している。

SA－74（第165図、図版55・168・169）

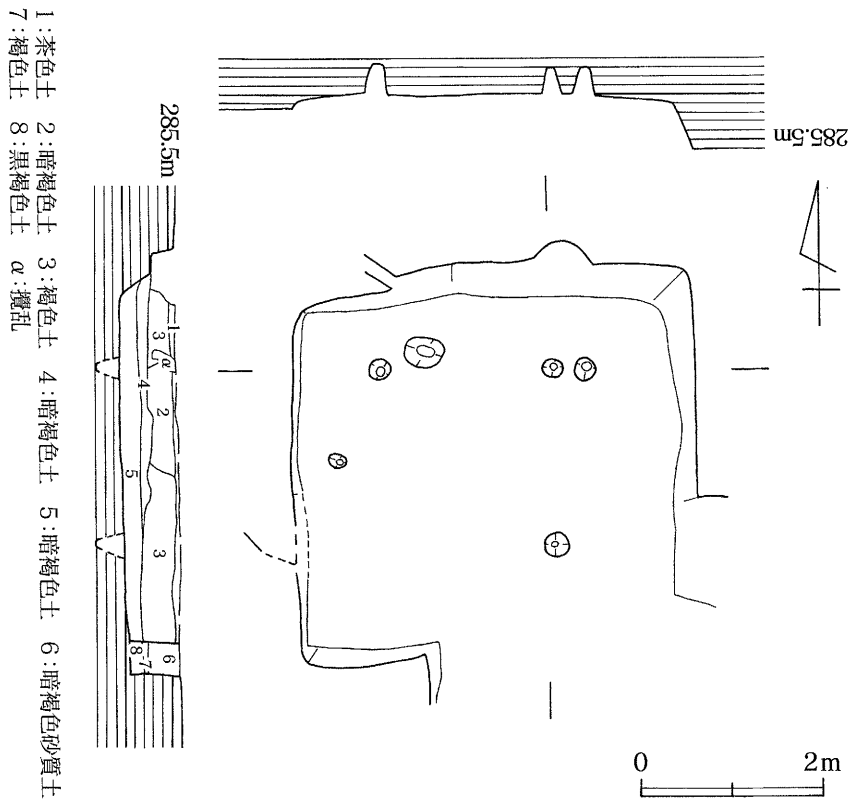
西側を風倒木によって破壊されている住居で、南北3.4mを測る。床面までの深さは40cmを測る。住居中央東よりに長径1m、短径0.35mの楕円形を呈する窪みがみられる。出土遺物は少ないが、縄文土器が数点と須恵器の壷の破片が出土している。

SA－75（第60図、図版56・169）

SA－76を切っている住居で、方形を呈し、6×7m、検出面より床面までの深さ40cmを測る。柱穴は6個あり、径20～60cm、深さ25～55cmを測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の甕が多く出土しており、須恵器も数点出土している。石器は石匙・石錐が出土している。

SA－78（第189図、図版57・58・59・170）

SA－79に切られている、推定で4×3.8mの方形住居である。床面までの深さは40cmを測る。柱穴は2個で、径20～38cm、深さは20cmを測る。遺物は多く、土師器の高坏・甕を中心とした土師器が多量に出土している。石器は打製石鏃・砥石が出土している。



第127図　SA－38　遺構実測図

SA－79（第189図、図版57・58・59・170・171）

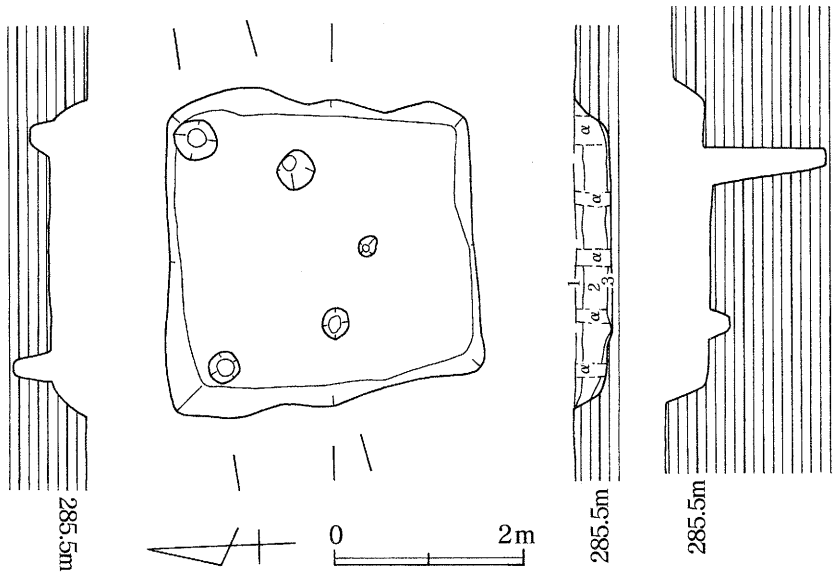
推定で5×4.8mの2段掘り状の方形住居である。床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は径20～30㎝で、深さは30㎝を測る。住居中央付近には炭化した木片があり、穴は検出されなかったが、炉の可能性をうかがわせる。遺物は、縄文土器が数点と、土師器の壷・甕を中心とした土師器が多く出土しており、石器は打製石鏃が出土している。

SA－80（第189図、図版57・58・59・171・172）

SA－79を切っている住居で、方形を呈し、規模は4×4.5mである。床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は径25～35㎝、深さは30㎝を測る。遺物は、縄文土器が数点と、土師器が多く出土しており、甕・高坏が多量に出ている。

SA－83（第190図、図版60・172）

Ⅲ区の北壁にかかっている方形を呈する住居で、推定で4.2×5mを測る。床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は2個で、径30～35㎝、深さ30㎝を測る。出土遺物は縄文土器が数点と弥生土器・土師器があり、石器は砥石が出土している。

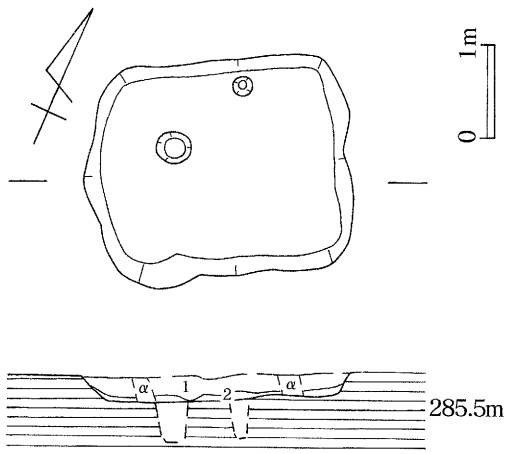


1:暗褐色砂質土　2:暗褐色土　3:黒褐色土　α:攪乱

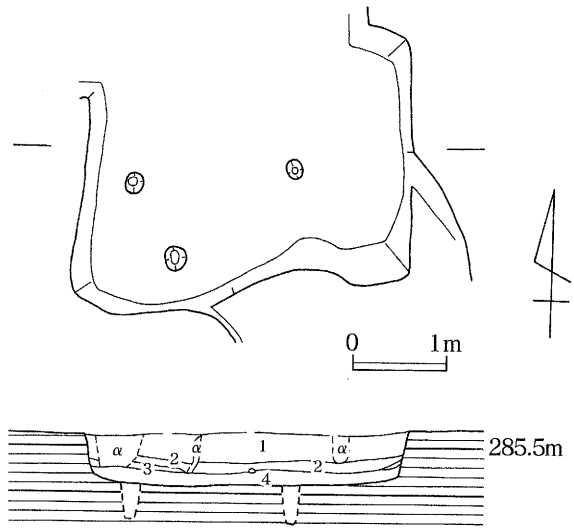
第128図　SA－39　遺構実測図

SA－85（第191図、図版60・172・173）

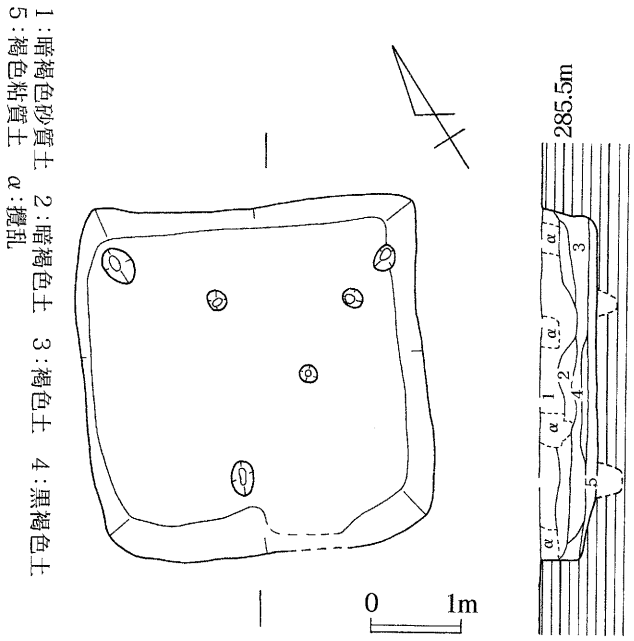
4.1×3.6mの方形を呈する南に突出部を持つ住居で床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は径15～35㎝、深さ40㎝を測る。遺



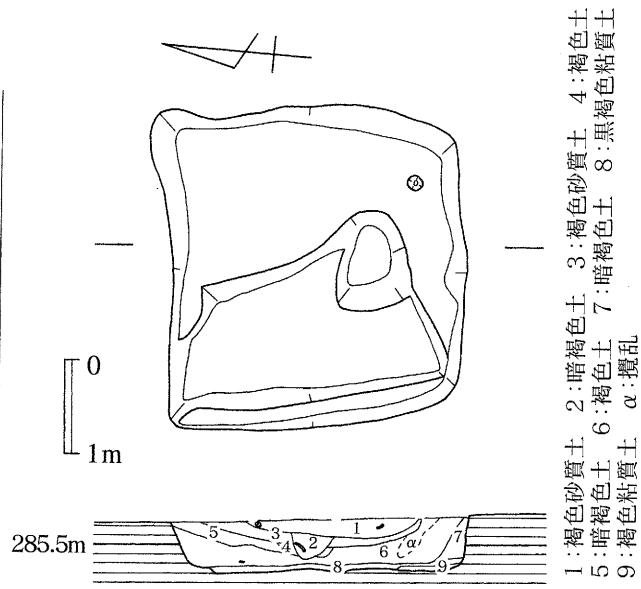
第129図　SA－40　遺構実測図



第130図　SA－41　遺構実測図



第131図　SA－43　遺構実測図



第132図　SA－44　遺構実測図

物は高坏・壷を中心とした土師器が多く出土している。

SA－86（第192図、図版60・173）

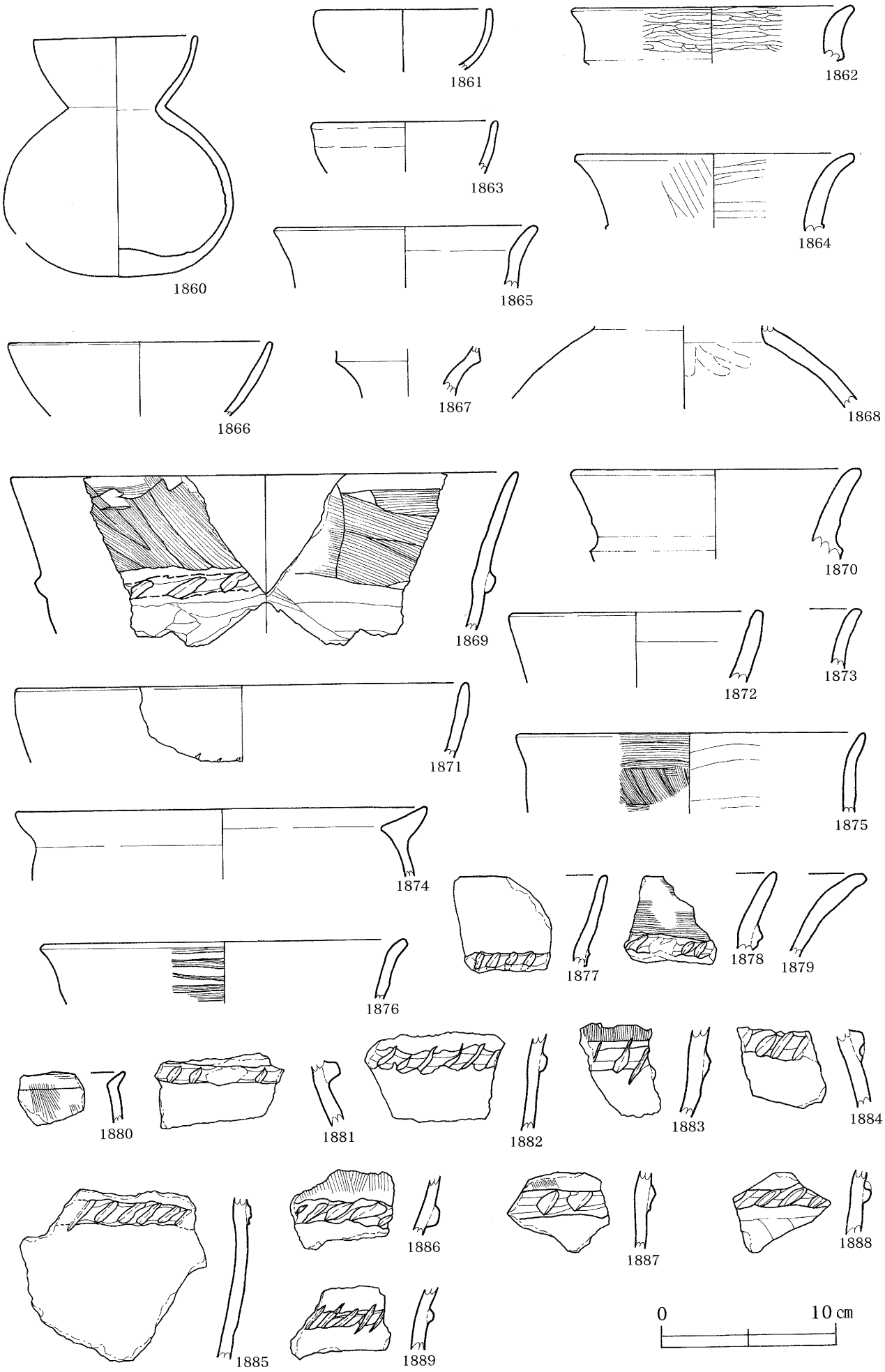
6.2×6.6mの方形を呈する住居である。検出面から床面までは30㎝を測る。柱穴は径20～40㎝、深さ30㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、壷・甕・高坏を中心とした土師器、石器は石錐、石核（黒曜石）が出土している。

SA－88（第193図、図版61・174）

Ⅲ区の東壁際に検出された、方形を呈すると推定される住居である。床面までの深さは20㎝を測る。柱穴は径15～30㎝、深さ30㎝を測る。出土遺物は少ない。

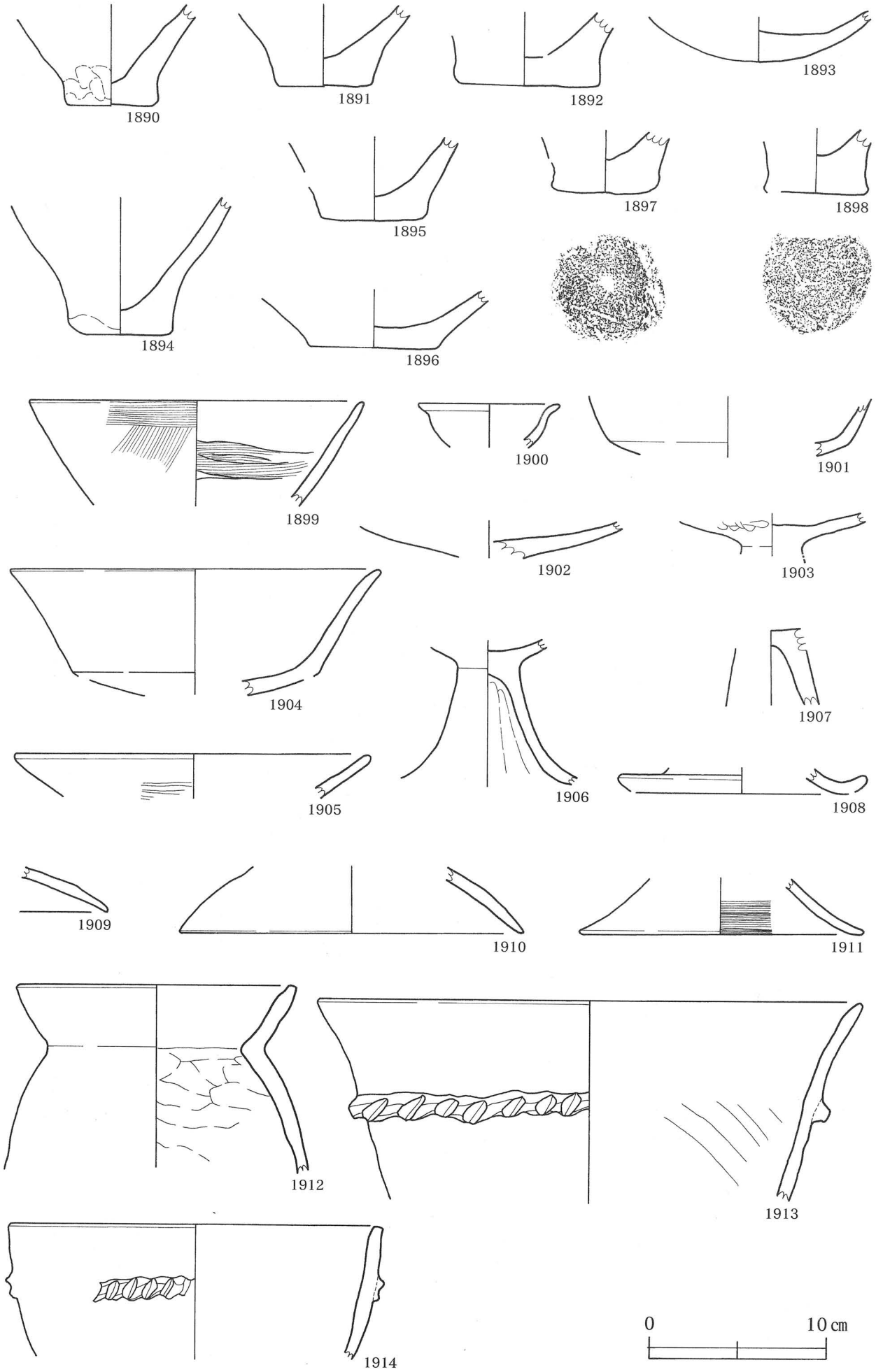
SA－89（第194図、図版61・174）

3.2×4mの不整形を呈する住居で、床面までの深さは30㎝を測る。柱穴は径28～35㎝、深さ



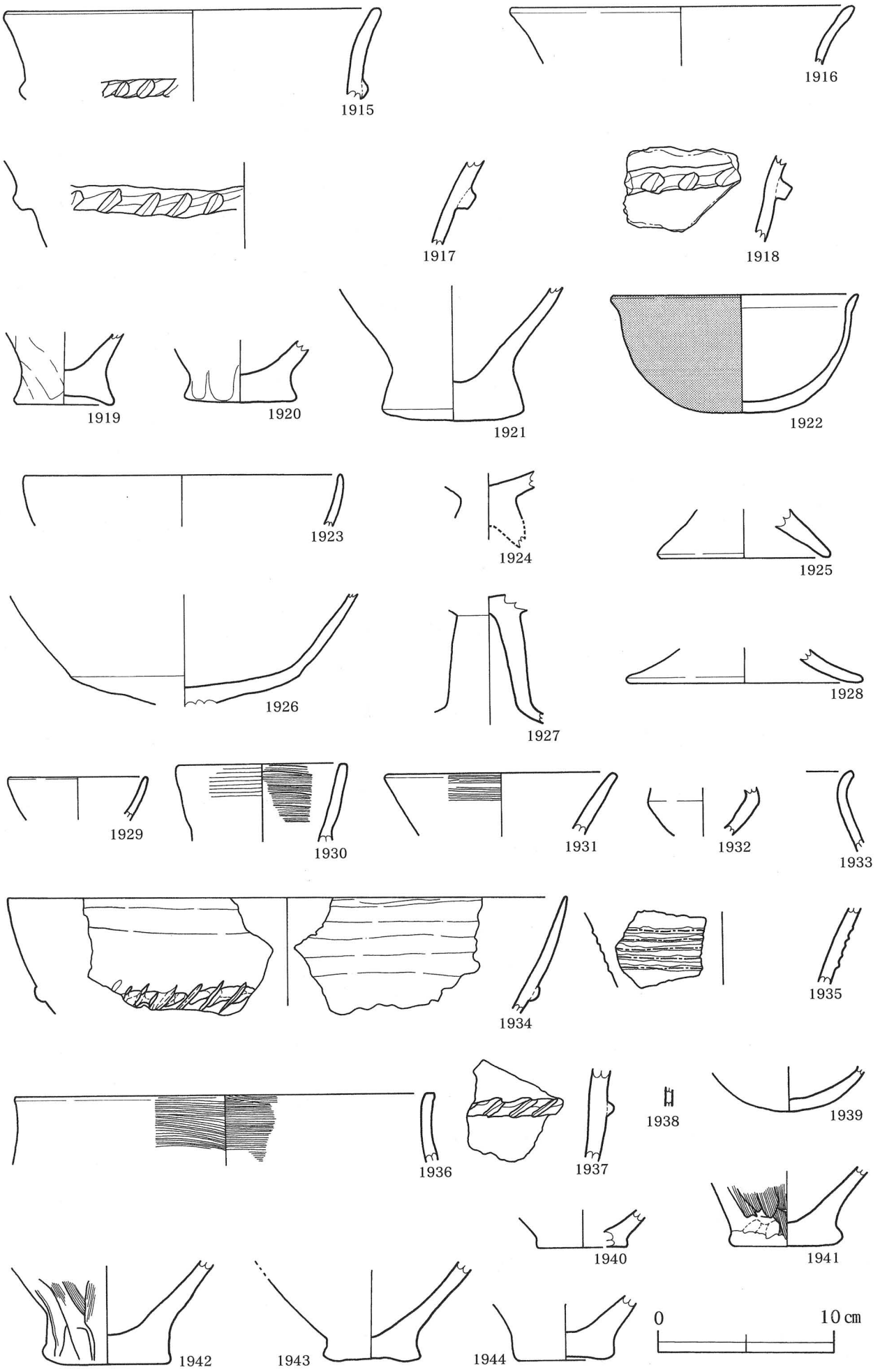
第133図　SA出土遺物実測図（40）

1860～1889：SA-30



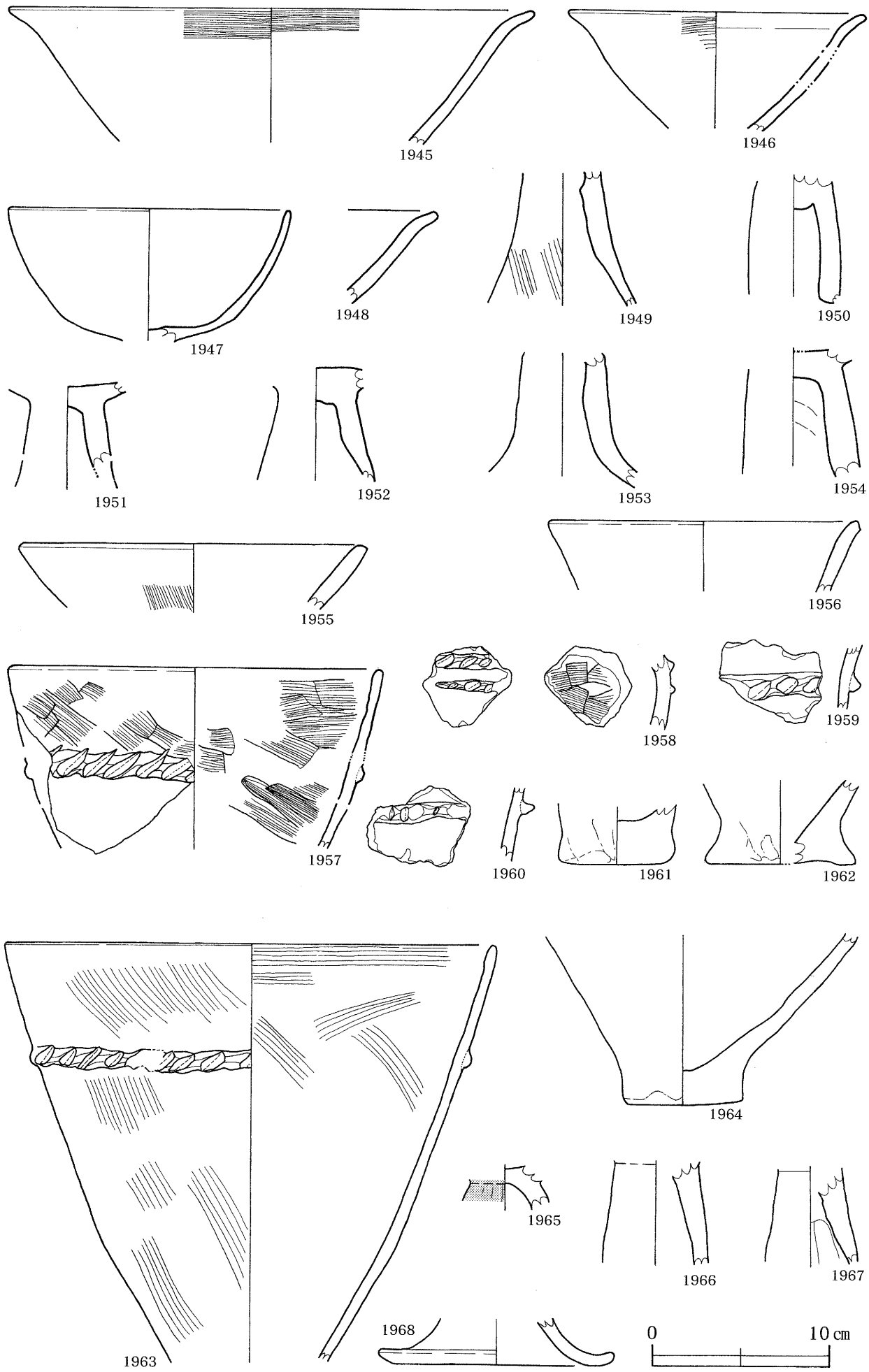
第134図　SA出土遺物実測図（41）

1890～1911：SA-30、1912～1914：SA-33



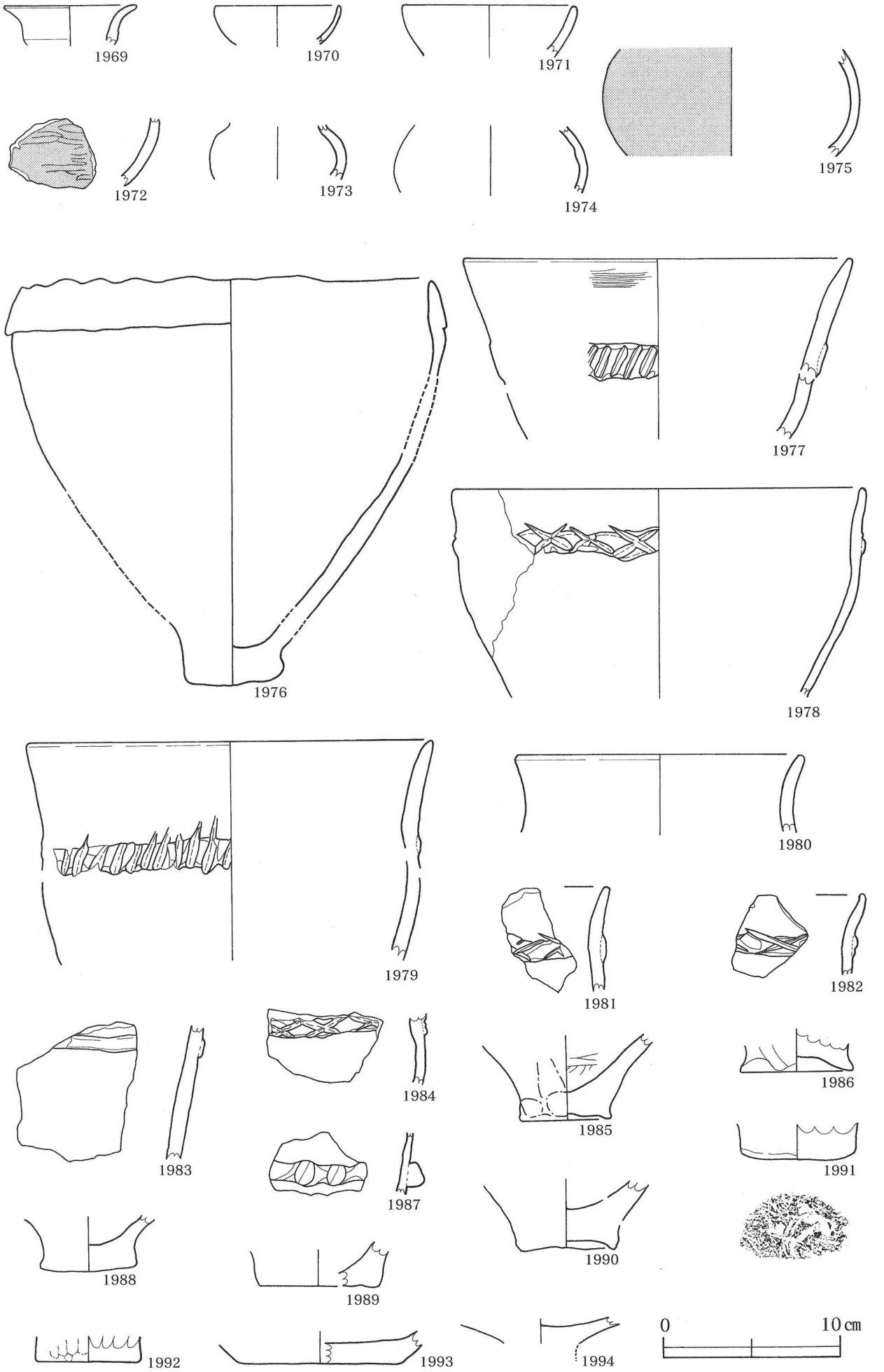
第135図　SA出土遺物実測図（42）

1915～1928：SA-33、1929～1944：SA-34



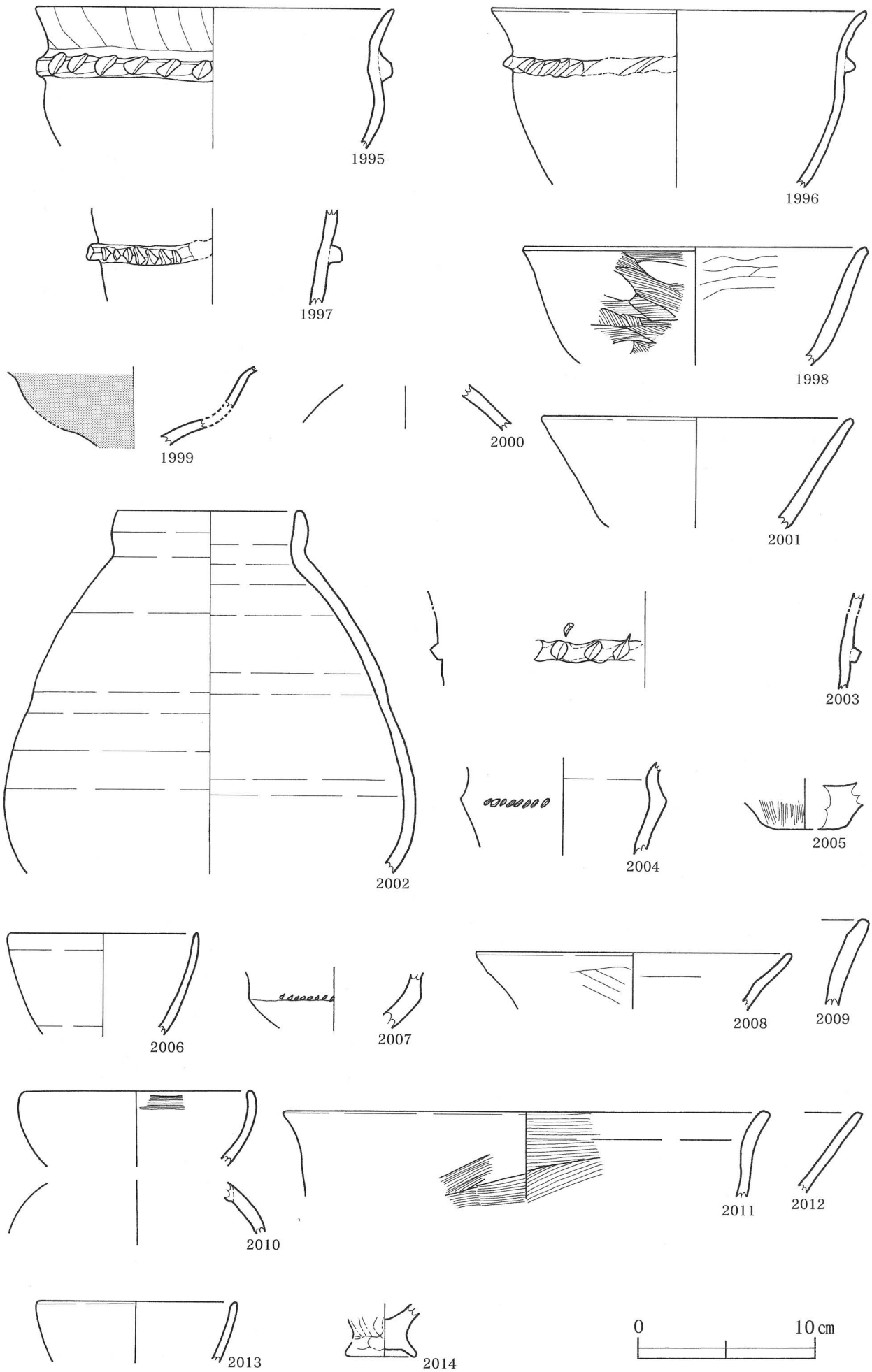
第136図　SA出土遺物実測図（43）

1945～1954：SA-34、1955～1968：SA-36

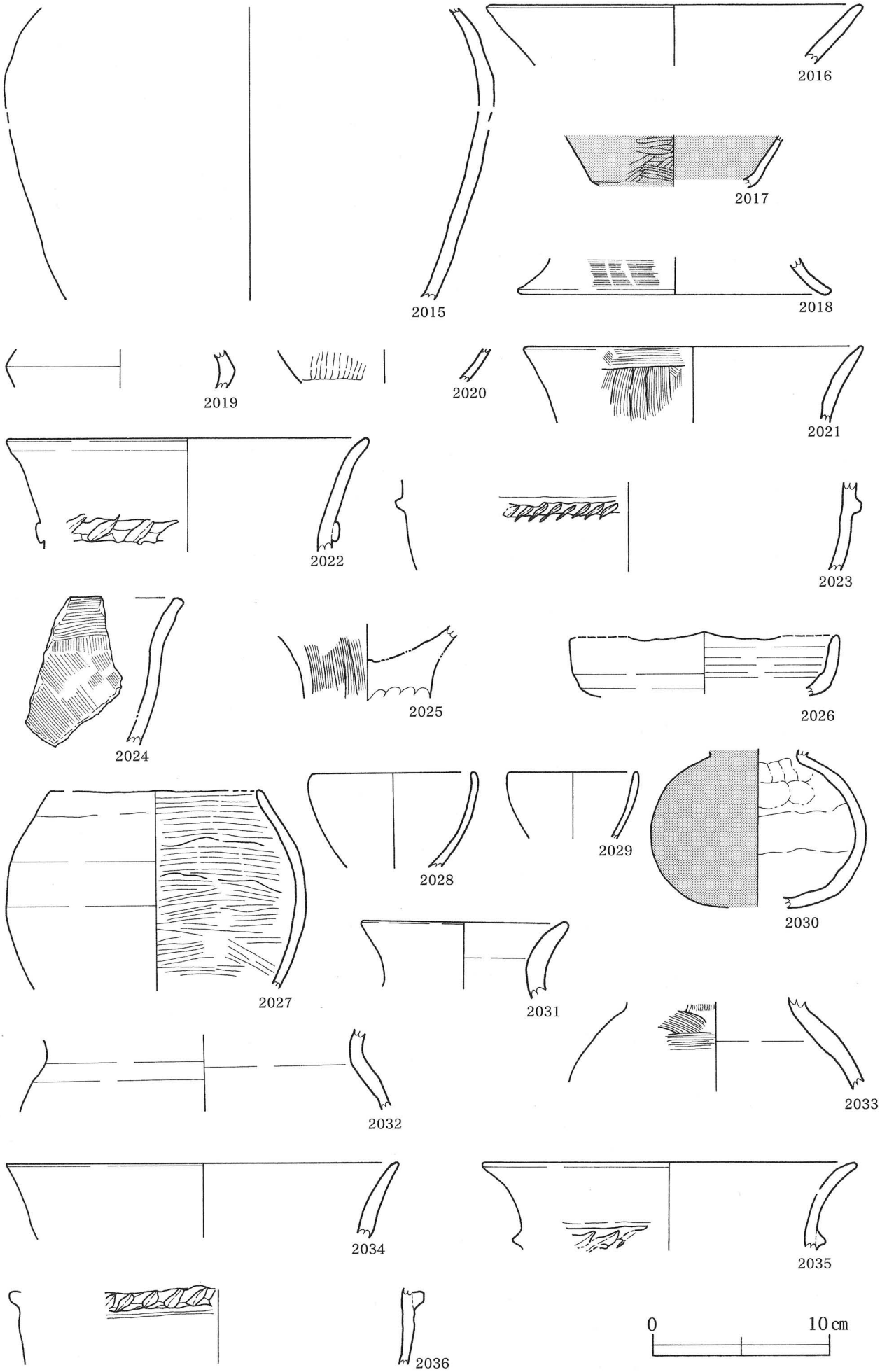


第137図　SA出土遺物実測図（44）

1969～1994：SA-37

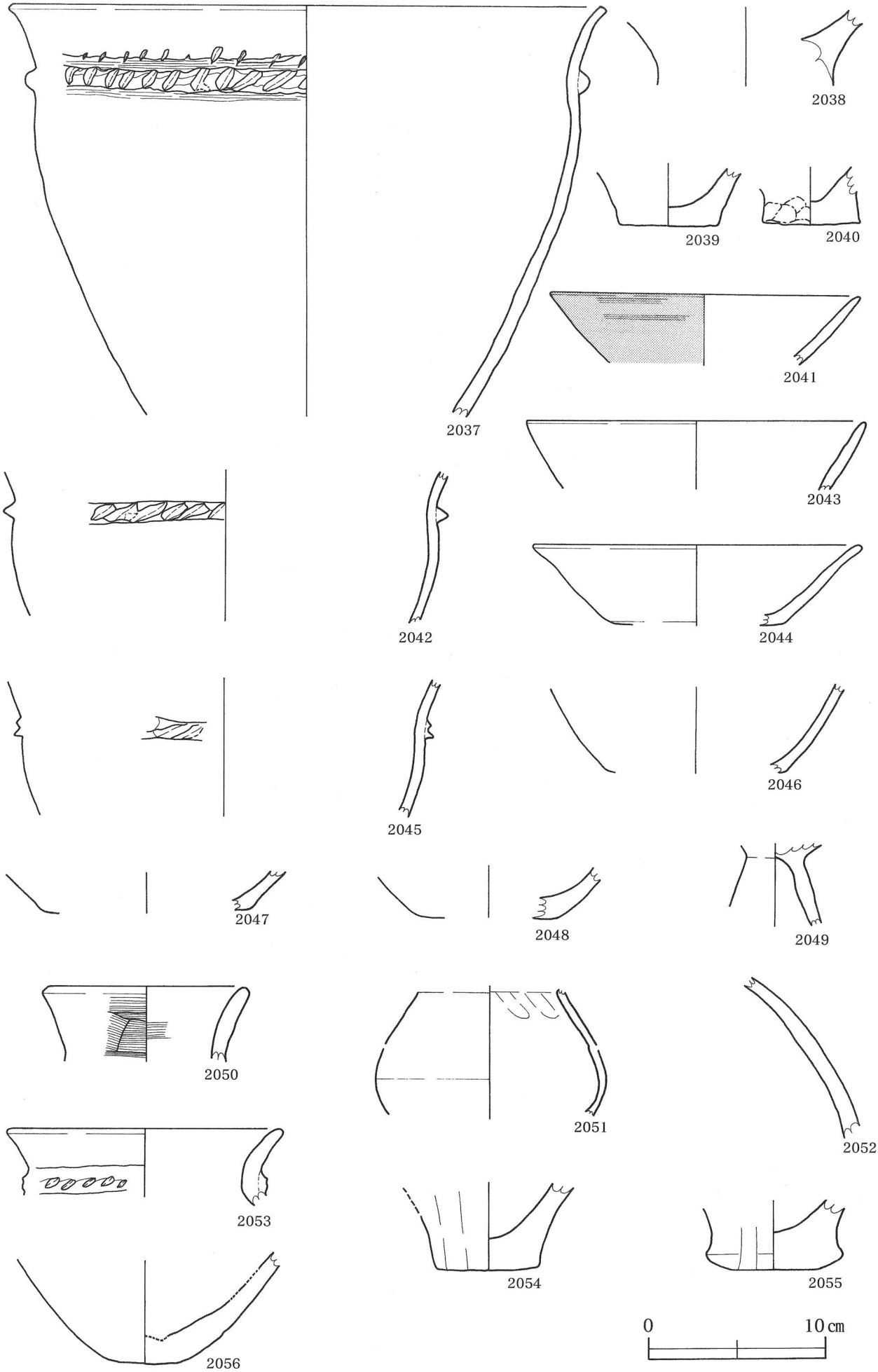


第138図　SA出土遺物実測図（45）　1995～2001：SA-38、20002～2005：SA-39、2006～2009・2011～2012：SA-40、2010・2013～2014：SA-41



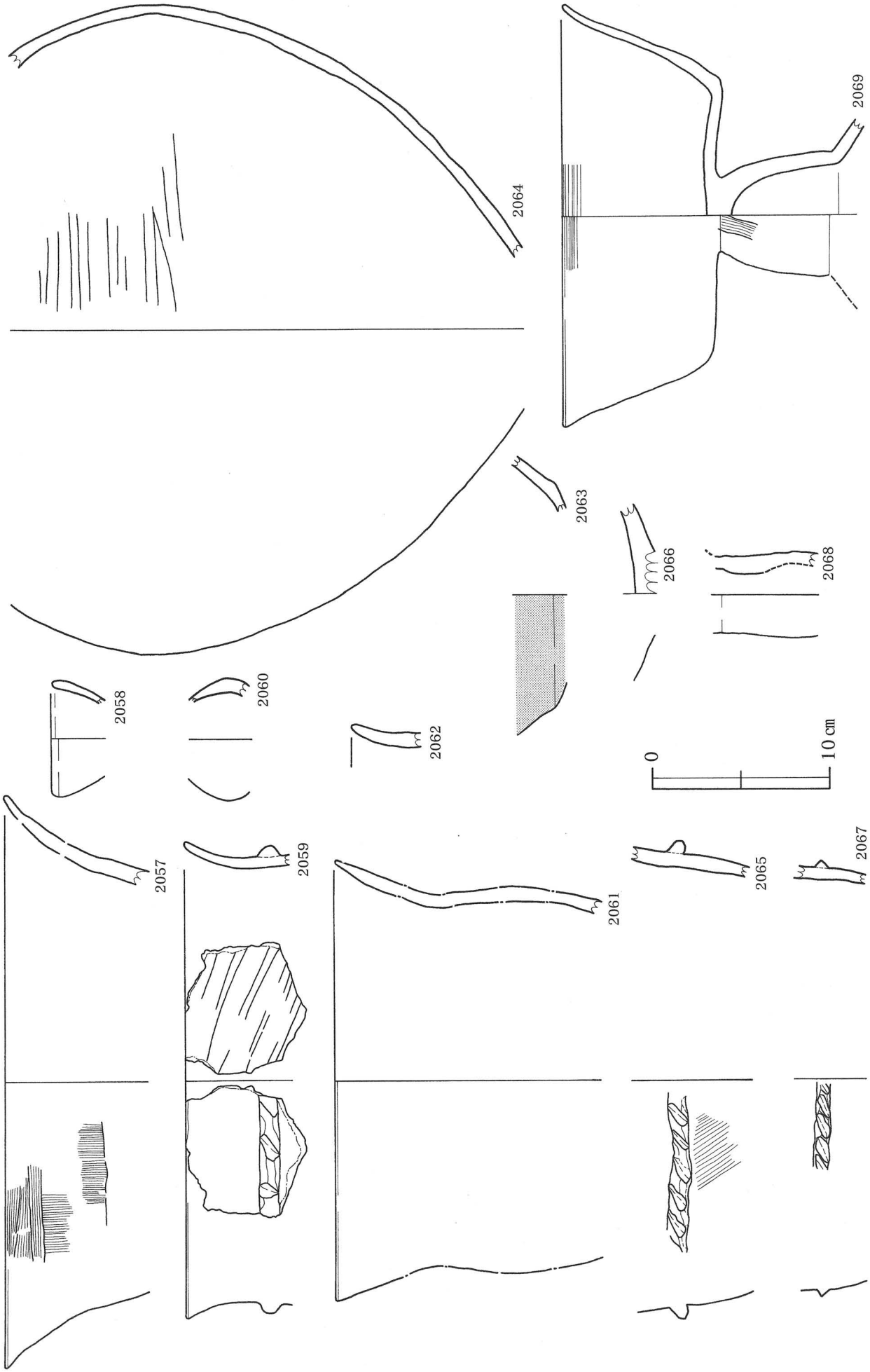
第139図　SA出土遺物実測図（46）

2015～2018：SA-41、2019～2026：SA-42、2027～2036：SA-43

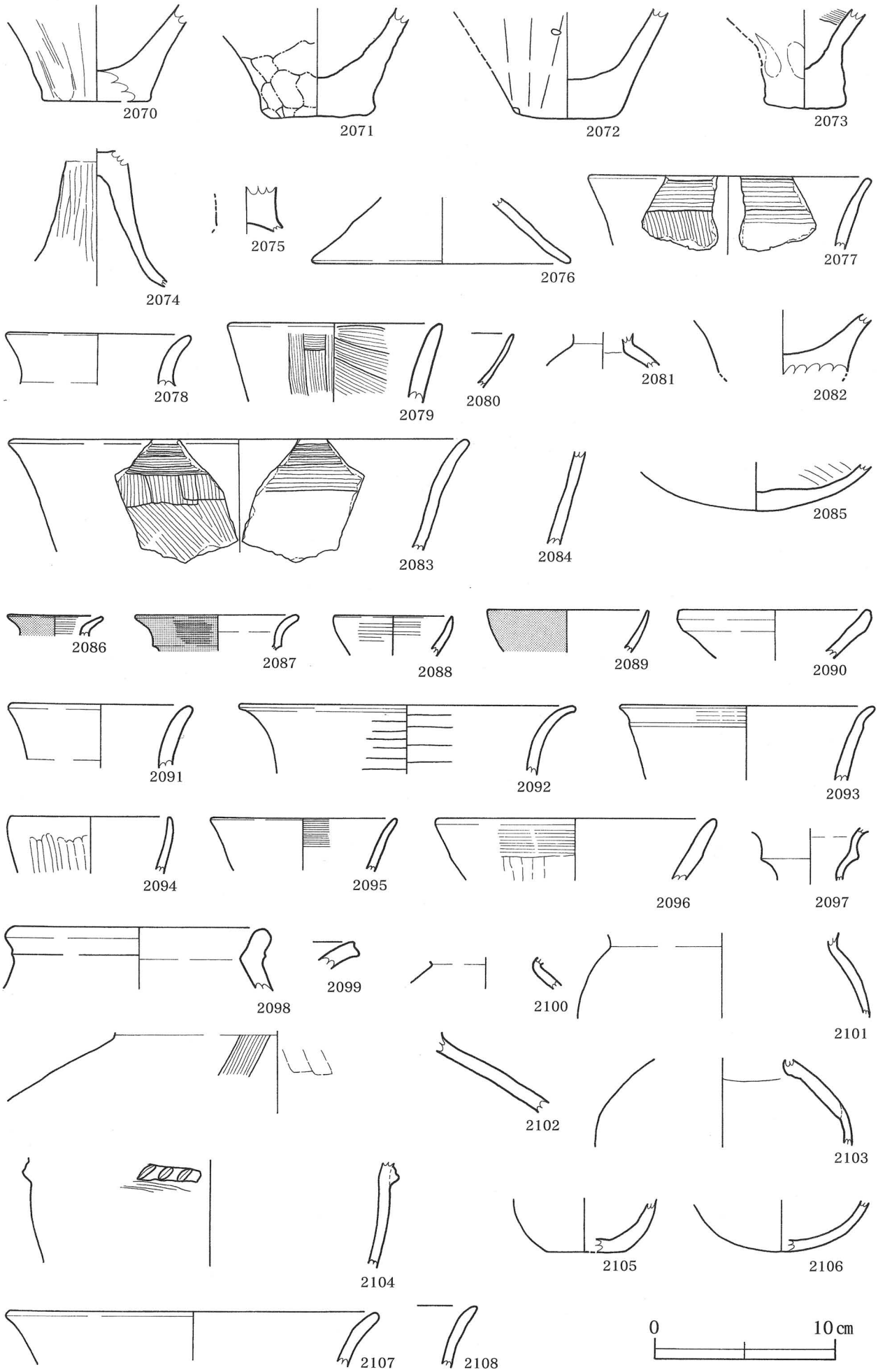


第140図　SA出土遺物実測図（47）

2037～2004：SA-43、2005～2056：SA-44

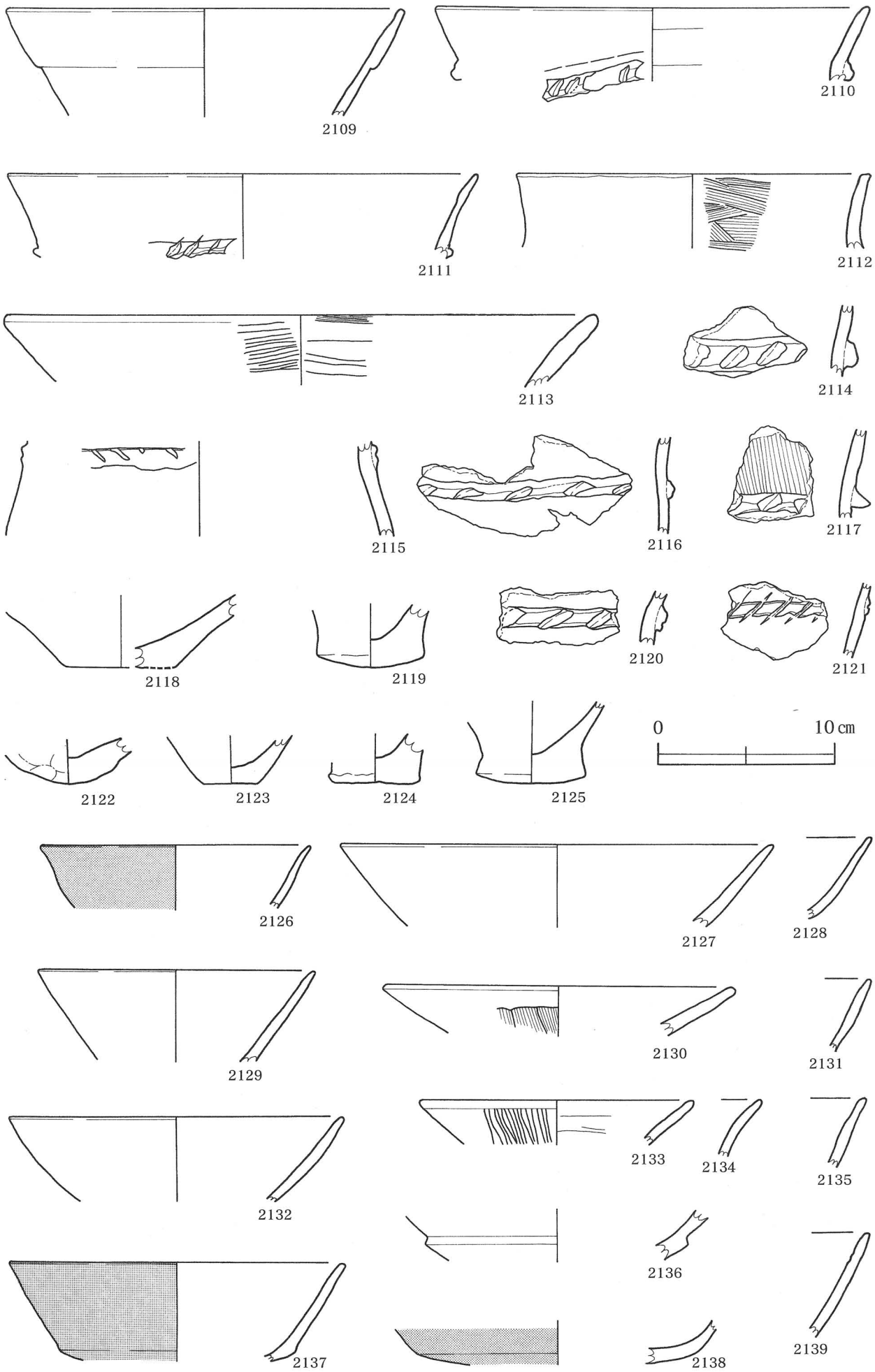


第141図　SA出土遺物実測図（48）　2063～2064・2066・2068・2069：SA-44、2057～2062・2065・2067：SA-45



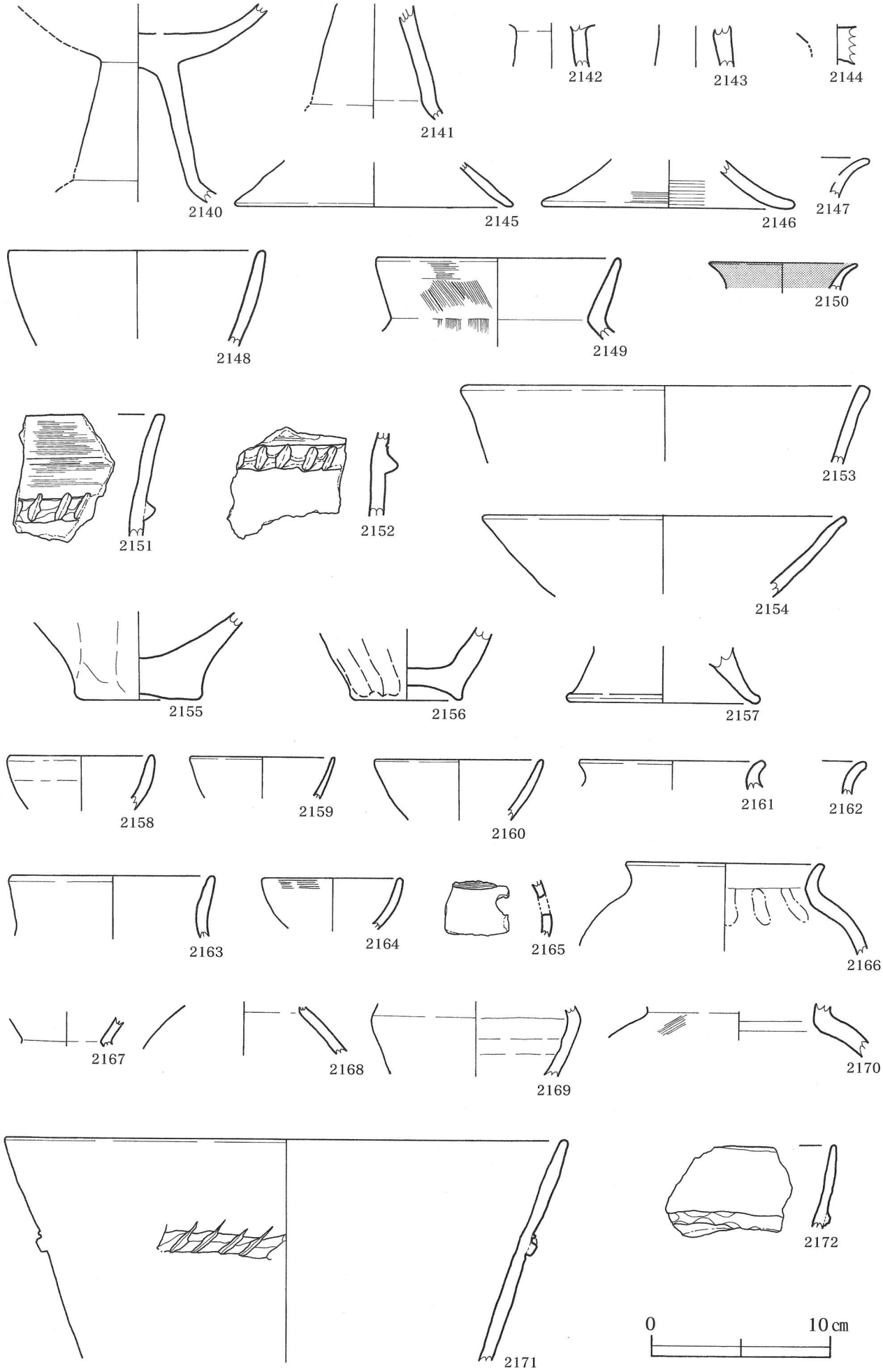
第142図　SA出土遺物実測図（49）

2070～2076：SA-45、2077～2085：SA-46、2086～2108：SA-47



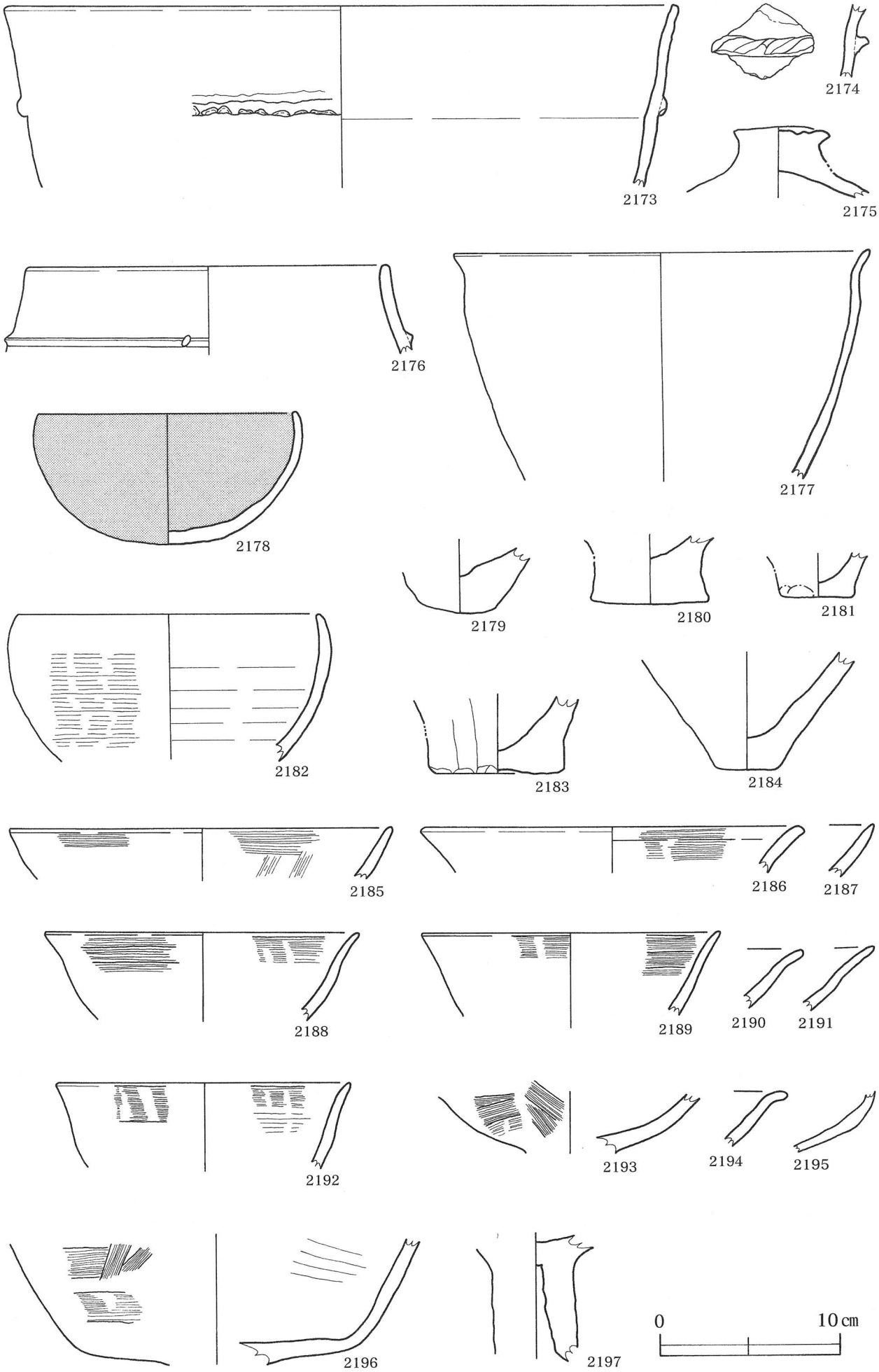
第143図　SA出土遺物実測図（50）

2109～2139：SA-47



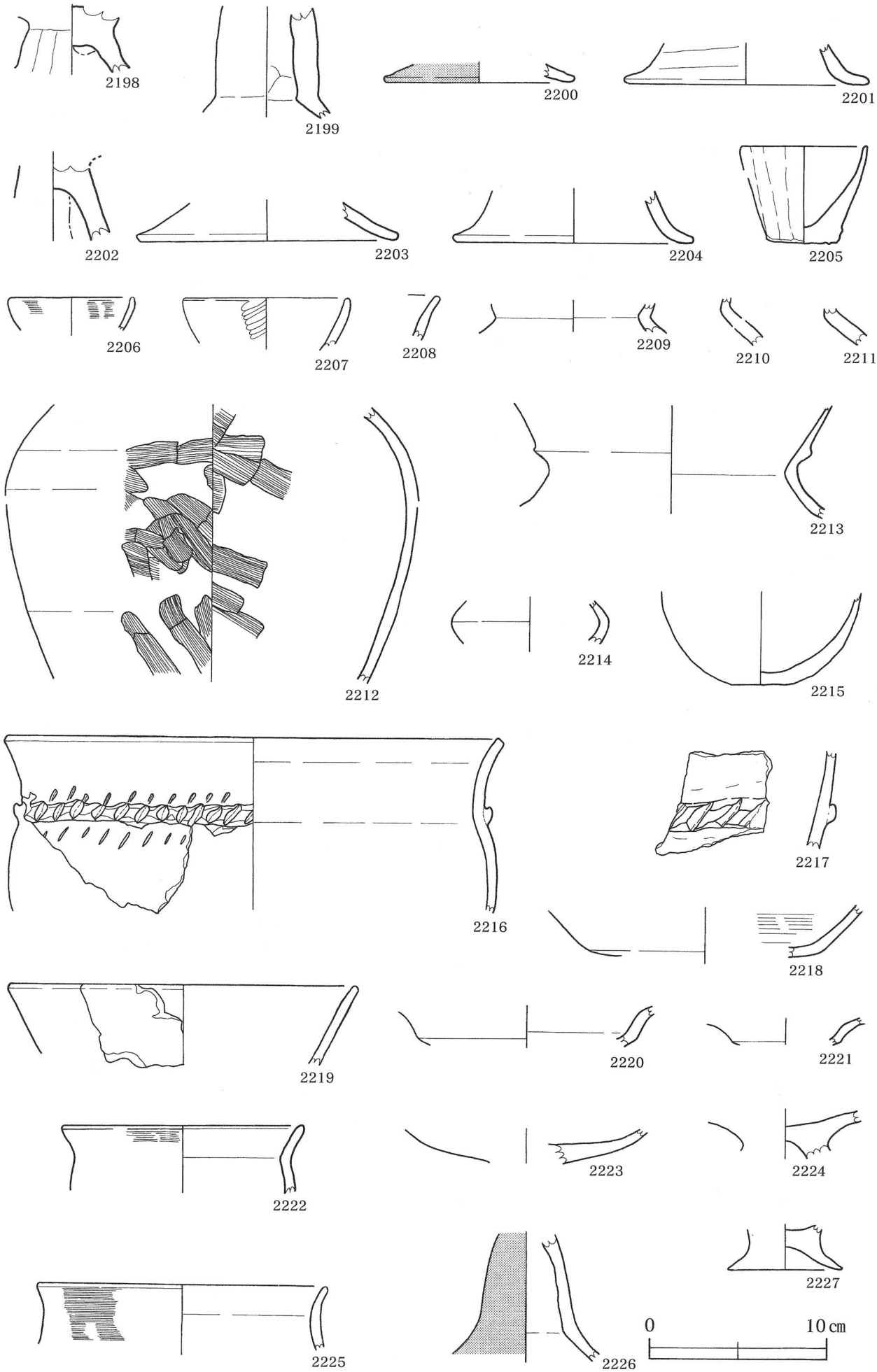
第144図　SA出土遺物実測図（51）

2140～2147：SA-47、2148～2157：SA-50、2158～2172：SA-52



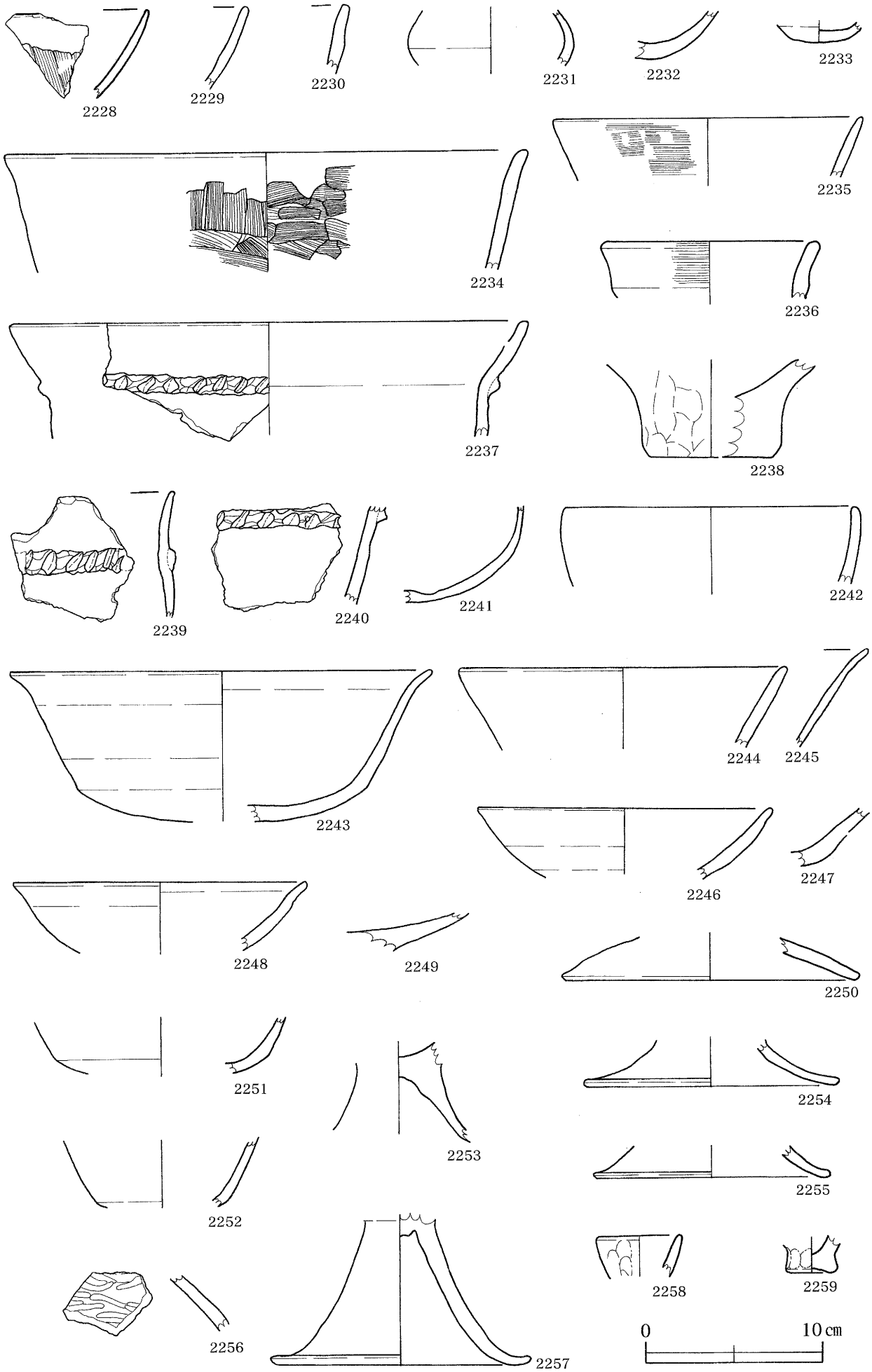
第145図　SA出土遺物実測図（52）

2173～2197：SA-52



第146図　SA出土遺物実測図（53）

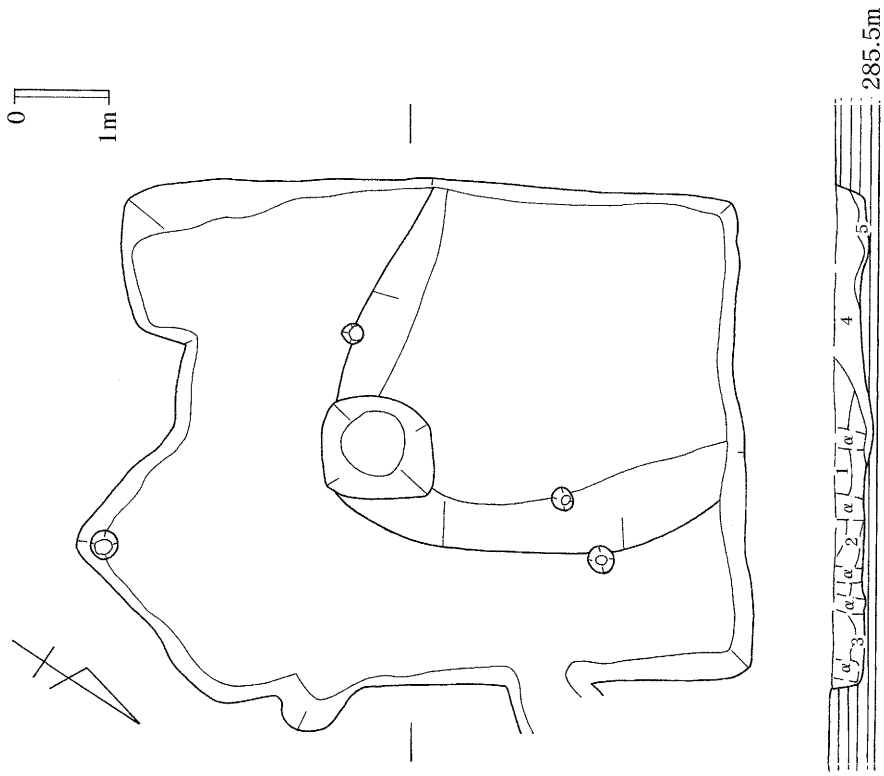
2198～2205：SA-52、2206～2221・2223・2224・2226・2227：SA-54、2222・2225：SA-55



第147図　SA出土遺物実測図（54）

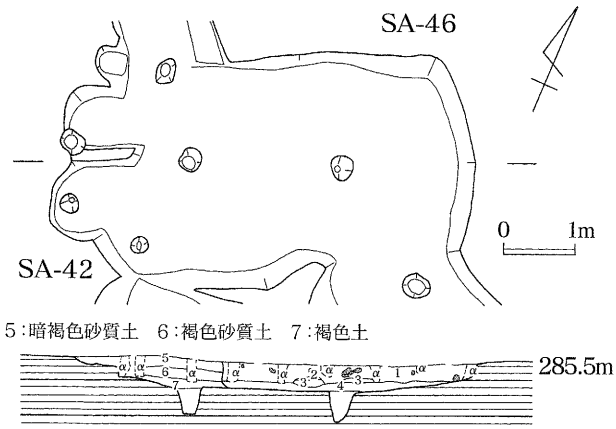
2228～2259：SA-55

45　1:暗灰褐色土　2:暗褐色砂質土　3:褐色土　4:灰赤褐色土　5:褐色土　α:攪乱



第148図　SA－45　遺構実測図

1:暗褐色砂質土　2:黒褐色土　3:褐色土　4:暗褐色粘質土



第149図　SA－42・46　遺構実測図

20㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、甕を中心とした土師器、石器は石匙が出土している。

SA－90（第195図、図版）

東西3.2m、南北2.8mの不整形を呈する住居である。柱穴は2個で径20～40㎝、深さ、20～50㎝を測る。出土遺物は少ない。

SA－91（第196図、図版62・63・174・175）

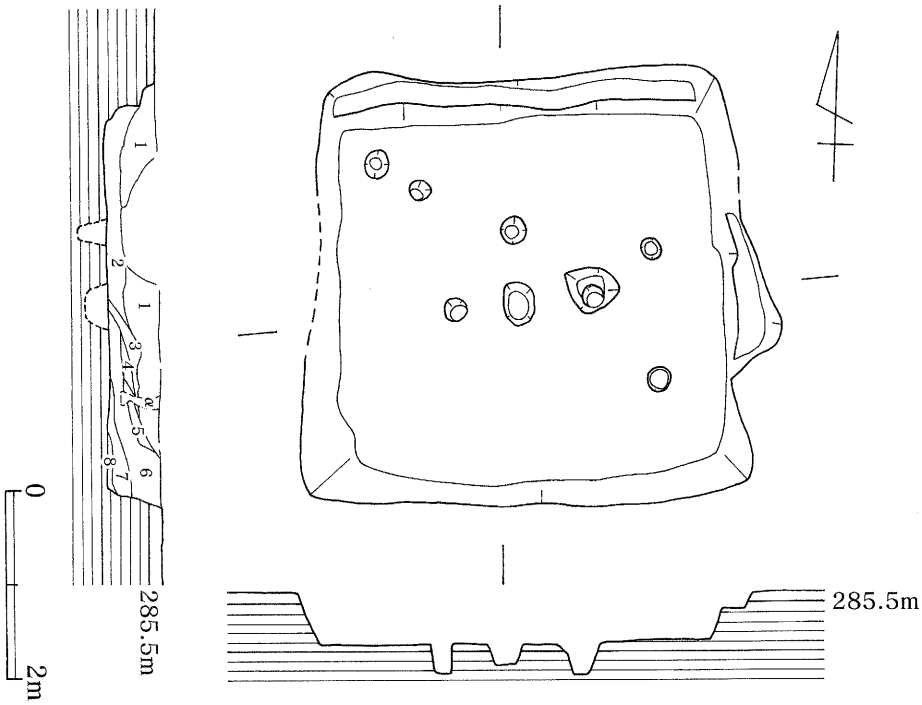
Ⅲ区北壁際に検出された、方形を呈すると推定される2段掘り状の住居である。床面までの深さはベッド上面までは30～40㎝、床面までの深さは80㎝を測る。柱穴は径15㎝～30㎝、深さは60㎝を測る。出土遺物は、縄文土器が数点と土師器が多く、器種としては壷・甕・高坏・ミニチュアがある。また、住居中央部、床面から15㎝ほど浮いた状態で須恵器の大甕が出土し、接合、復元をした結果、口径46.4㎝、最大胴径74㎝、器高104㎝を測る。石器は磨石・スクレイパーが出土している。

SA－93（第197図、図版63・64・175）

Ⅲ区の北壁にかかっている方形を呈すると思われる住居である。検出面から床面までの深さは70㎝を測る。柱穴はないが床面に径1.2mの円形の土坑が検出された。出土遺物は、甕・壷を中心として土師器が多量に出土しており、石器は磨製石鏃が出土している。

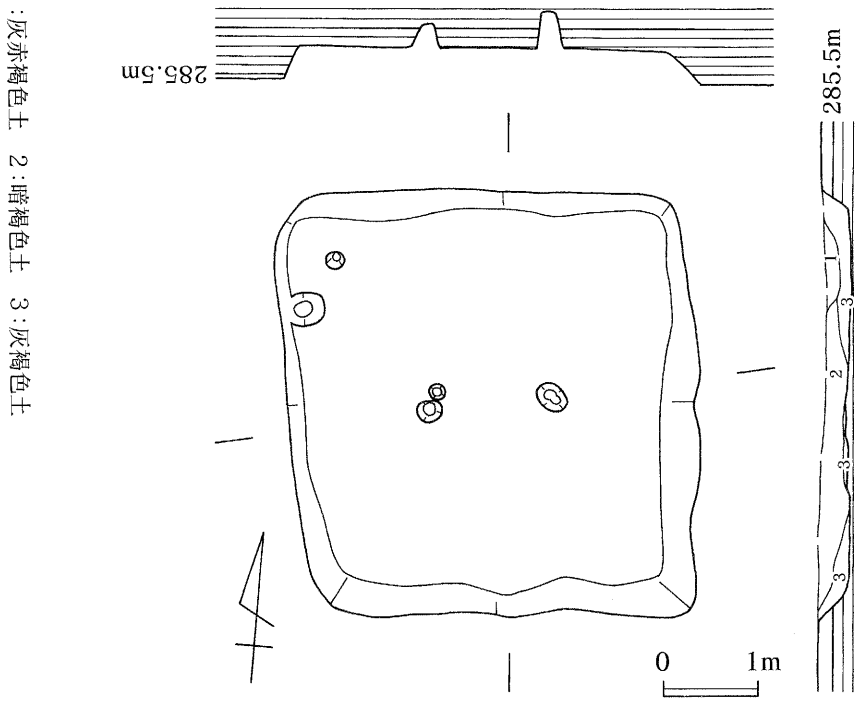
SA－95（第198図、図版64・176・177）

3.6×5mの西壁の中央部に長さ1.4m、幅0.4mの突出部をもつ方形の住居である。床面までの深さは20～30㎝を測る。柱穴は、径20～40㎝、深さ20～30㎝を測る。出土遺物は土師器が数点出土しており、器種は甕・高坏・壷・台付鉢がある。石器は磨製石斧・台石が出土している。



1：暗褐色砂質土　2：暗灰褐色土　3：暗褐色土　4：褐色土　5：暗褐色土
6：暗褐色砂質土　7：褐色土　8：黒褐色土　α：攪乱

第150図　SA－47　遺構実測図

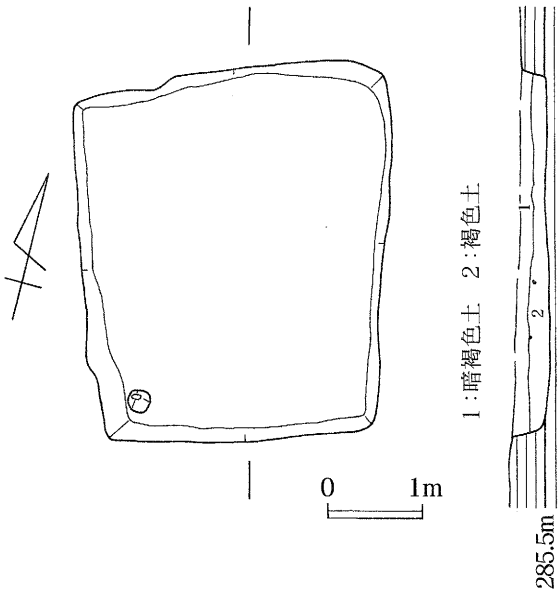


1：灰赤褐色土　2：暗褐色土　3：灰褐色土

第151図　SA－52　遺構実測図

SA－97（第199図、図版65・178）

Ⅳ区の北壁際に検出された住居である。西側を撹乱によって破壊されている。柱穴は3個で、径20㎝、深さ20～40㎝を測る。遺物は、縄文土器が数点と、弥生土器と土師器が出土しており、器種は甕・高坏がある。



第152図　SA－54　遺構実測図

SA－98（第200図、図版65・66・178）

Ⅳ区の南壁際に検出された住居で、東側を大きく攪乱によって破壊されており、詳細は不明であるが西側に突出した部分のみられる住居である。柱穴は6個で、径20～38㎝、深さ50～57㎝を測る。遺物は少ないが、弥生土器と土師器が出土しており、石器では打製石鏃が出土している。

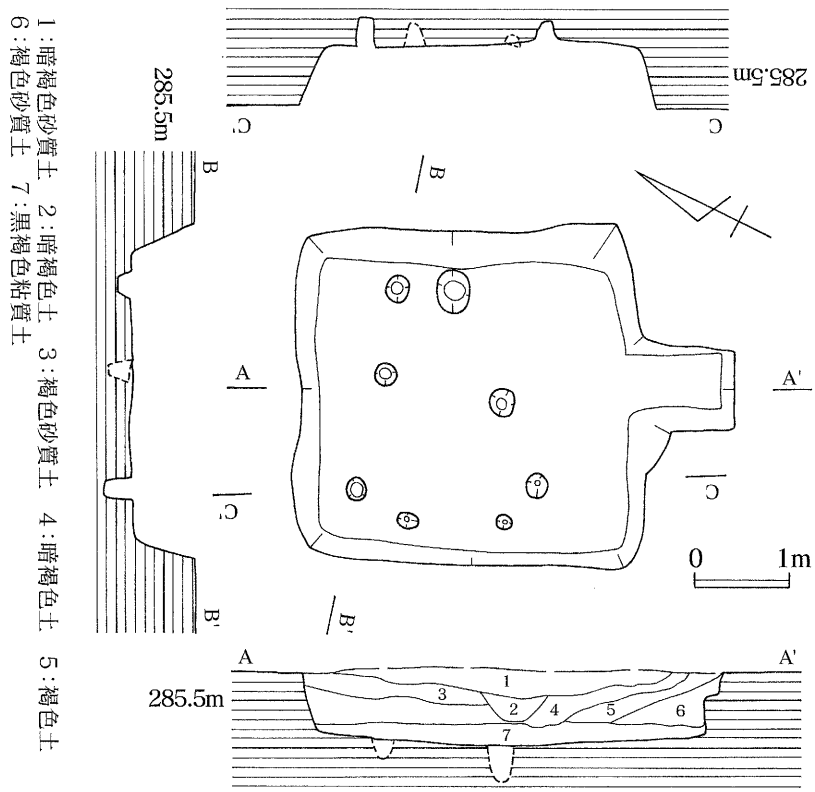
SA－100（第201図、図版66・179）

3.9×4.2mの方形を呈する住居である。床面までの深さは55㎝を測り、柱穴は、径20～30㎝、深さ20～55㎝を測る。遺物は少ないが、土師器の壷・高坏が出土しており、石器では砥石が出土している。

SA－101（第202図、図版67・179・180）

7.4×8.1mの方形を呈する2段掘りの住居である。検出面からベッド上面までは40㎝、床面までは50～60㎝を測る。柱穴は、径20～34㎝、深さは40～60㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器が多量に出土しており、器種は甕・壷・高坏がある。石器は台石が出土している。

SA－102（第202図、図版67・68・180）

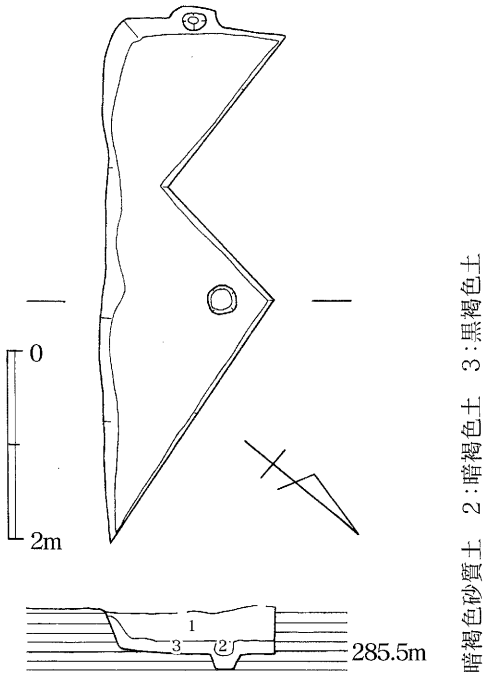


第153図　SA－55　遺構実測図

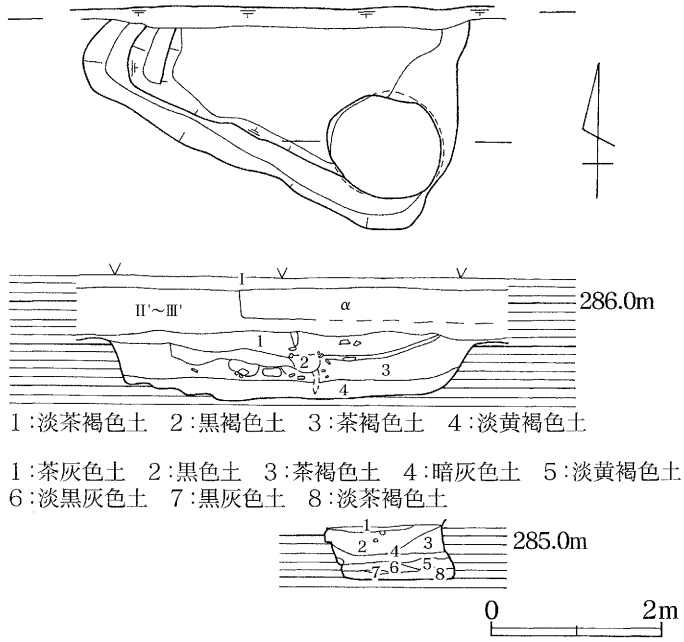
4.5×5.1mの方形を呈する住居である。住居中央部は長径2.6m、短径1.9mの楕円形を呈するテラスになっており、検出面からテラス面までは50㎝を測る。床面までは70㎝を測る。貼床が施されており、厚さは10㎝を測る。柱穴は、径20㎝、深さは20～50㎝を測る。住居内中央には径90㎝、深さ10㎝の掘り込みがあり、炉と思われる。遺物は壷・高坏を中心とした土師器が大量に出土しており、石器は磨石・砥石・台石が出土している。

SA－106（第203図、図版68・69・182）

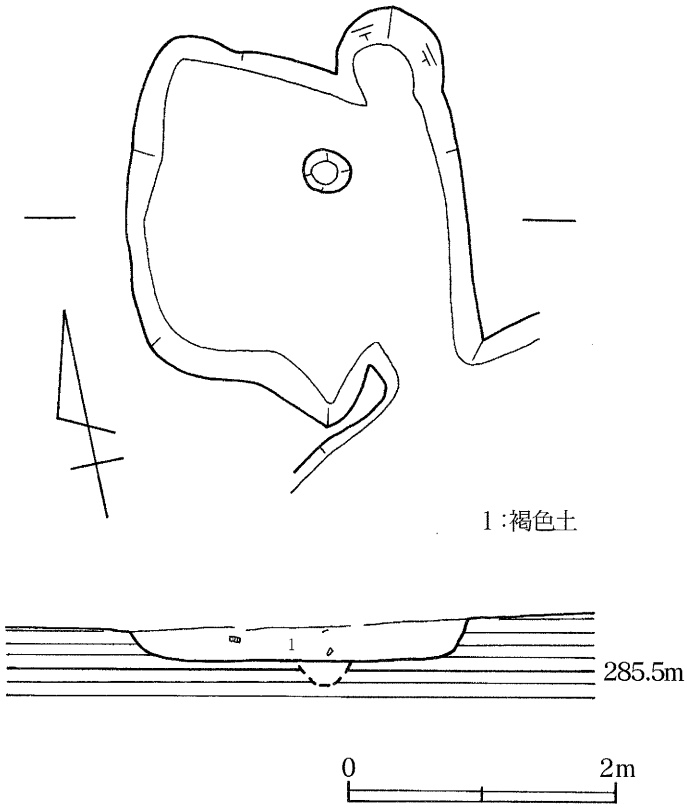
SA－107を切っている4.5×4.6mの方形を呈する住居で、床面までの



第154図　SA－56　遺構実測図



第155図　SA－59　遺構実測図



第156図　SA－60　遺構実測図

深さは30㎝を測る。柱穴は径20㎝、深さ18㎝を測る。遺物は弥生土器が出土しており、器種は壷・甕がある。

SA－107（第203図、図版68・69・182・183）

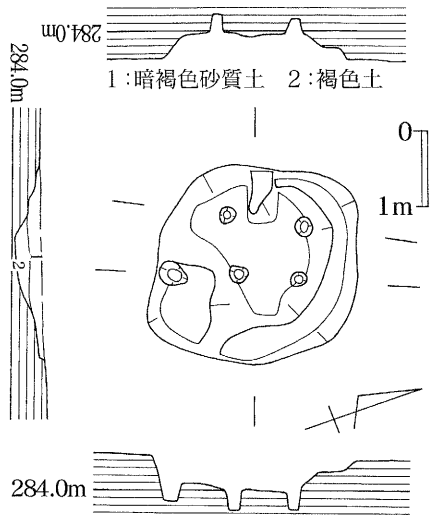
SA－106に西壁から北壁を切られており、詳細は不明であるが、推定で3×3mの方形を呈する住居で、床面までの深さは40～50㎝を測る。遺物は弥生土器が出土しており、器種は壷・甕がある。石器は石包丁が出土している。

SA－108（第204図、図版70）

北東隅を切られている住居で、規模は3.3×3.4m、床面までの深さは30㎝を測る。柱穴は径20～30㎝、深さは20～30㎝を測る。遺物はない。

SA－109（第205図、図版70・182・184）

SA－112によって切られており、推定で4.8×4.9mの方形を呈する住居である。床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は径26～56㎝、深さ30㎝を測る。遺物は少なく、土師器が数点と台石が1

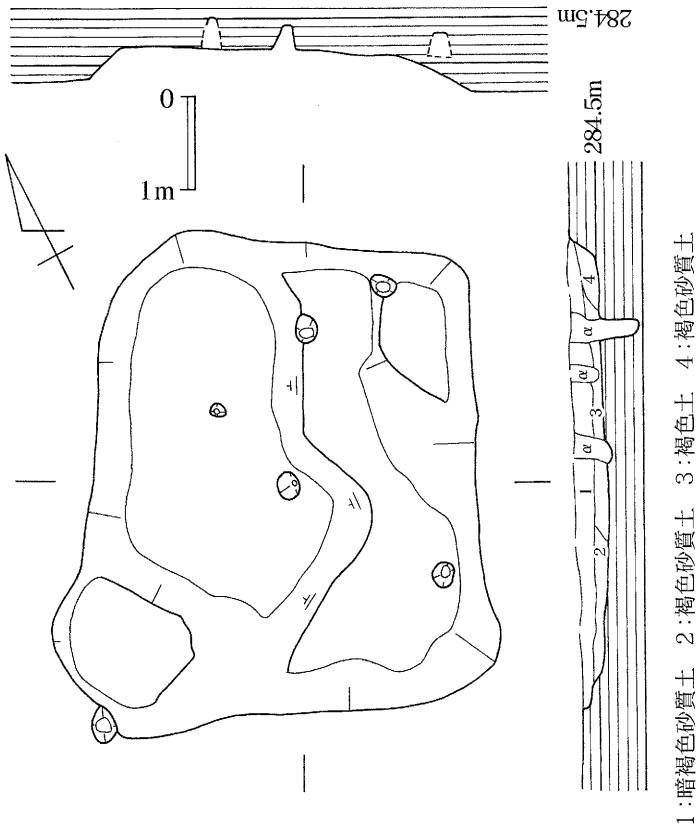


第157図　SA－61　遺構実測図

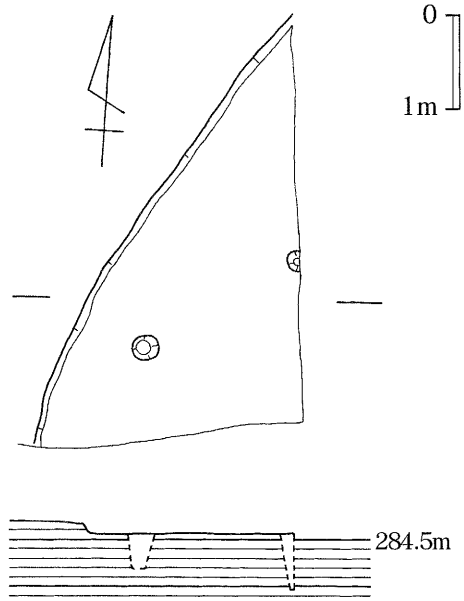
点出土している。

SA－110（第206図、図版71・184・185）

5.4×6.2mの方形を呈し、2段掘りの方形住居である。検出面からベッド上面までは60㎝、床面までは70㎝を測る。住居内の中央南よりの部分に土坑が検出され、多くの遺物が出土した。遺物は縄文土器が数点と、弥生土器・土師器が多く出土しており、器種は壷・甕が主体である。石器は磨製石鏃・打製石斧・磨製石斧・砥石・台石が出土している。



第158図　SA－62　遺構実測図



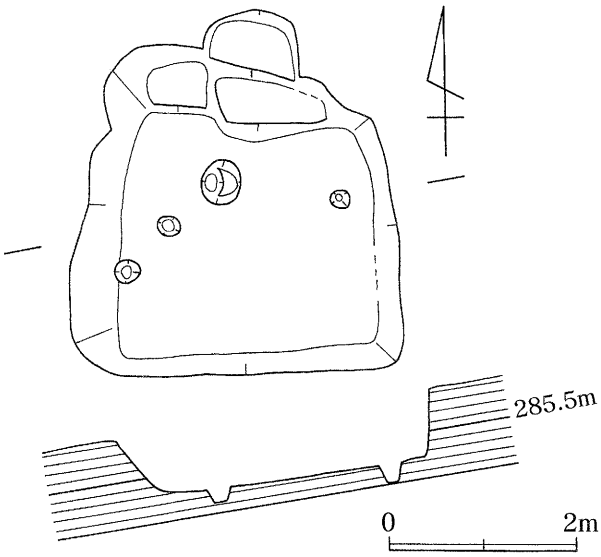
第159図　SA－63　遺構実測図

SA－111（第207図、図版71・186）

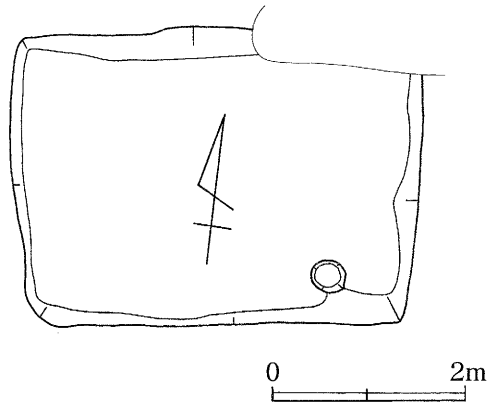
2.8×4.3mの方形を呈する住居で、床面までの深さは20㎝を測る。柱穴は20～50㎝、深さは25～30㎝を測る。遺物は非常に少ない。

SA－112（第205図、図版70・186）

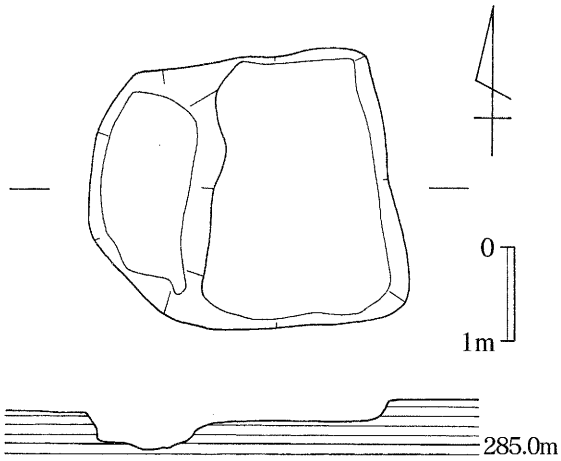
5.5×5.8mの方形を呈する住居で、床面までの深さは50㎝を測る。柱穴は径20～30㎝で、深さは30～50㎝を測る。遺物は少なく、土師器が数点出土している。また、住居中央から北よりの部分の床面直上に切子玉が出土している。



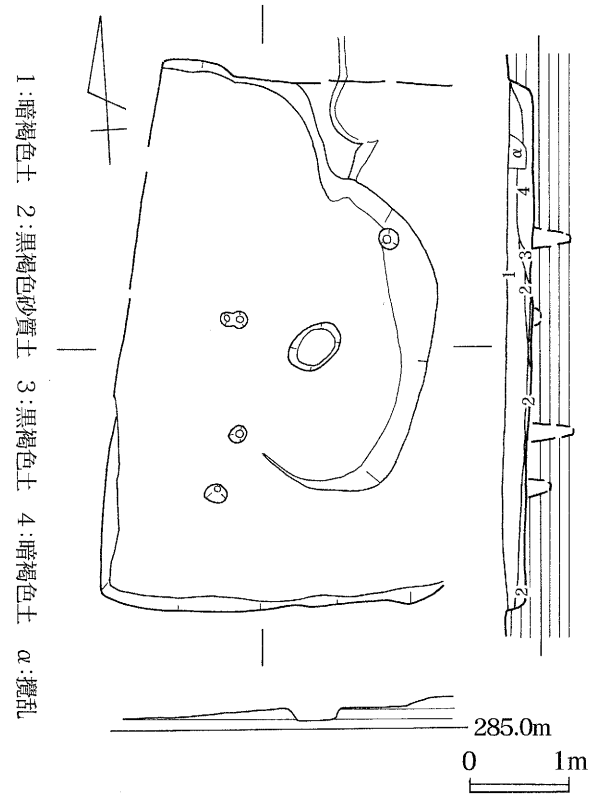
第160図　SA－64　遺構実測図



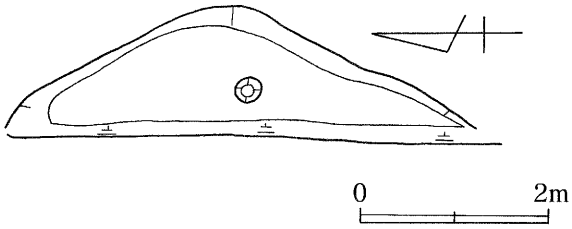
第162図　SA－67　遺構実測図



第161図　SA－65　遺構実測図



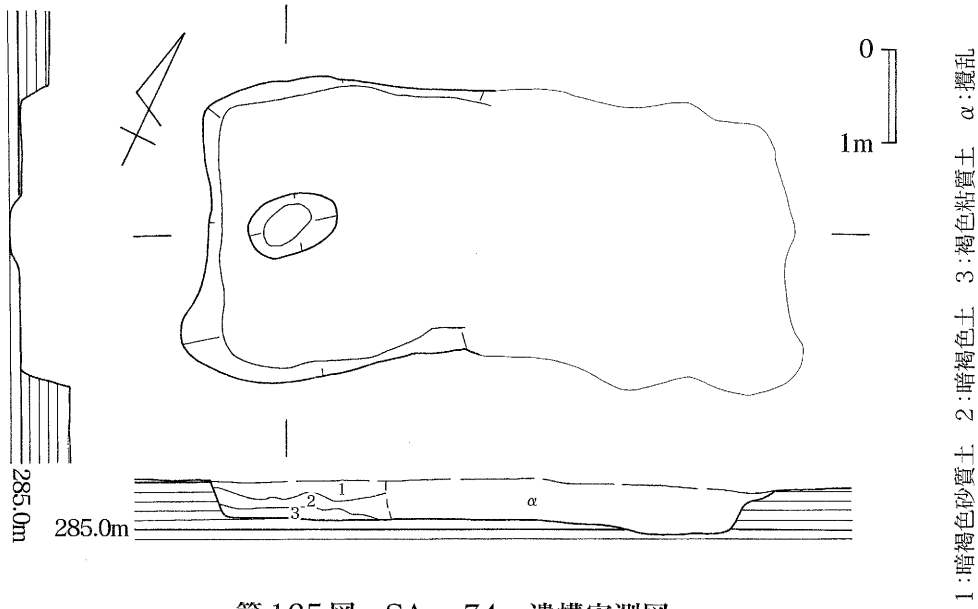
第163図　SA－72　遺構実測図



第164図　SA－73　遺構実測図

SA－115（第75図、図版72・186）

1辺6.5mの方形を呈する住居である。検出面から床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は4個で、径20～30㎝、深さは20～40㎝を測る。遺物は少なく、土師器が数点と、石器は打製石族・磨製石鏃が出土している。



第165図　SA－74　遺構実測図

SA－116（第208図、図版72・187）

西側を攪乱によって破壊されている方形を呈する住居で現況では3.2×2.4mを測る。床面までの深さは10㎝を測る。柱穴は7個で径20～38㎝、深さは20～40㎝を測る。出土遺物は非常に少なく、石器は砥石が出土している。

SA－117（第208図、図版73・187）

SD－17・18に切られているが、現況で3.7×4.4mの方形を呈する住居である。柱穴は2個で、径25～30㎝、深さは25～38㎝を測る。出土遺物は非常に少ない。

SA－118（第223図、図版187）

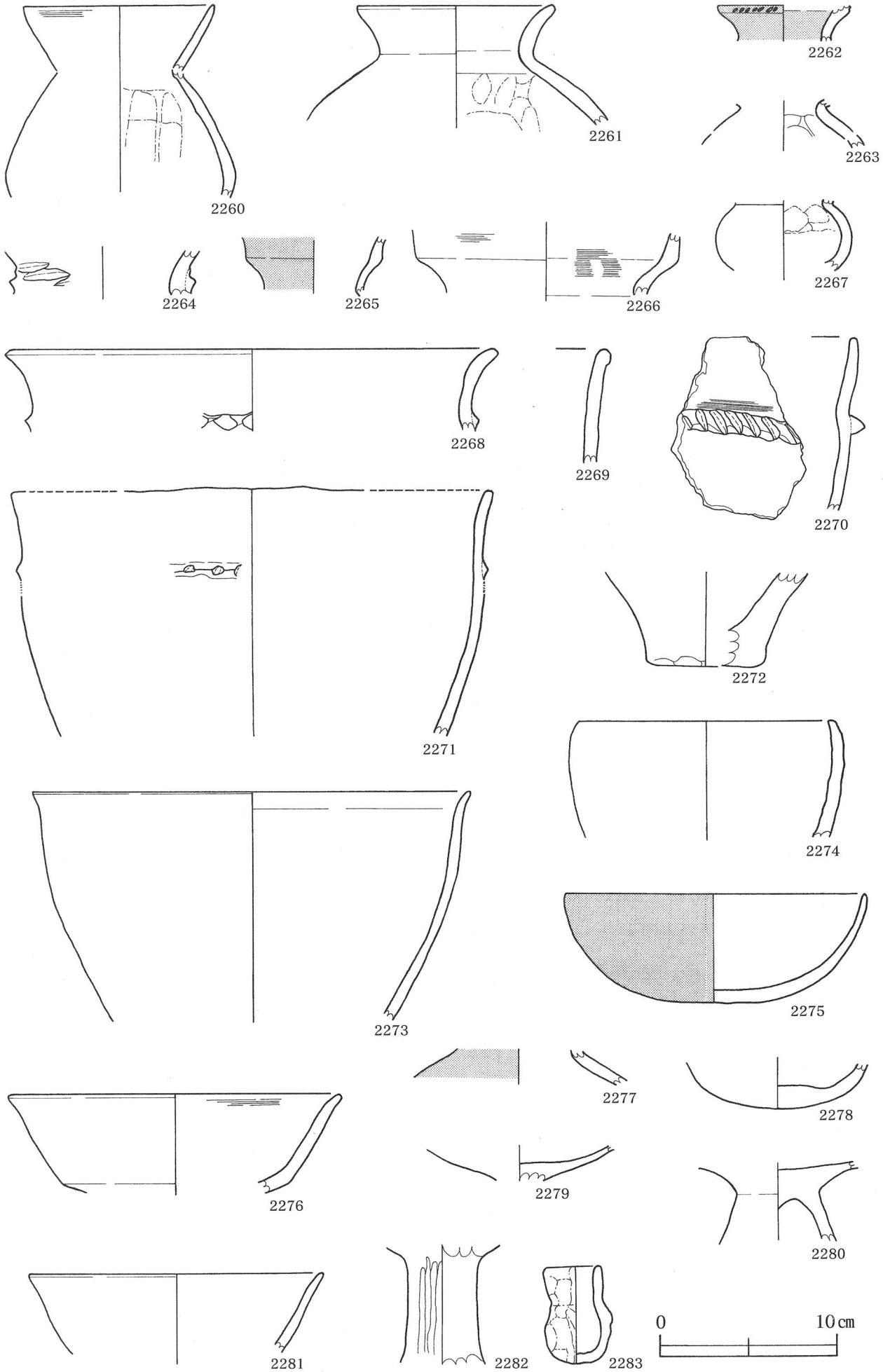
SD－17・18に切られており、また南側を攪乱によって破壊されている住居である。柱穴は2個で径20～40㎝、深さ40㎝を測る。中央に90×60㎝、深さ10㎝の炉と思われる窪みがある。出土遺物は少ない。

SA－120（第224図、図版74・187・188）

7.5×7.6mのほぼ正方形を呈する住居で、北半分から東側にベッド状遺構を有する。検出面からベッド上面までは20～30㎝、床面までは25～30㎝を測る。柱穴は、径15～30㎝、深さ10～70㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、土師器の高坏・甕・壷を中心に多量に出土しており、石器は打製石鏃・磨石・石核（チャート）が出土している。

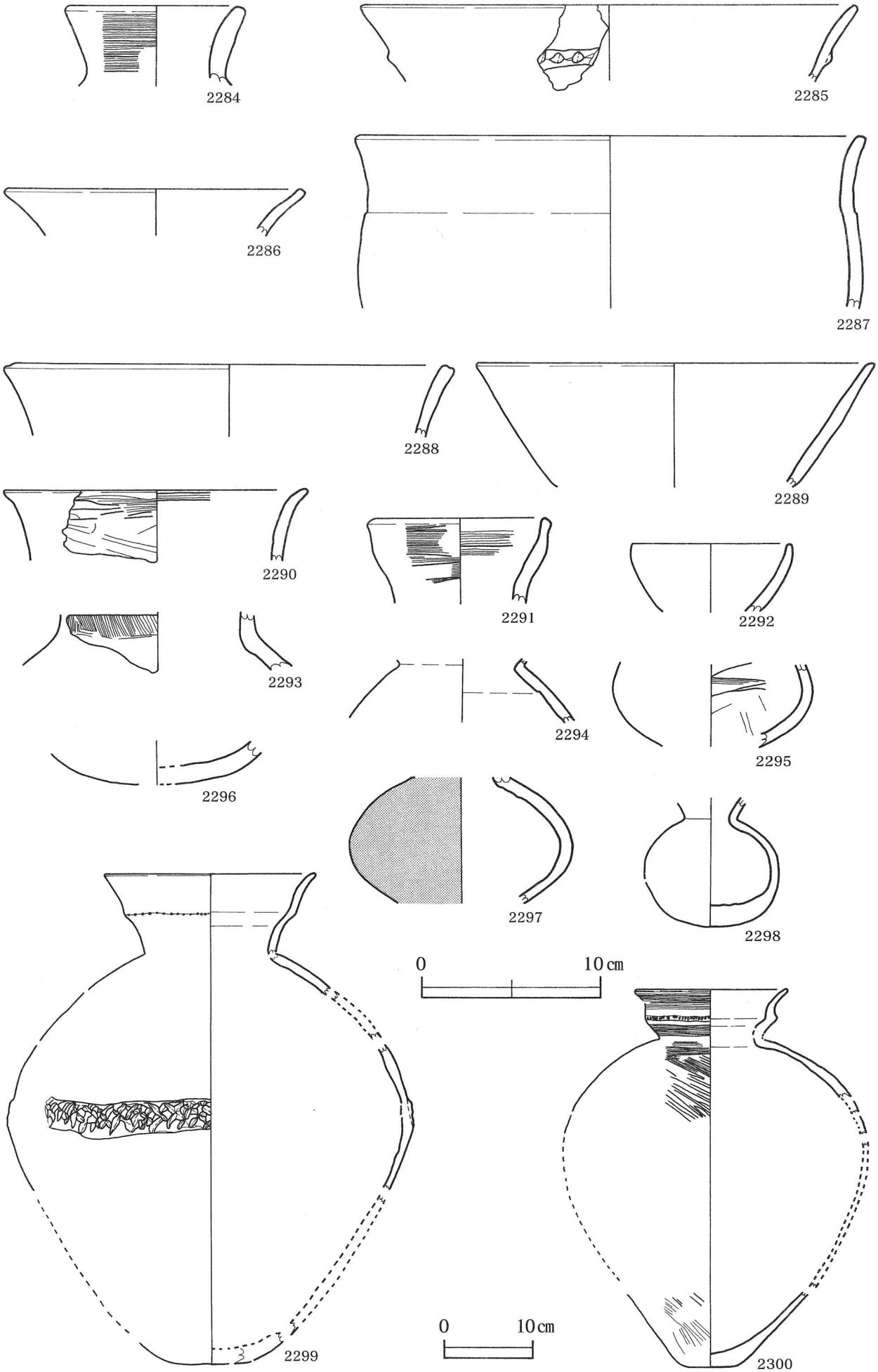
SA－121（第225図、図版74・189・190）

東西5.8m、南北4.8mの方形を呈する住居である。検出面から床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は6個で、径20～30㎝、深さは20～30㎝を測る。遺物は、土師器の甕が多く出土しており、石器は打製石鏃・石匙・石包丁が出土している。



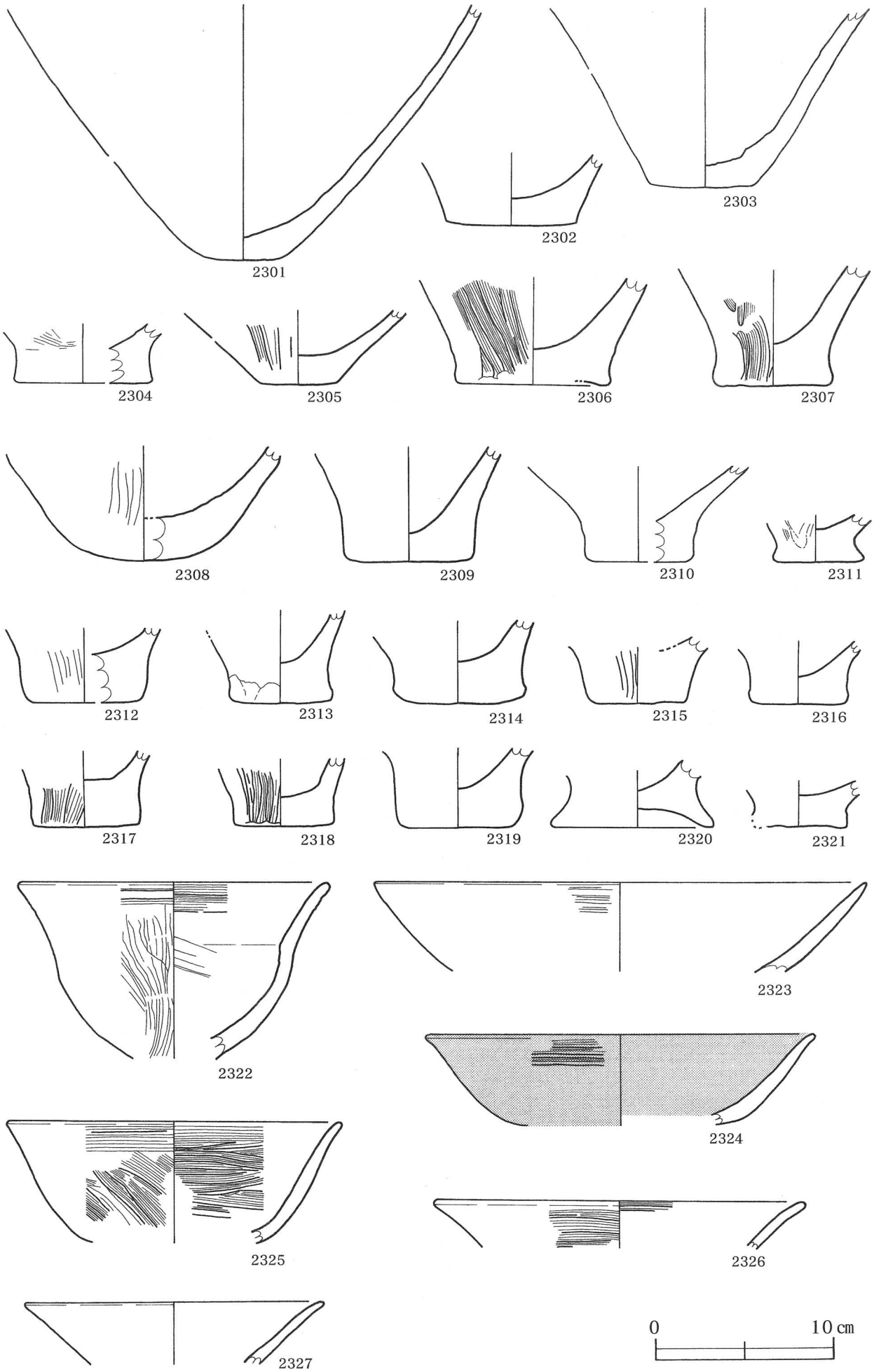
第166図　SA出土遺物実測図（55）

2260～2283：SA-56



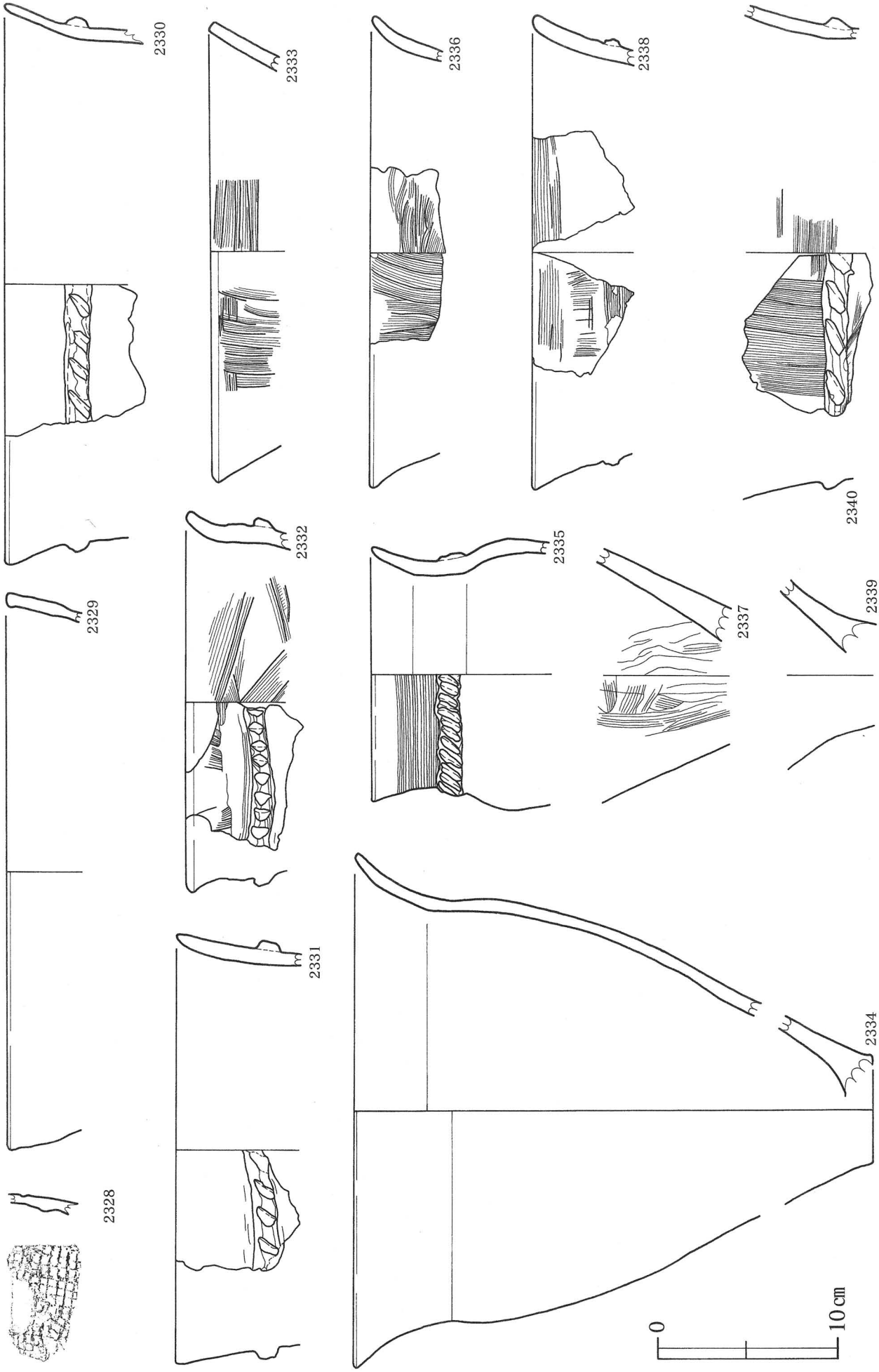
第167図　SA出土遺物実測図（56）

2284～2289：SA-58、2290～2300：SA-59



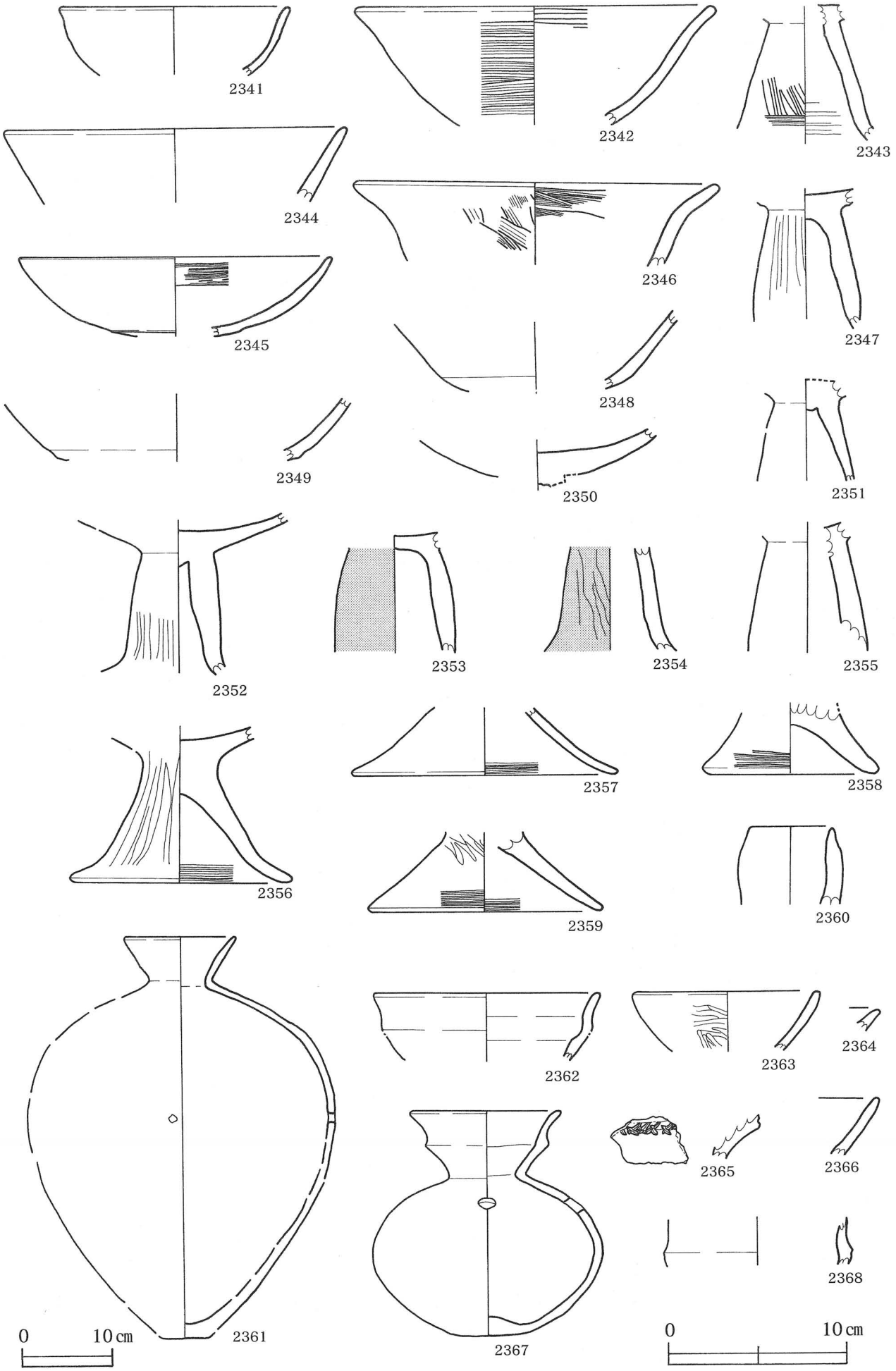
第168図　SA出土遺物実測図（57）

2301～2327：SA-59



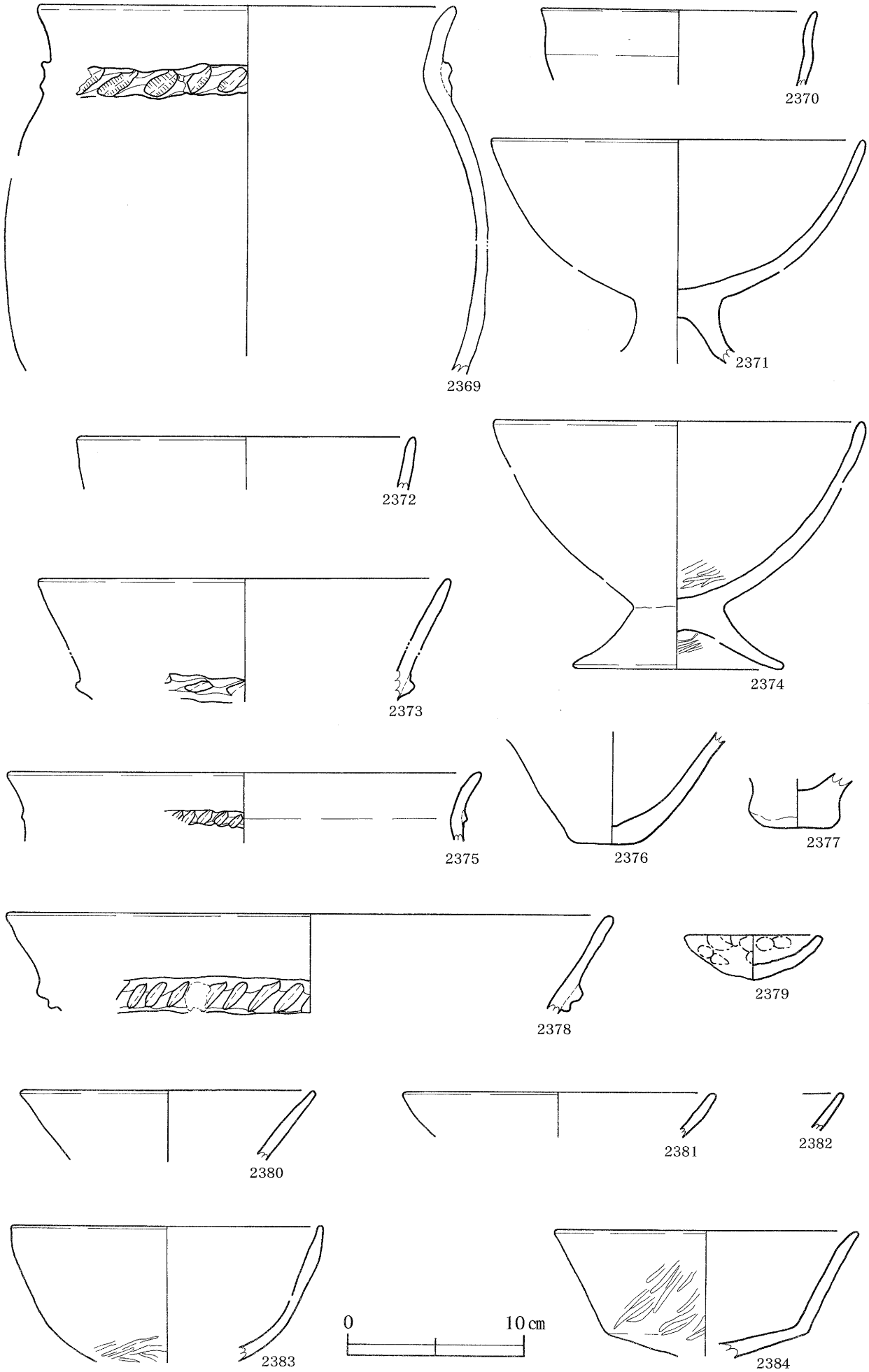
第169図　SA出土遺物実測図（58）

2328～2340：SA-59



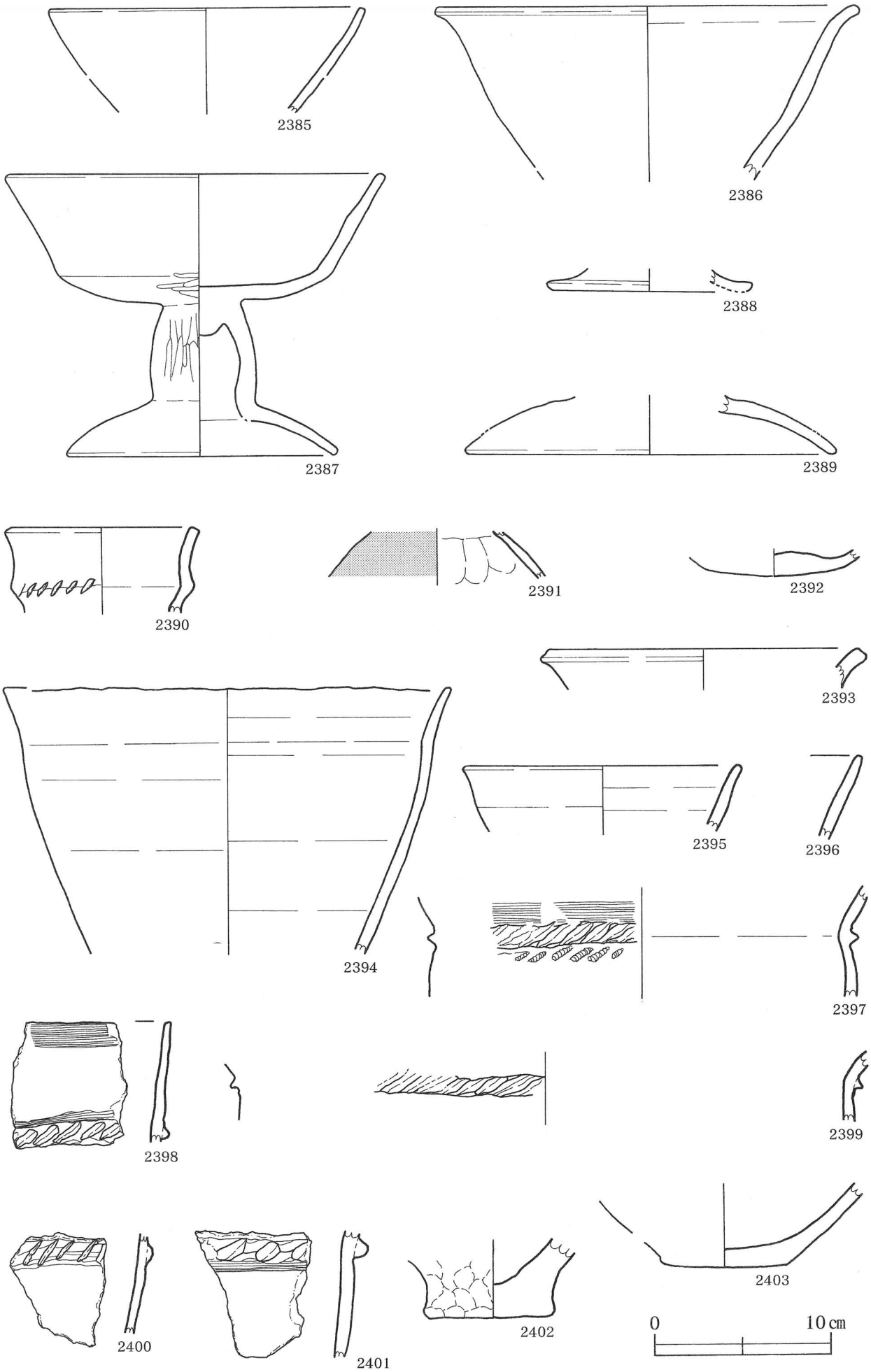
第170図　SA出土遺物実測図（59）

2341～2360：SA-59、2361～2368：SA-09



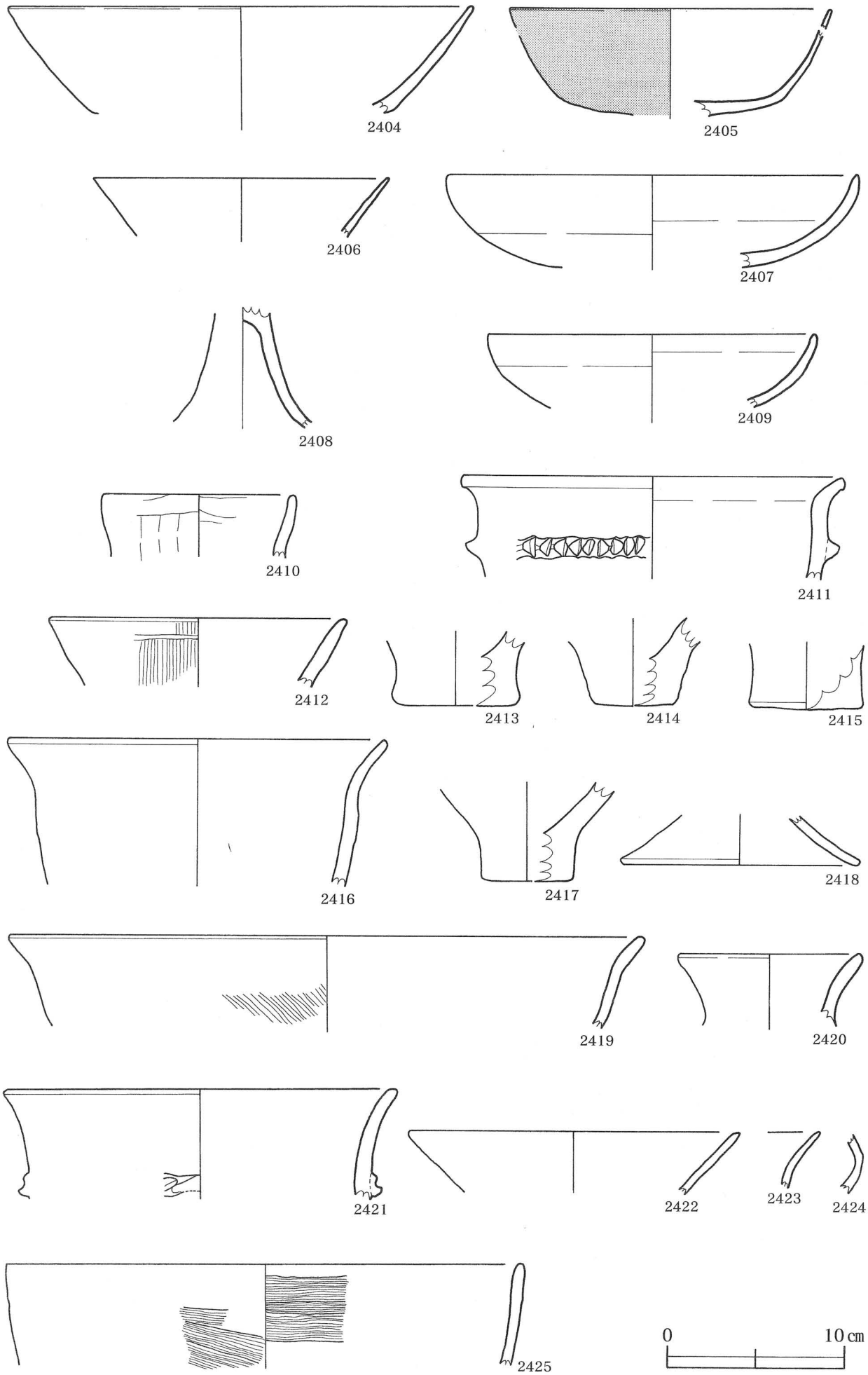
第171図　SA出土遺物実測図（60）

2369～2384：SA-09

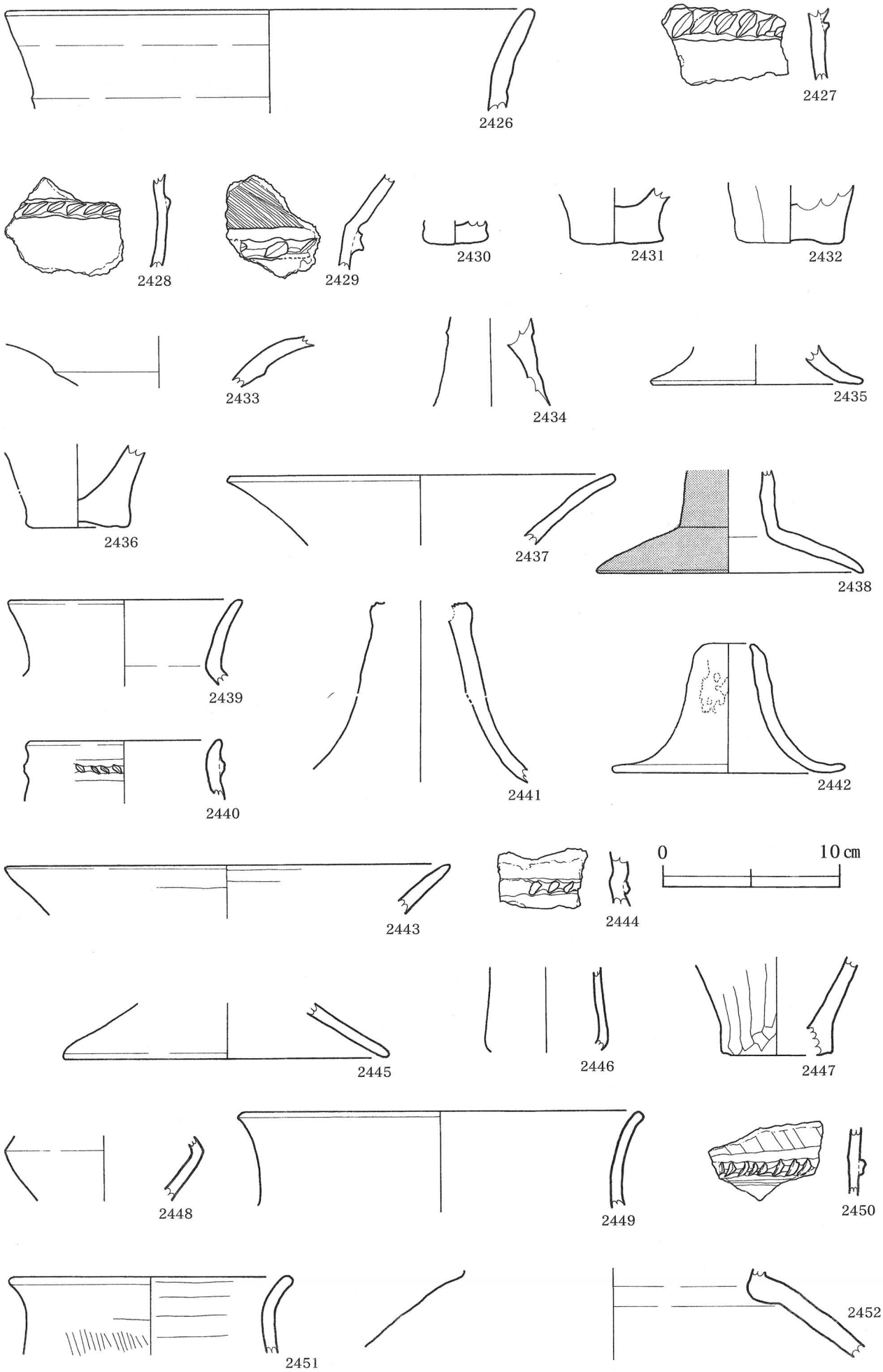


第172図　SA出土遺物実測図（61）

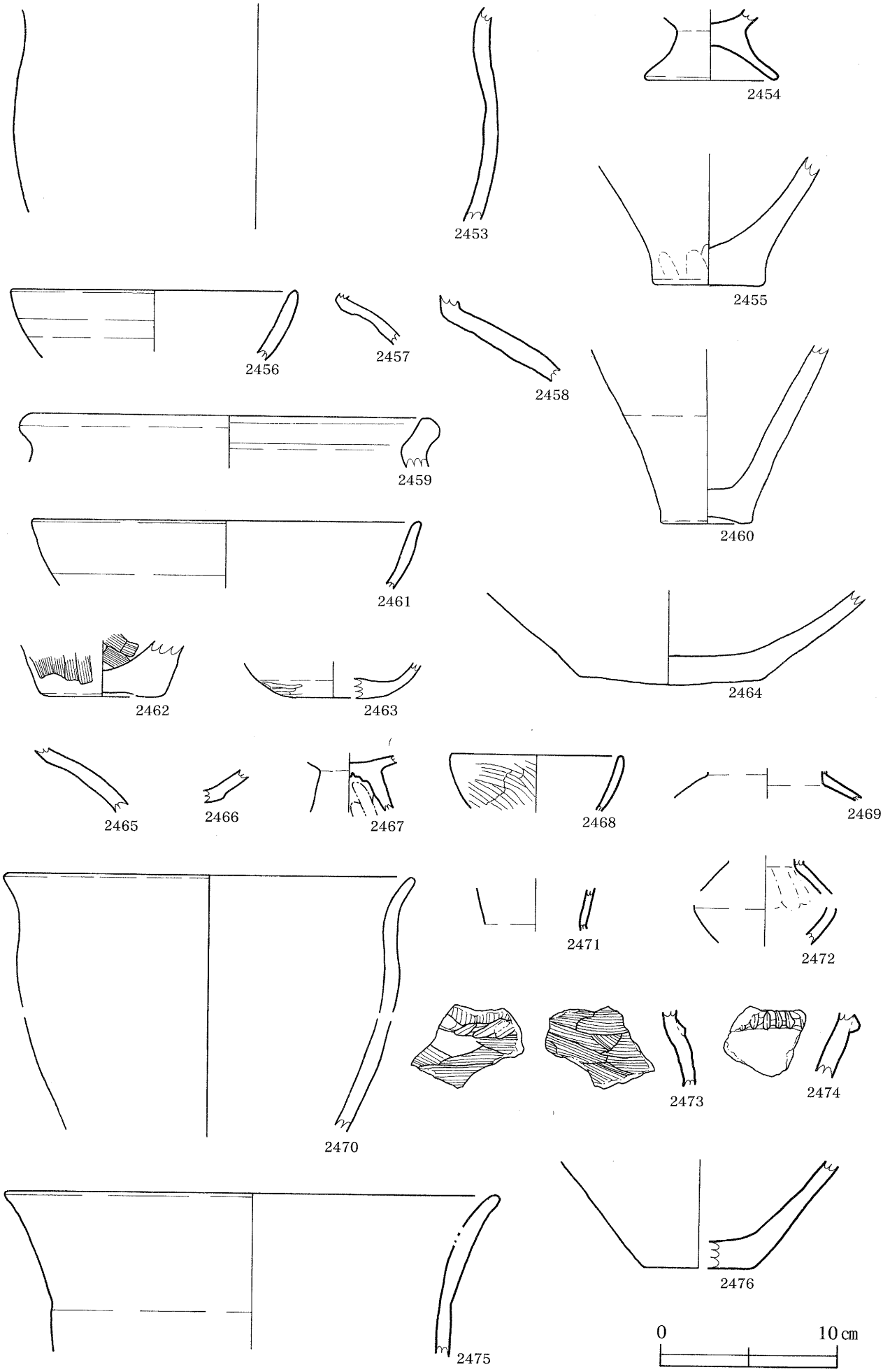
2385～2389：SA-09、2390～2403：SA-60



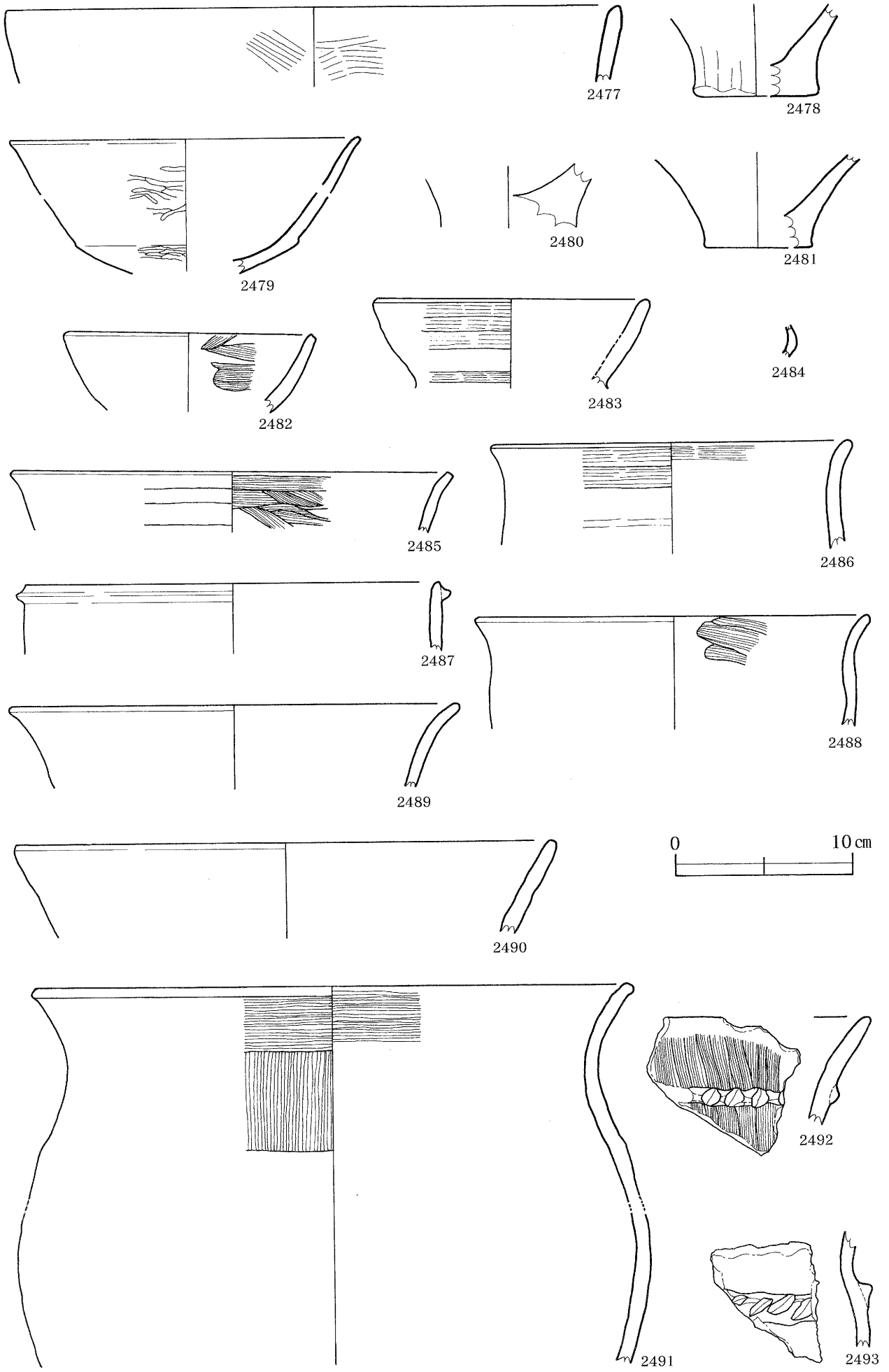
第173図　SA出土遺物実測図（62）　2404～2409：SA-60、2410～2418：SA-62、2419・2421：SA-63、2420・2422～2425：SA-64



第174図　SA出土遺物実測図（63）　2426～2435：SA-64、2436～2438・2441・2442：SA-65、2439・2440・2443～2447：SA-67、2448～2452：SA-68

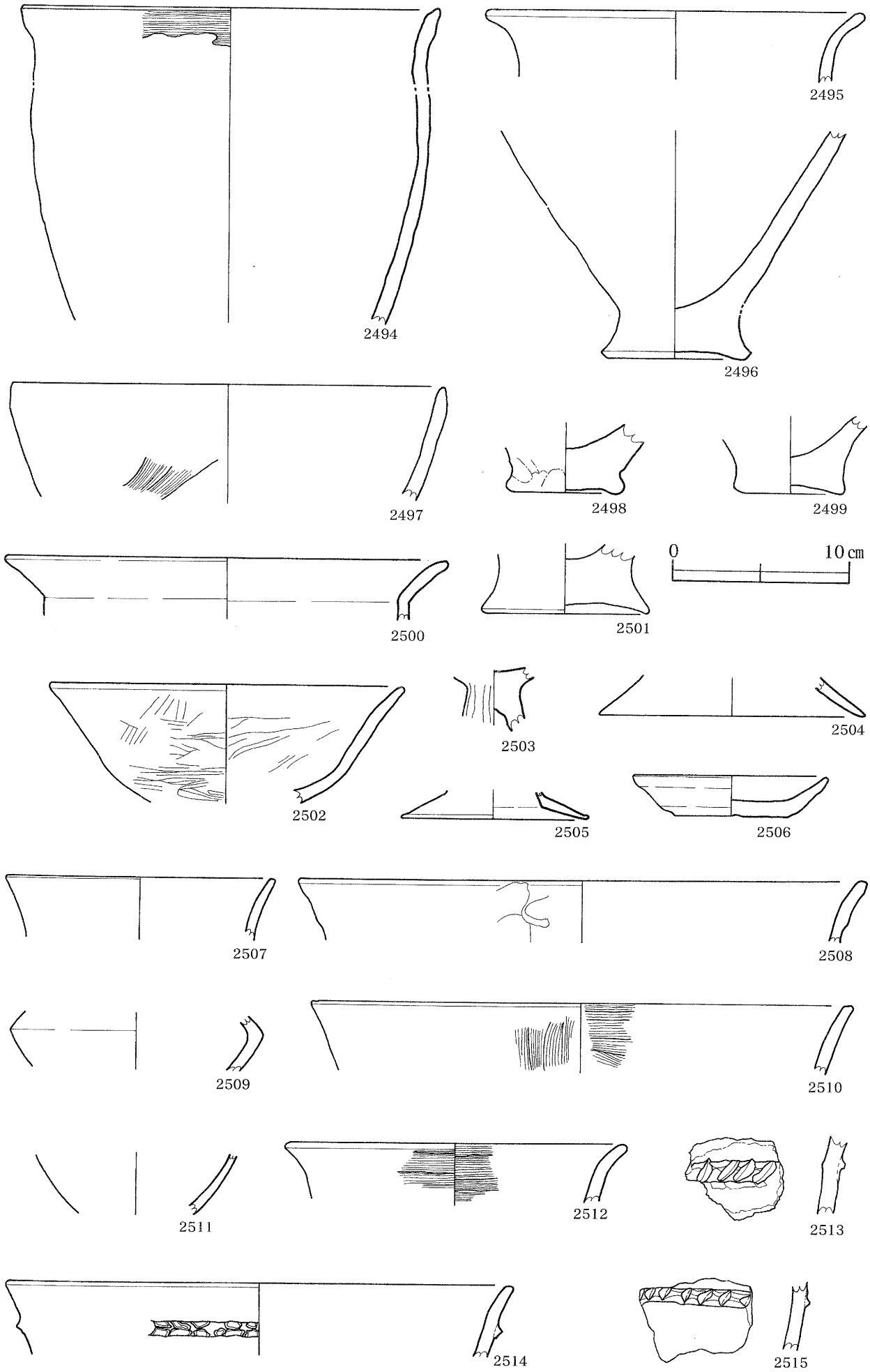


第175図　SA出土遺物実測図（64）　2453～2454：SA-68、2455～2464：SA-72、2465～2467：SA-73、2468～2476：SA-74



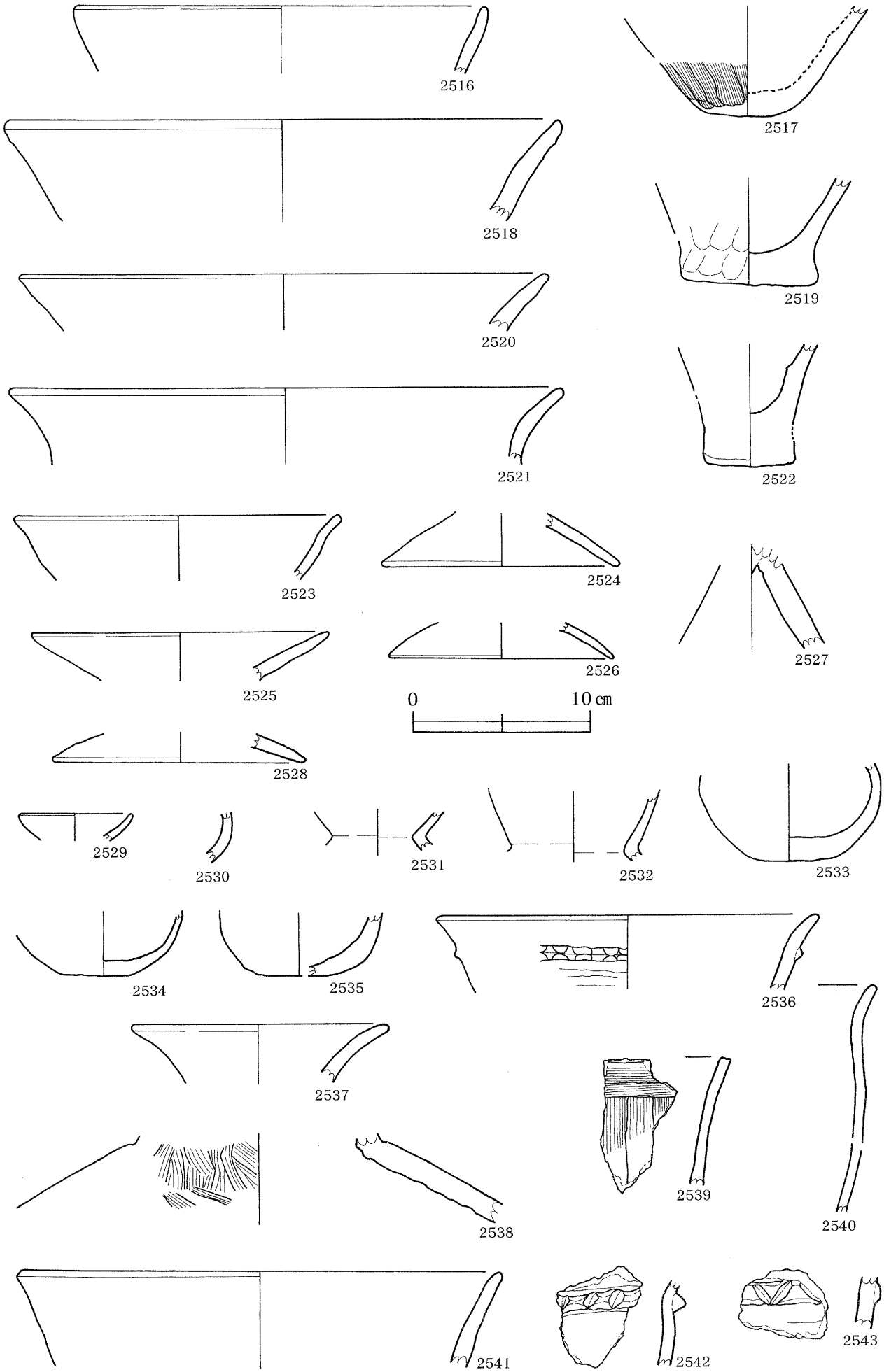
第176図　SA出土遺物実測図（65）

2477～2481：SA-74、2482～2493：SA-75



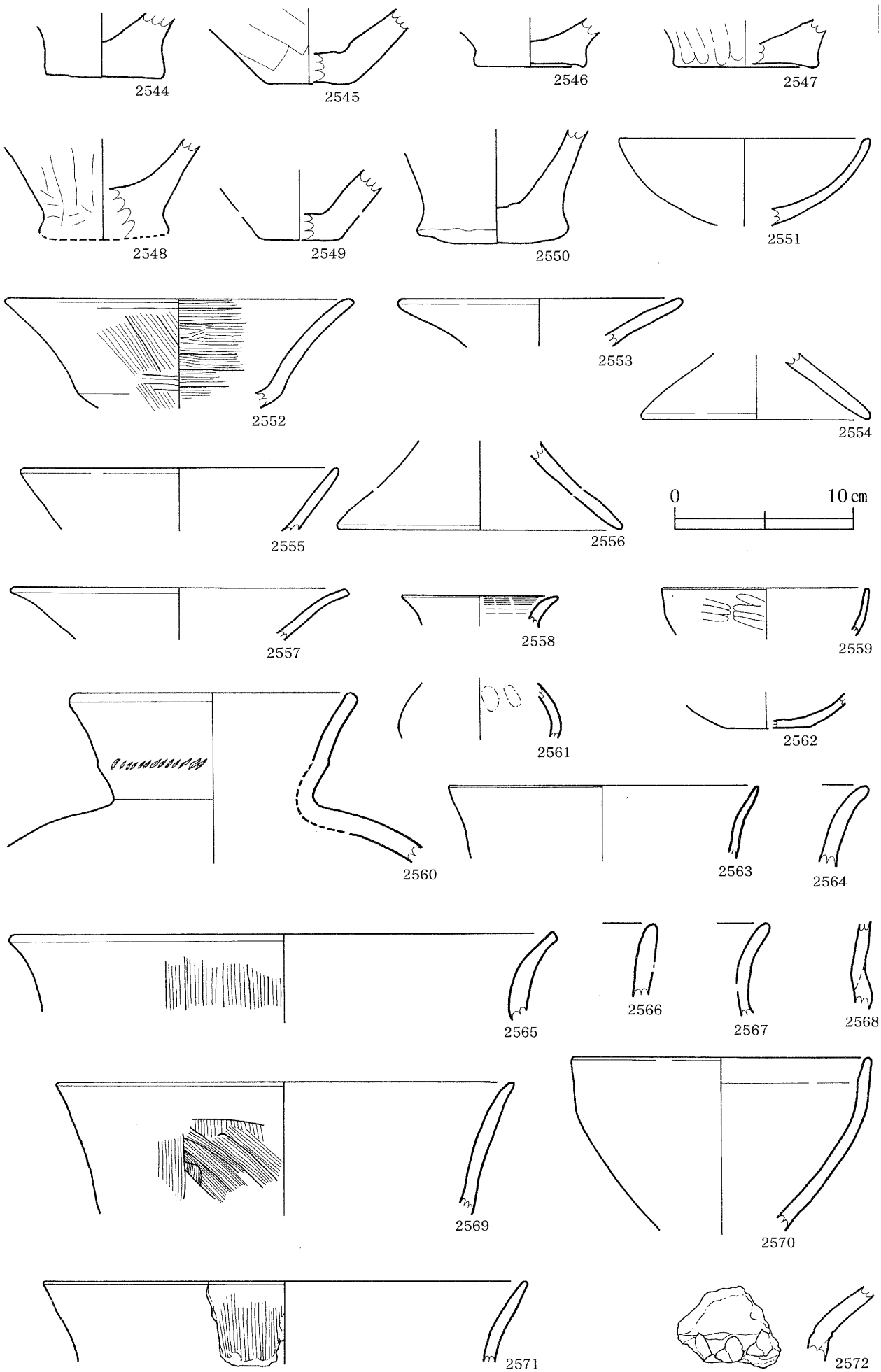
第177図　SA出土遺物実測図（66）

2494～2506：SA-75、2507～2515：SA-78



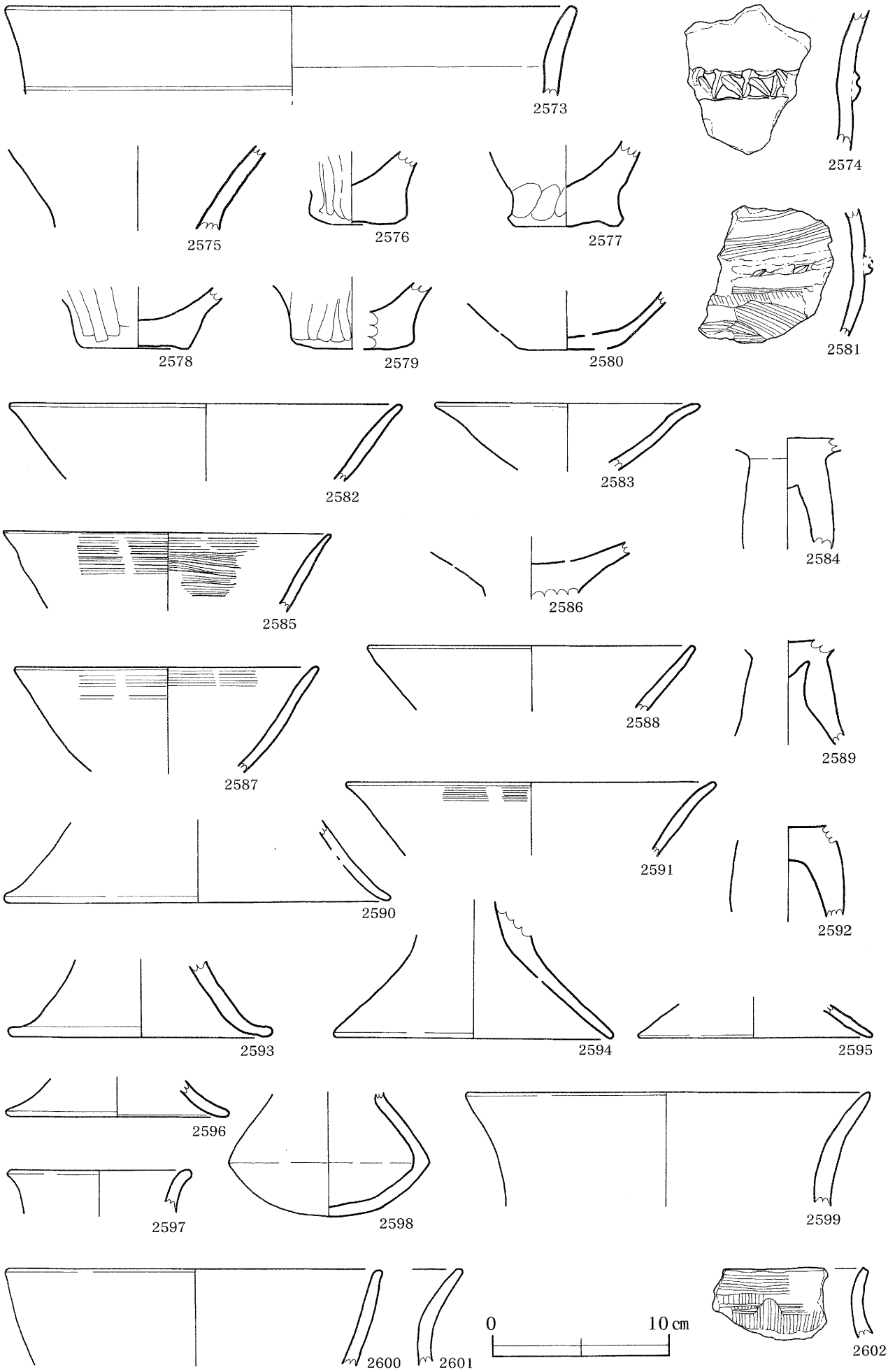
第178図　SA出土遺物実測図（67）

2516～2528：SA-78、2529～2543：SA-79



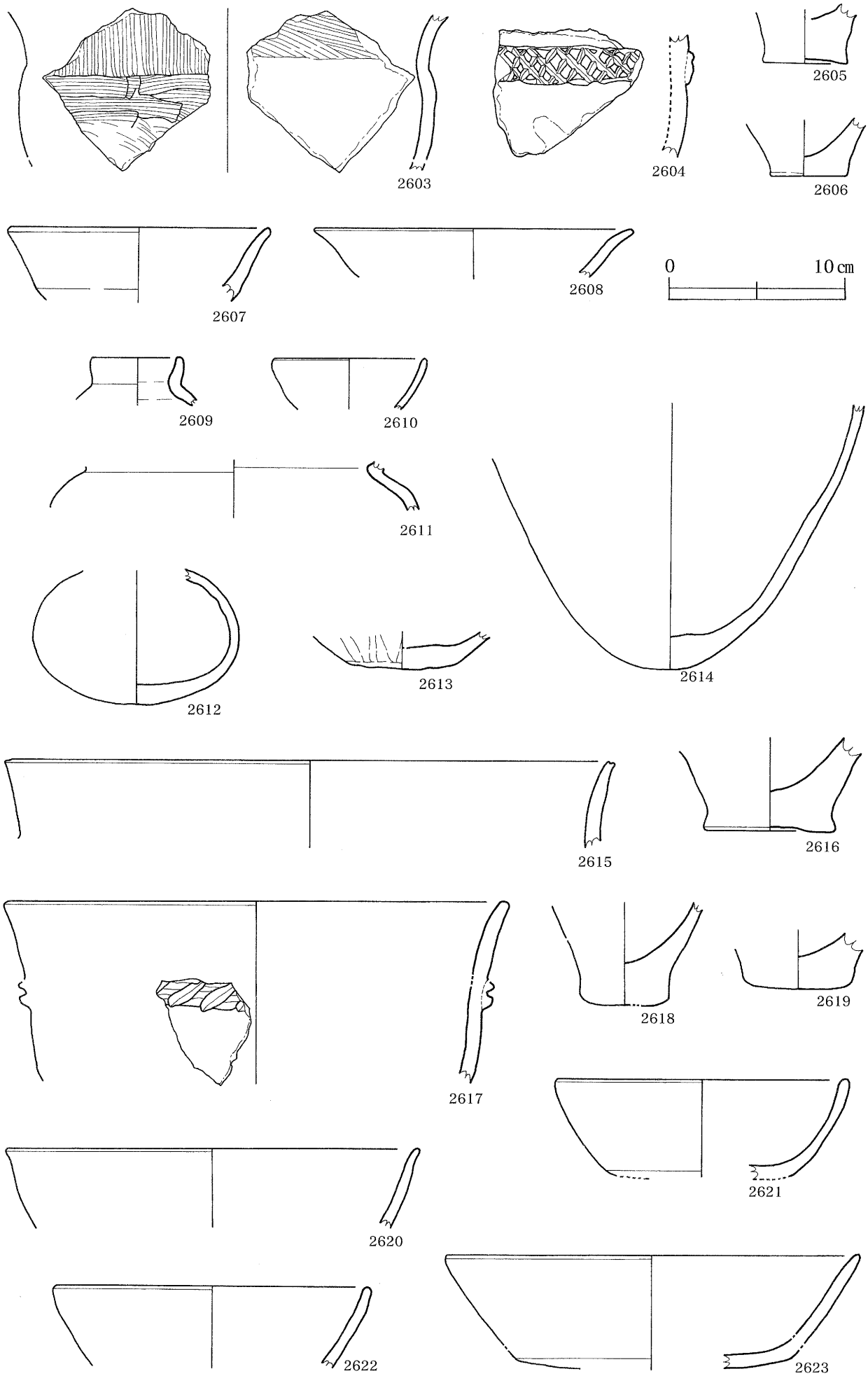
第179図　SA出土遺物実測図（68）

2544～2557：SA-79、2558・2559・2561～2572：SA-80、2560：SA-83



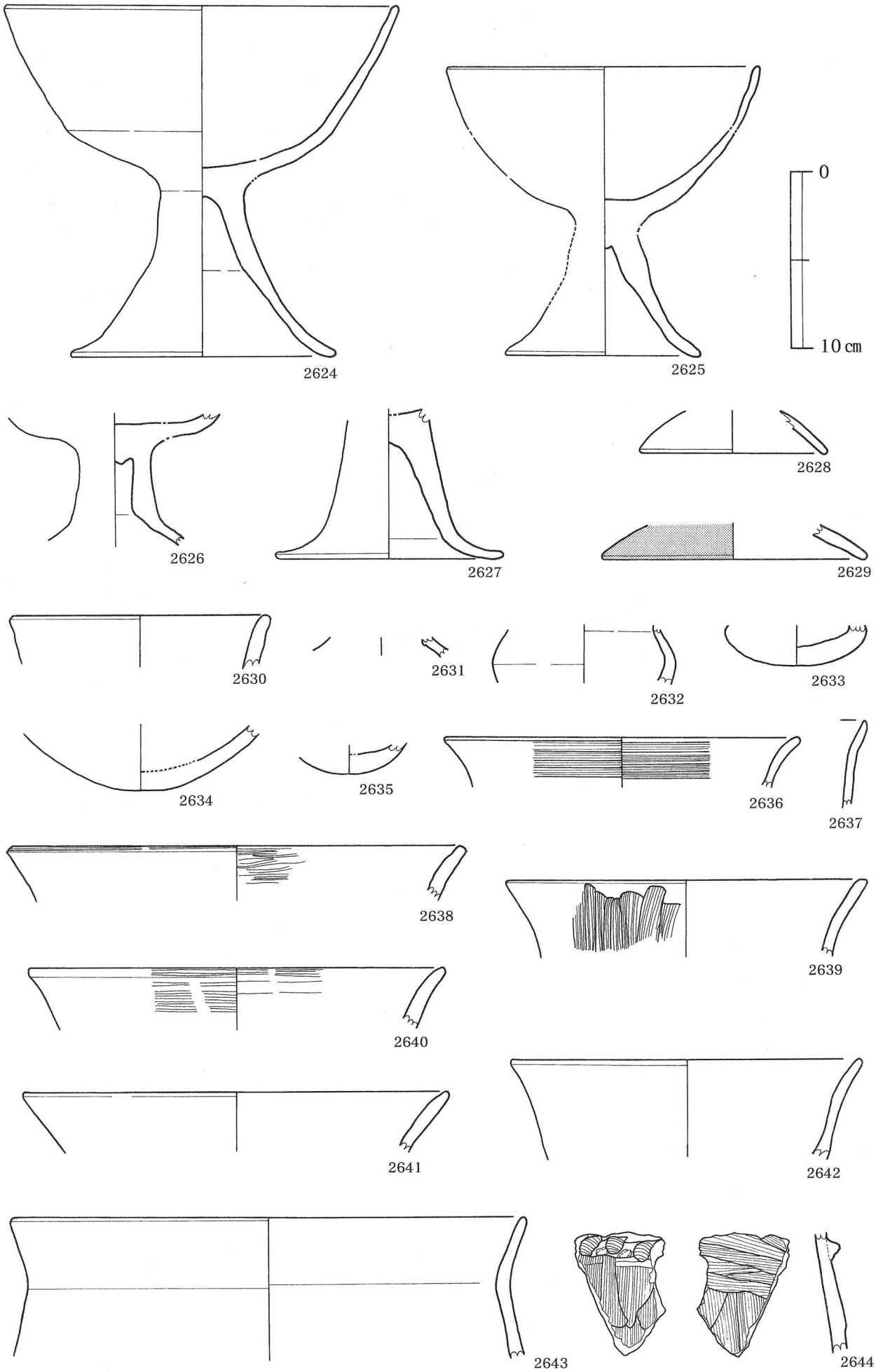
第180図　SA出土遺物実測図（69）

2573～2596：SA-80、2597～2602：SA-83



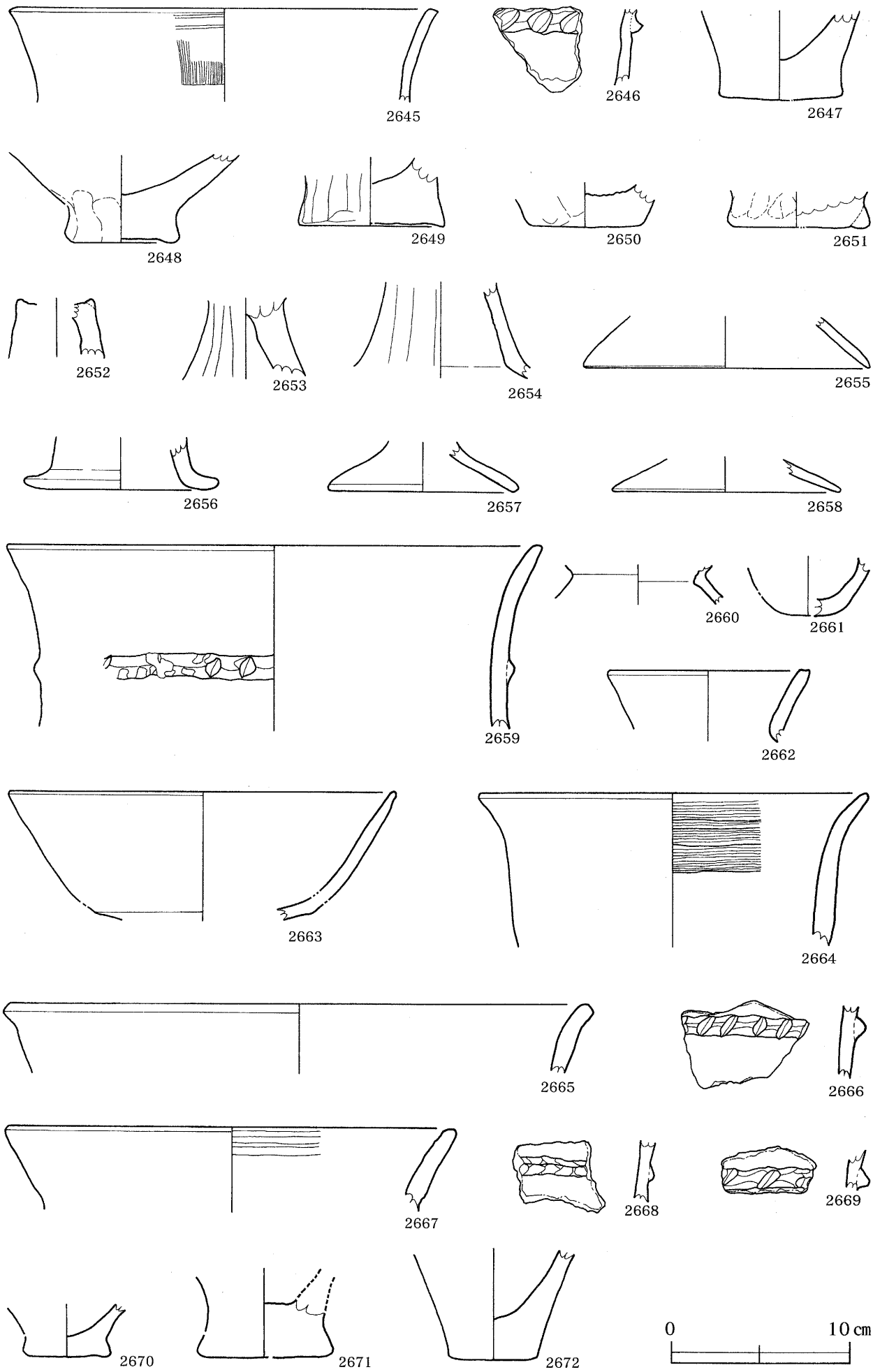
第181図　SA出土遺物実測図（70）

2603～2608：SA-83、2609～2623：SA-85

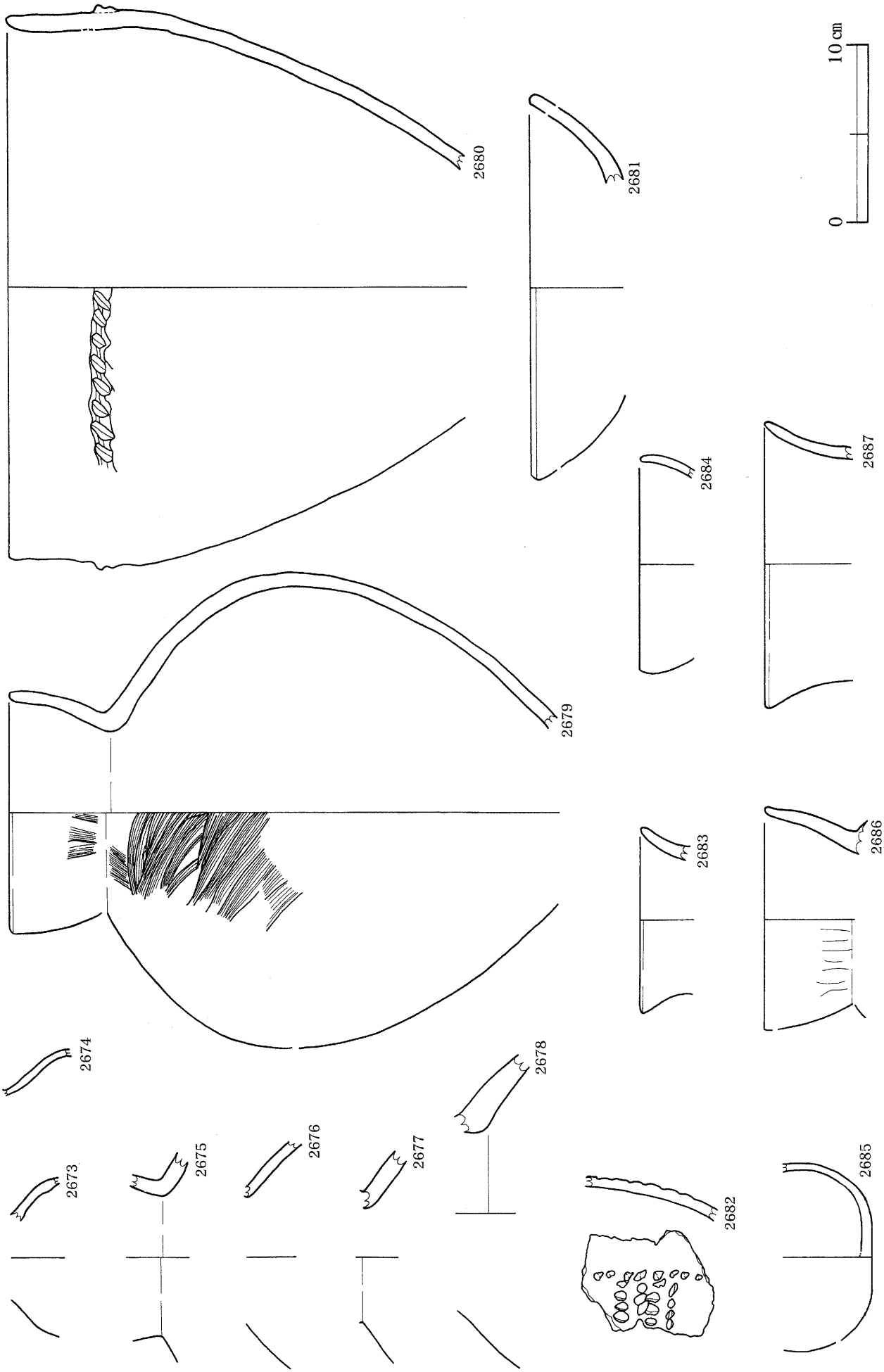


第182図　SA出土遺物実測図（71）

2624～2629：SA-85、2630～2644：SA-86

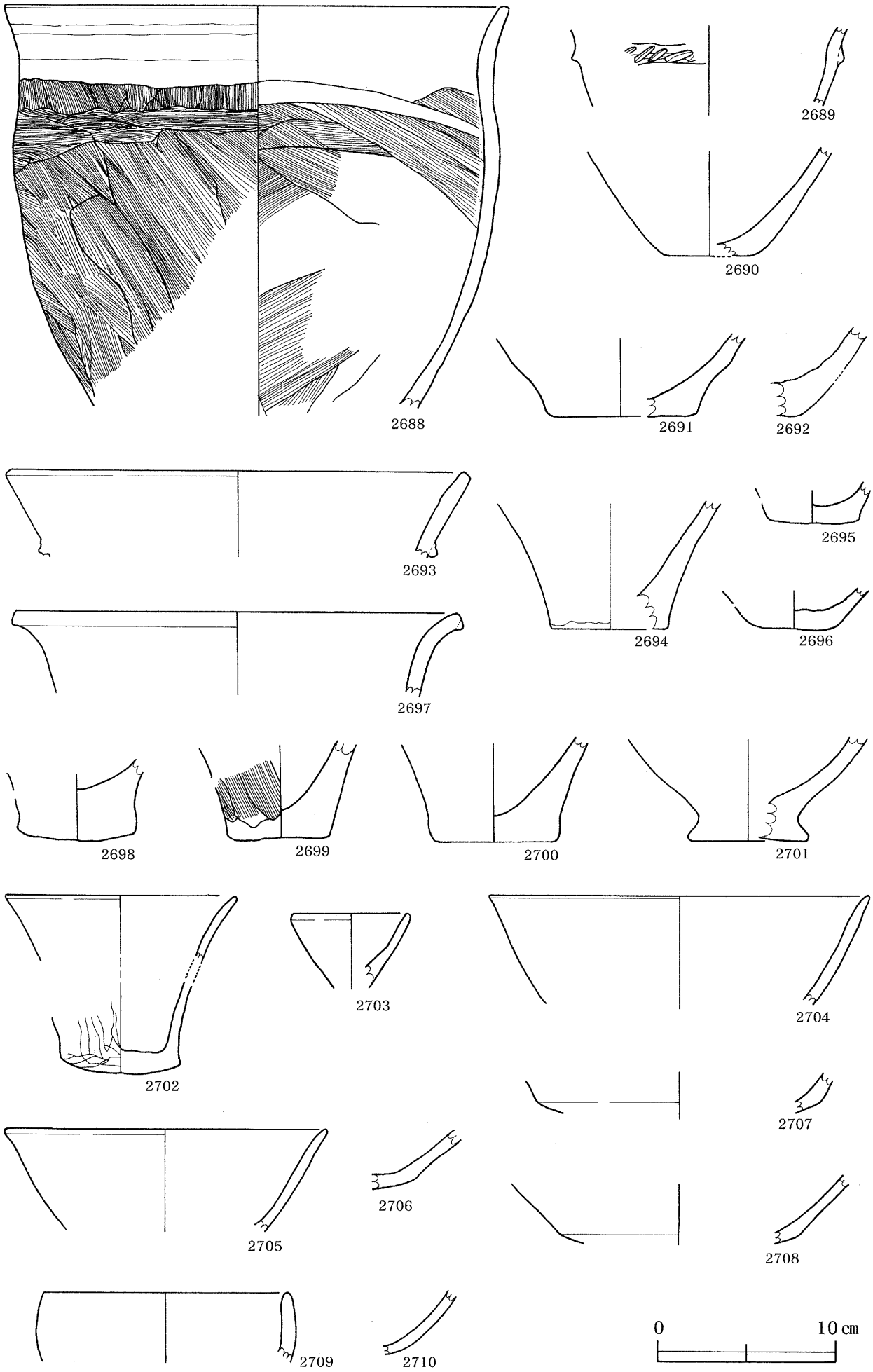


第183図　SA出土遺物実測図（72）　2645～2658：SA-86、2659～2661・2663：SA-88、2662・2664～2672：SA-89



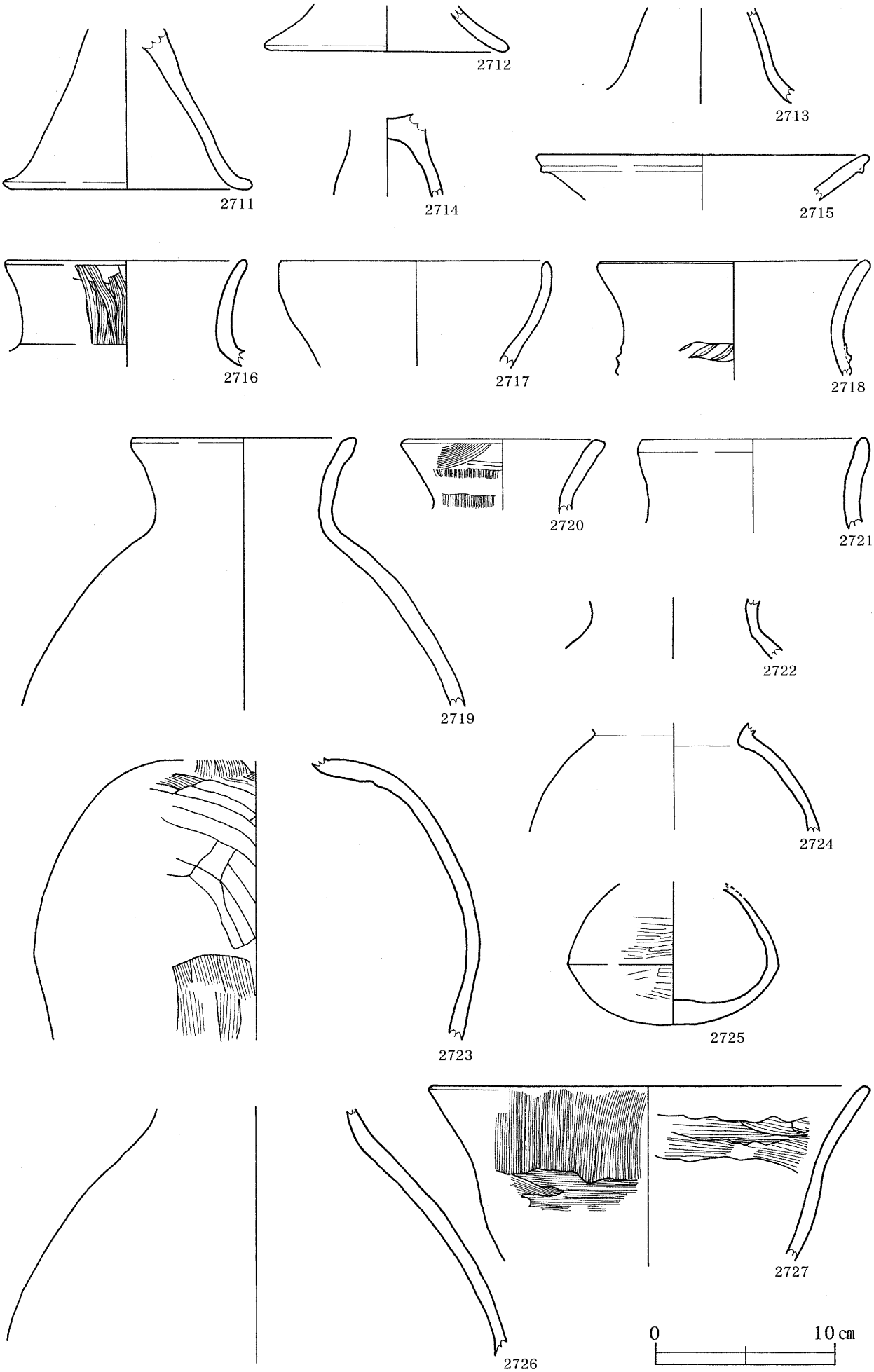
第184図　SA出土遺物実測図（73）

2680・2681：SA-89、2673～2679・2682～2687：SA-91



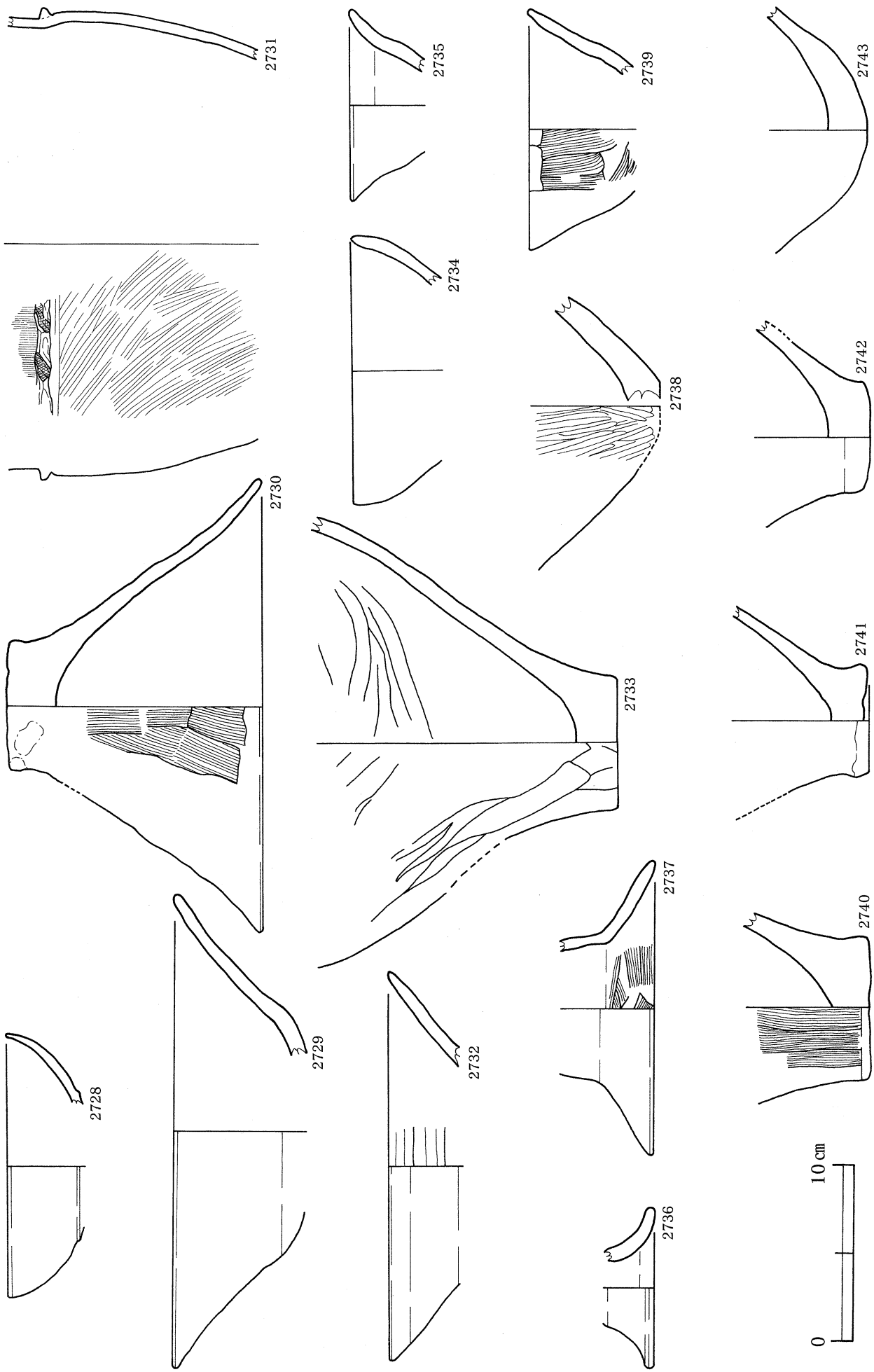
第185図　SA出土遺物実測図（74）

SA-91



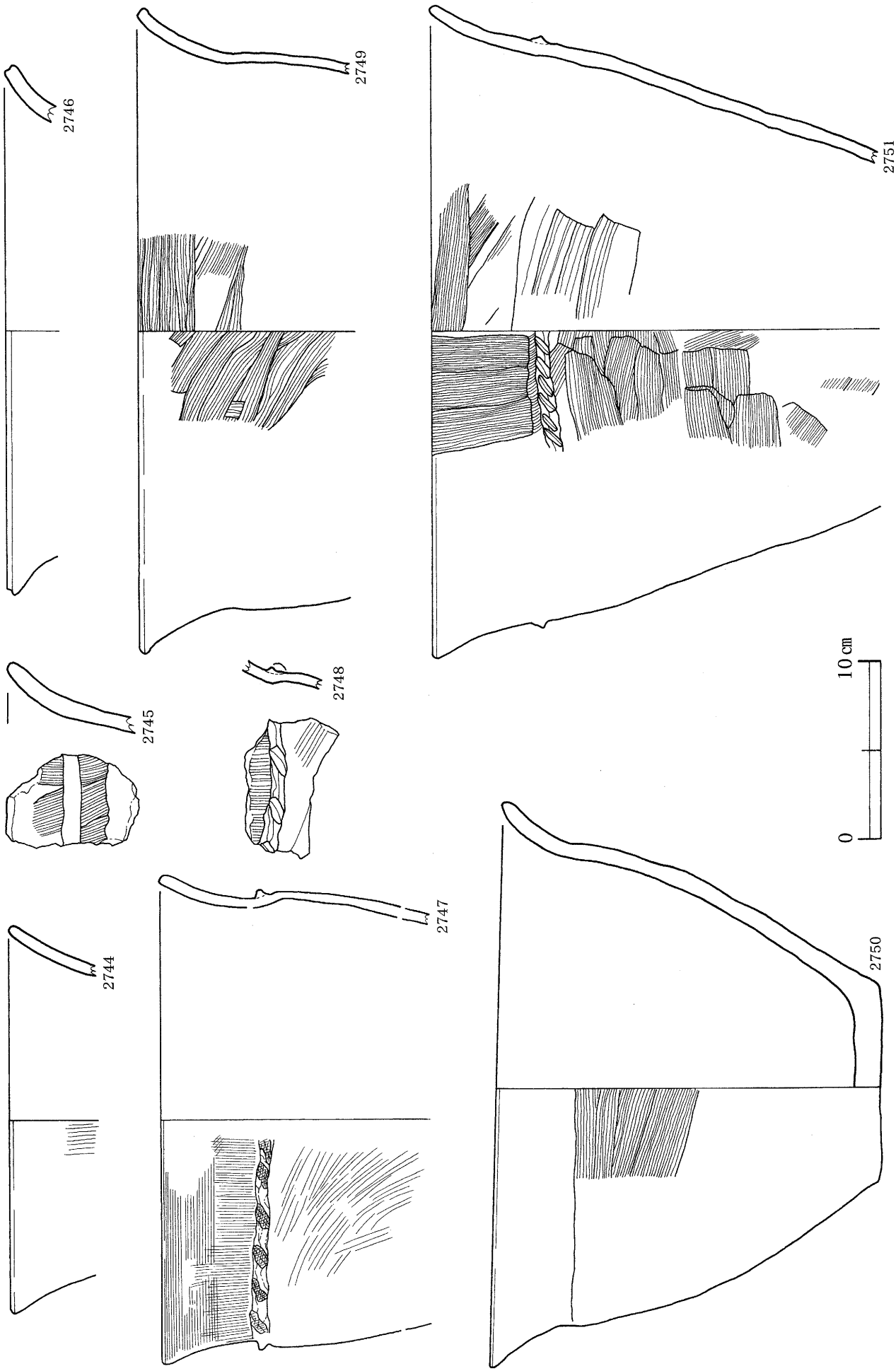
第186図　SA出土遺物実測図（75）

2711～2715：SA-91、2716～2727：SA-93



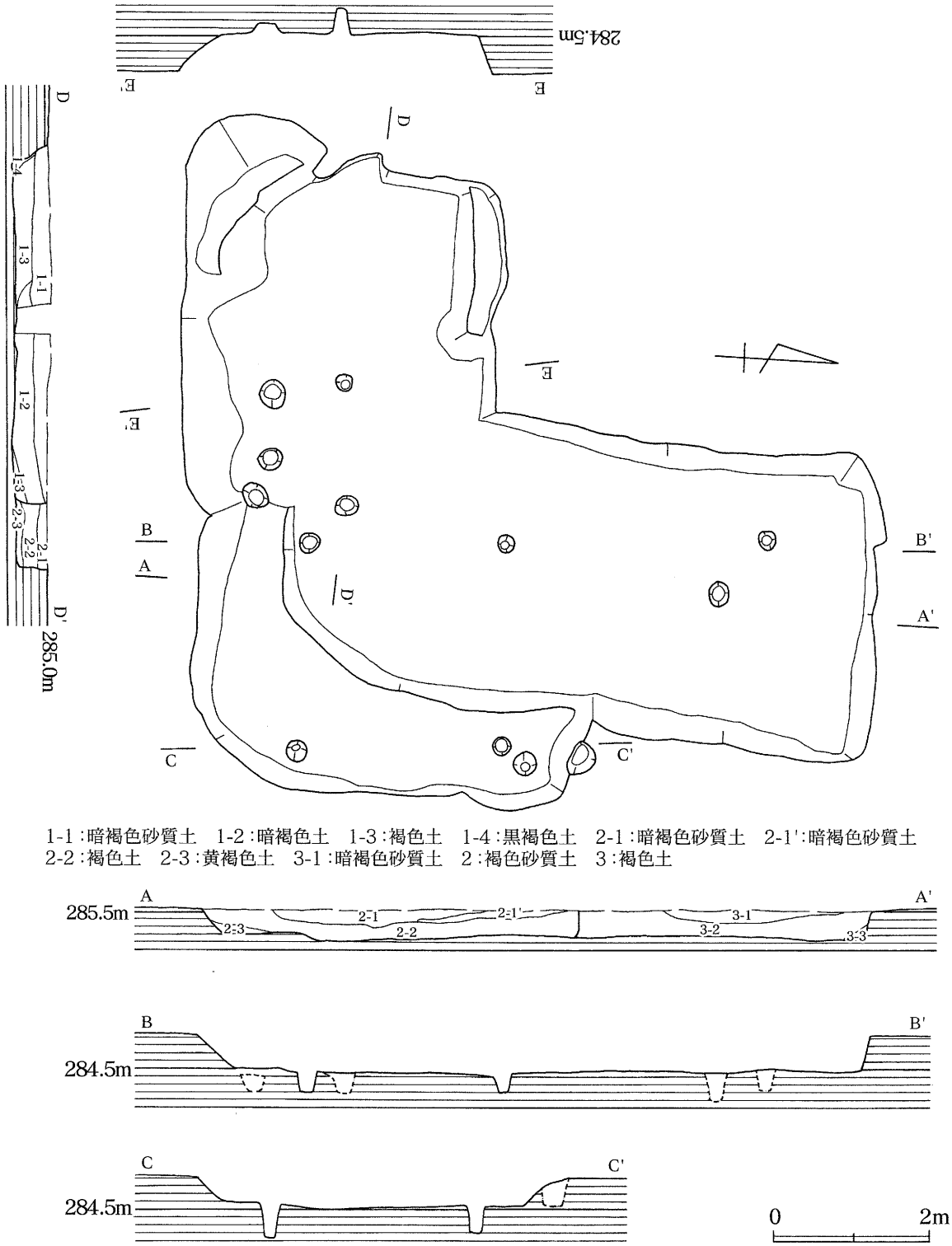
第187図　SA出土遺物実測図（76）

SA-93



第188図　SA出土遺物実測図（77）

SA-93

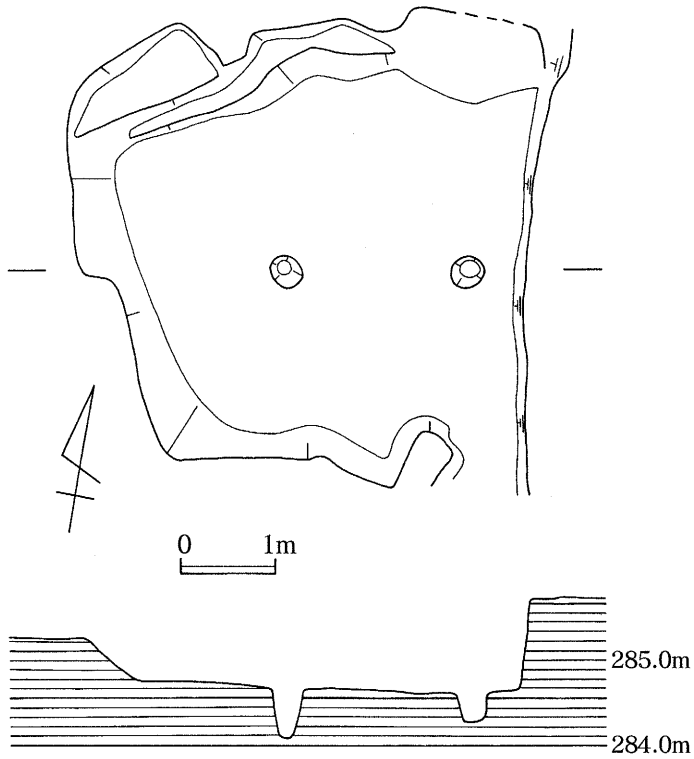


第189図　SA－78・79・80　遺構実測図

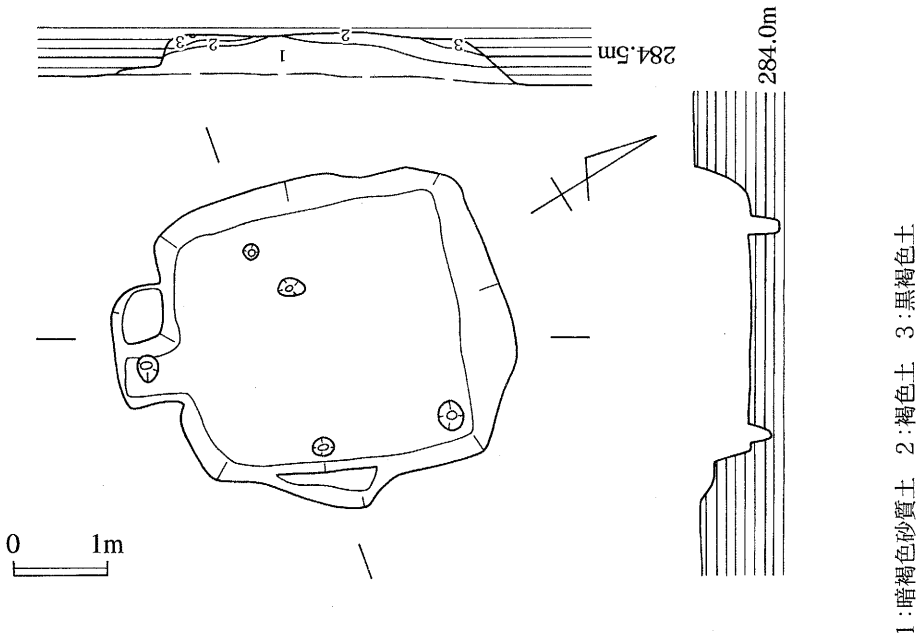
SA－122（第226図、図版75・190・191・192）

3.9×4.4mの南西隅が隅丸の方形住居で、床面までの深さは30～36㎝を測る。柱穴は2個で、径20～28㎝、深さ46～50㎝を測る。南西隅には径1.3mの土坑がみられる。遺物は土師器の壷・甕・高坏が多く出土している。

SA－123（第227図、図版75・76・192）



第190図　SA－83　遺構実測図

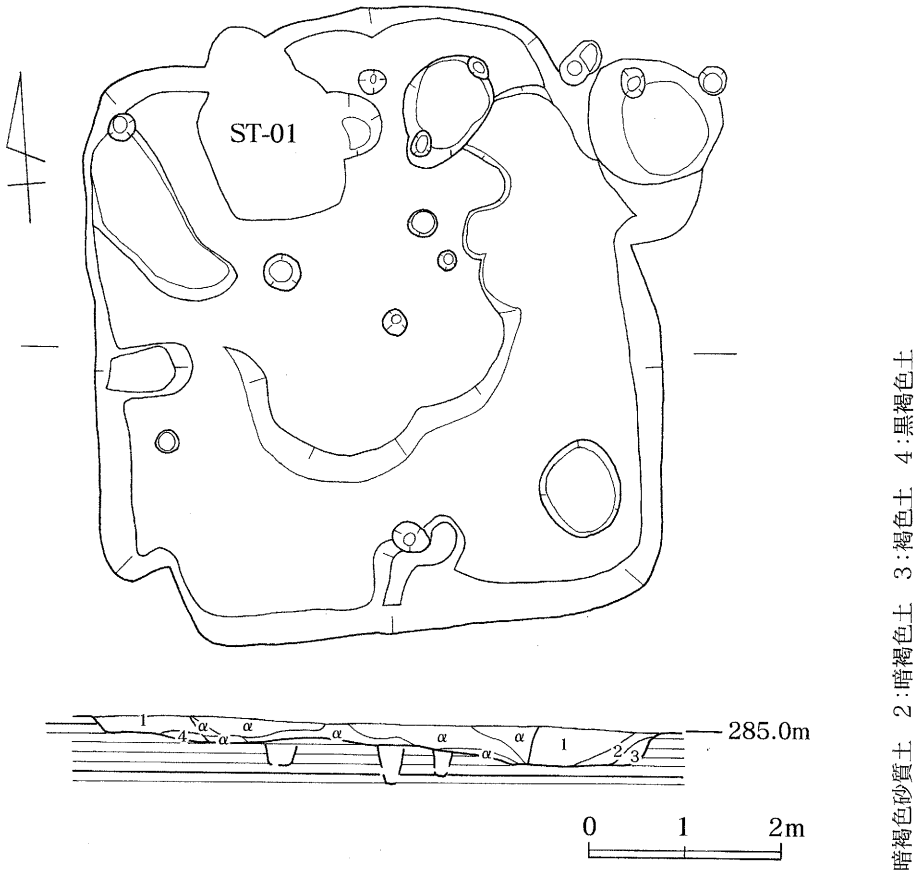


第191図　SA－85　遺構実測図

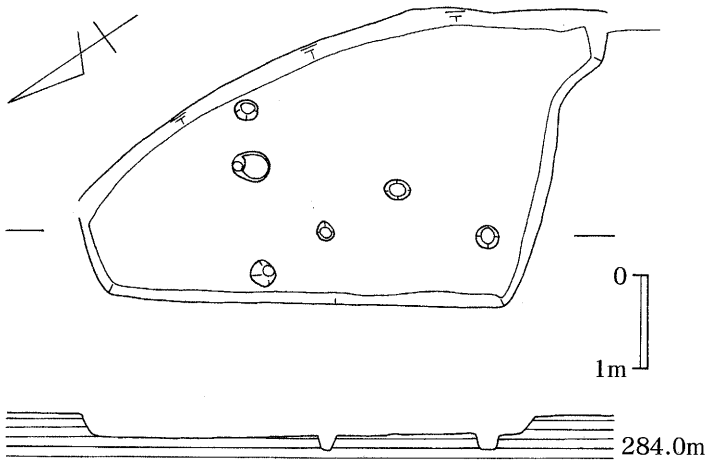
SA－124に切られており、推定で3.7×4mの方形を呈する住居で、床面までの深さは30㎝を測る。柱穴は2個で、径20～25㎝、深さ20㎝を測る。遺物は少なく、石器は打製石鏃が出土している。

SA－124（第227図、図版76・192・193・194）

1辺が6.8mのほぼ正方形を呈する住居で、床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は径25㎝、深さ10～25㎝を測る。住居中央部には浅い窪みがみられるが、炉として使用された形跡はみられな



第192図　SA－86　遺構実測図

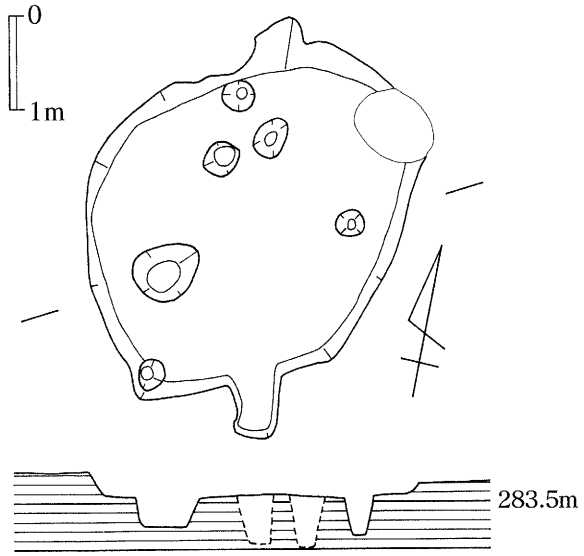


第193図　SA－88　遺構実測図

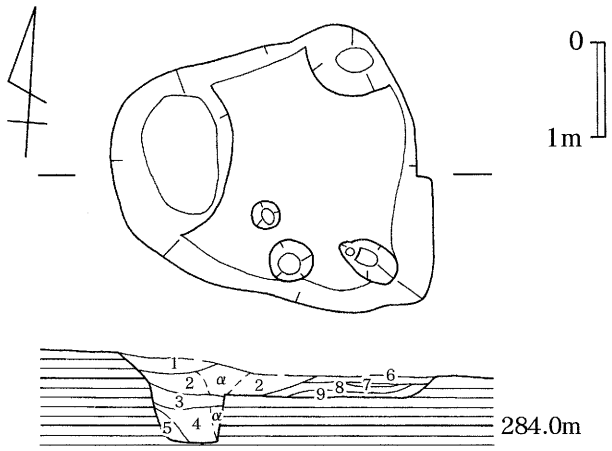
い。遺物は、土師器の壷・甕・高坏を中心に多量に出土している。石器は打製石鏃が3点出土している。

SA－125（第228図、図版77・194）

3.8×4.1mの方形を呈する住居で、検出面から床面までは30㎝を測る。柱穴は径20～38㎝、深さ30～40㎝を測る。出土遺物は非常に少なく、石器はスクレイパーのみ出土している。



第194図　SA－89　遺構実測図



1：暗褐色土　5：黄褐色土　9：褐色土
2：褐色土　6：暗灰色土　α：攪乱
3：暗灰色土　7：褐色土
4：褐色土　8：暗灰色土

第195図　SA－90　遺構実測図

SA－126（第229図、図版77・194）

2.6×4.3mの方形を呈する住居で、床面までの深さは20～30㎝を測る。柱穴は1個で、径30㎝、深さ40㎝を測る。遺物は少ないが、高坏の割合が多く、高坏を転用したフイゴが2点出土している。石器は打製石鏃が出土している。

SA－128（第80図、図版78・195）

SA－129を切っている住居で、南北3.5m、東西3.1mの方形住居で、床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は検出されなかった。遺物は少なく、石器は剥片が出土している。

SA－129（第230図、図版78・195）

SA－128に北西隅を切られており、北壁に突出部がみられる2段掘りの住居で、規模は南北4.8m、東西5.8m、検出面からベッド上面までは20～30㎝、床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は、径20～40㎝、深さ30～60㎝を測る。出土遺物は少ない。

SA－130（第245図、図版79・196）

5.9×7.6mの不整形を呈する2段掘りの住居である。検出面からベッド上面までは50㎝、床面までは60㎝を測る。柱穴は、径15～20㎝、深さ15～60㎝を測る。遺物は、縄文土器が数点と、土師器の高坏を中心に多量に出土しており、石器は石匙・スクレイパーが出土している。

SA－131（第246図、図版79・80）

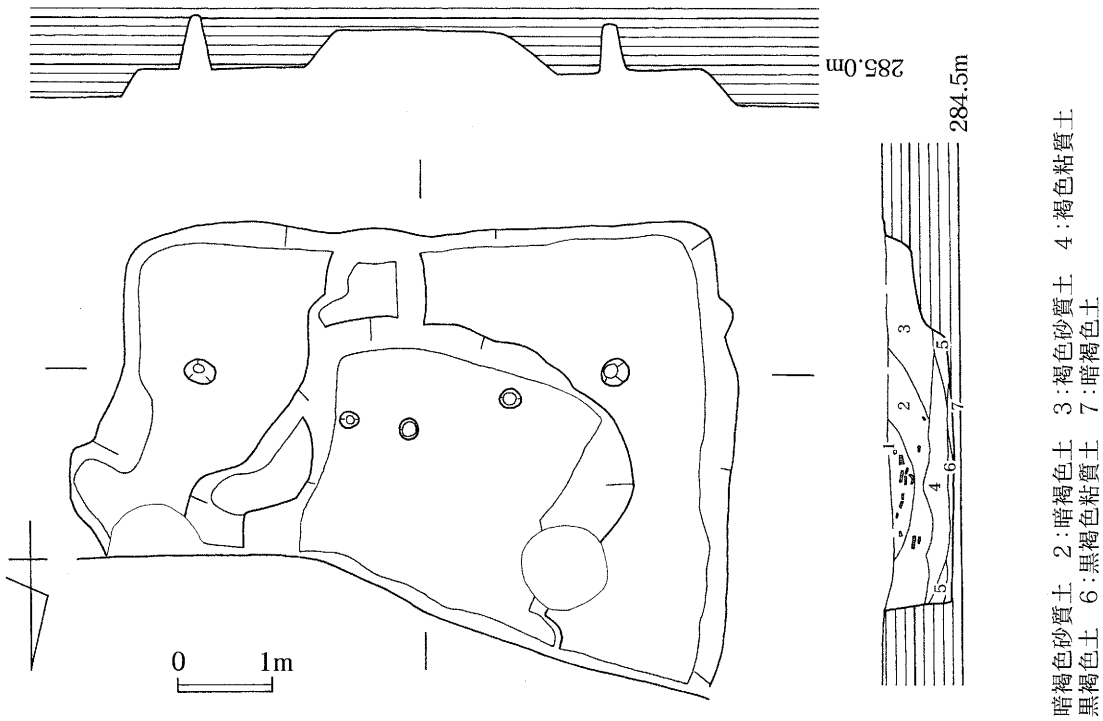
4×4.4mの方形を呈する住居で、床面までの深さは40～45㎝を測る。柱穴は2個で、径20～30㎝、深さ40～50㎝を測る。出土遺物は非常に少なく、石器は石匙・砥石が出土している。

SA－132（第247図、図版80・81・197）

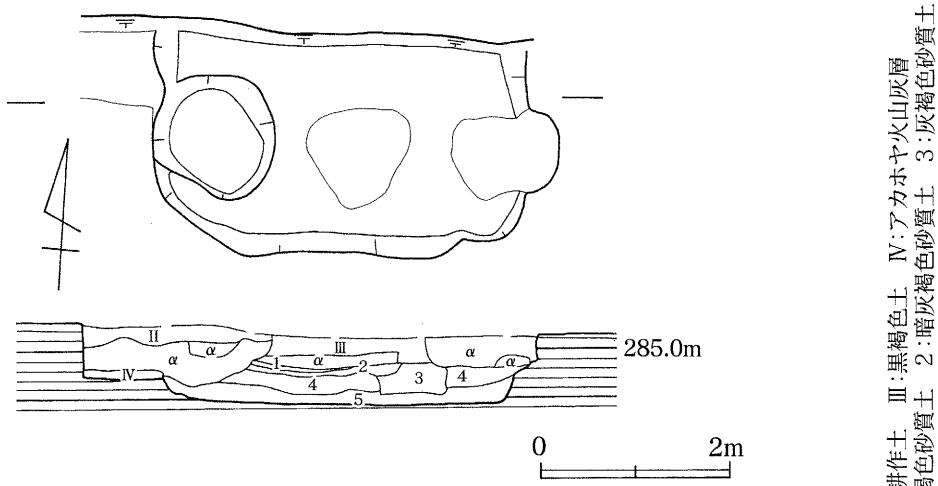
遺物は縄文土器が数点と、土師器の壷を中心に多量に出土しており、石器は打製石鏃・剥片・スクレイパーが出土している。

SA－133（第248図、図版81・198）

SA－134の北西隅を切っている、南北4.1m、東西5.1mの方形を呈する住居である。検出面から床面までの深さは50～60㎝を測り、柱穴は4個で、径18～20㎝、深さ10～20㎝を測る。遺物は縄文



第196図　SA－91　遺構実測図



第197図　SA－93　遺構実測図

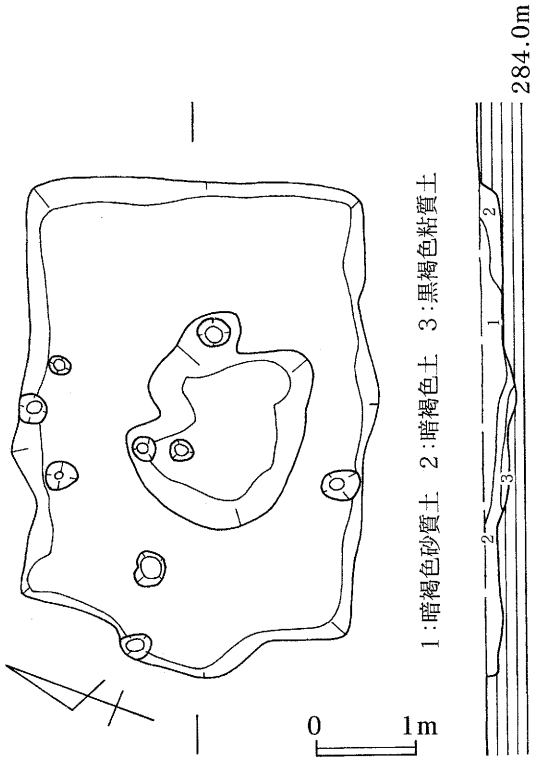
土器が数点と、土師器の壷・甕を中心に出土しており、石器は打製石鏃が出土している。

SA－134（第248図、図版81・82・198・199・200）

北西隅をSA－133に切られている、南北5.8m、東西4.6mの方形を呈する2段掘りの住居である。検出面からベッド上面までは30～40㎝、床面までの深さは50～70㎝を測る。柱穴は、径20～30㎝、深さ30～96㎝を測る。遺物は高坏を中心に土師器が多量に出土しており、丹塗りの壷・高坏の破片が多く出土している。石器は磨製石斧が出土している。

SA－135（第249図、図版82・200・201）

径3.2mのほぼ円形を呈する住居で、検出面から床面までの深さは30㎝を測る。柱穴は3個で、



第198図　SA－95　遺構実測図

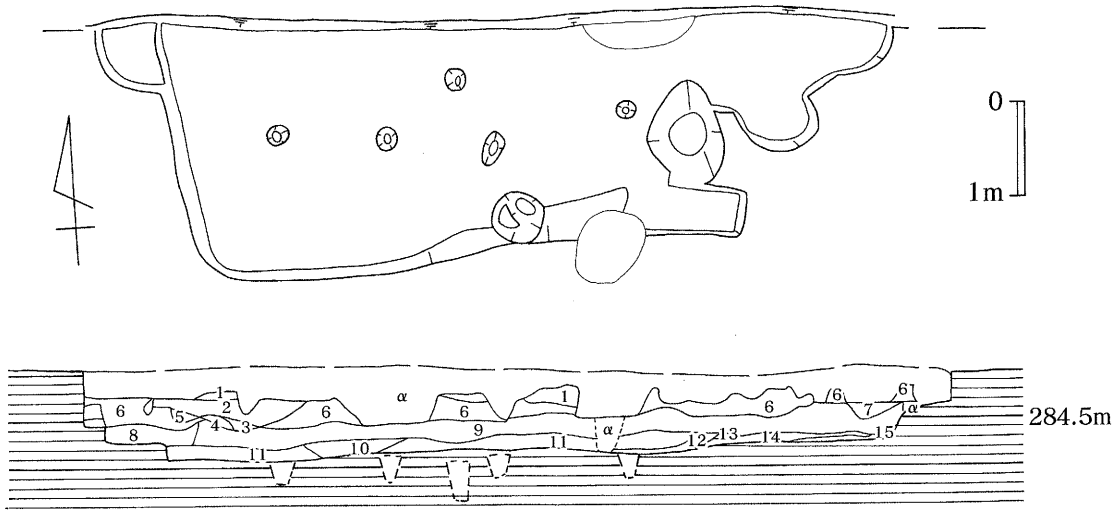
径20～30㎝、深さ10～40㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、甕を中心に土師器が多く出土しており、石器は打製石鏃が出土している。

SA－137（第250図、図版82・83・201）

4.2×4.6mの方形を呈する住居で、床面までの深さは70㎝を測る。柱穴は2個で、径20～25㎝、深さは30～40㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と、甕・壷を中心に土師器が出土しており、灯明皿が混入して出土している。

SA－138（第251図、図版83・84・201・202・203）

5×5.2mの方形を呈する住居で、床面までの深さは40～50㎝を測る。柱穴は、径20～25㎝、深さは40～60㎝を測る。遺物は土師器が多量に出土しており、器種は壷・甕・高坏がある。



1:暗灰褐色砂質土　2:暗褐色砂質土　3:褐色土　4:黒色土　5:褐色土　6:褐色砂質土　7:暗灰褐色土　8:暗褐色土
9:褐色土　10:暗褐色土　11:褐色粘質土　12:黄褐色土　13:黒褐色土14:黒褐色粘質土　15:褐色土　α:攪乱

第199図　SA－97　遺構実測図

SA－141（第252図、図版85・204）

東西3.8m、南北5mの方形を呈する住居で、床面までの深さは40㎝を測る。柱穴は4個で、径20～30㎝、深さ40㎝を測る。遺物は縄文土器・須恵器が数点と、土師器が多く出土しており、器種は壷・甕・高坏がある。石器は打製石鏃・石匙・石核（頁岩）が出土している。

SA－142（第253図、図版85・205・206）

南北5.4m、東西4.6mの方形を呈する住居である。検出面から床面までの深さは60㎝を測る。柱穴は4個で径20㎝、深さ20～60㎝を測る。遺物は縄文土器が数点と土師器が多量に出土してい

る。器種は壷・甕・高坏があり、ミニチュアも出土している。

SA－143（第254図）

3.6×3.4mの方形を呈する住居である。深さは50㎝を測る。柱穴はなく、出土遺物は土師器の高坏が中心で、壷・甕も出土している。

ST－01（第266図、図版98）

SA－86以前の構築と思われ、床面で竪坑を検出した。竪坑は長径1.8m、短径1.2mの楕円形を呈し、深さは1.2mを測る。羨道は長さ0.1mしかなく、玄室は平入り両袖楕円形を呈し、幅1.3m奥行0.84m、高さ1.0mを測る。閉塞材は遺存せず、板閉塞と思われる。副葬品はなく、追葬坑もない。

SK－14（第267図、図版206）

東西2.4m、南北2.6mの不整形を呈し、深さ20㎝を測る。

SK－21（第267図）

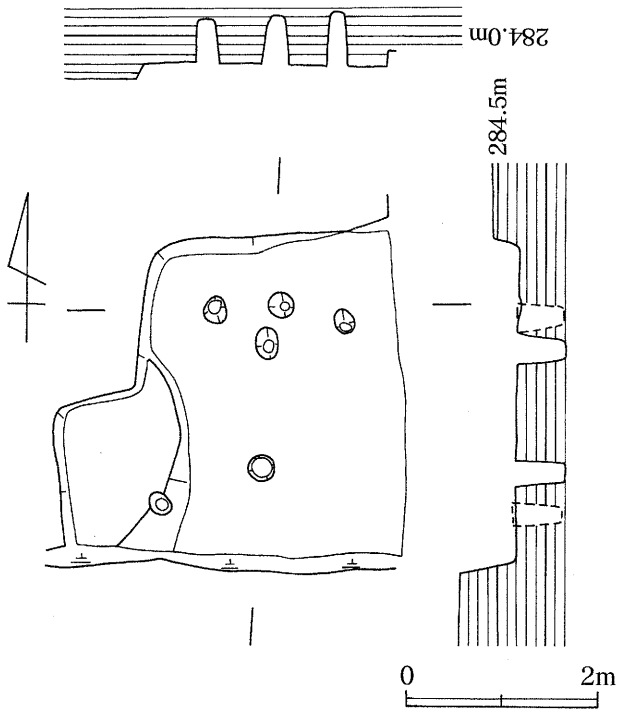
2.2×1.8mの長方形を呈し、深さ1.6mを測る。出土遺物は少ないが、縄文土器・土師器・スクレイパーが出土している。

SK－30（第267図、図版88・207）

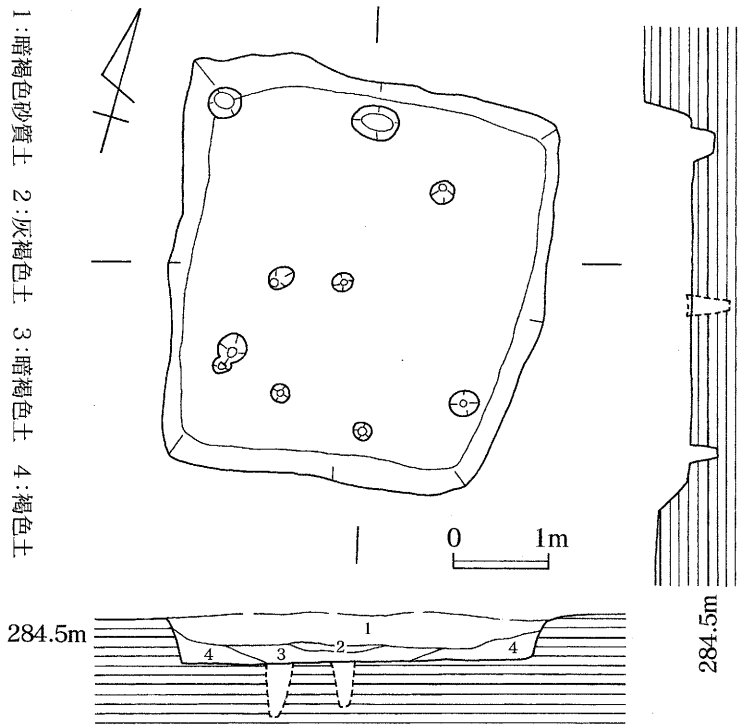
東西1.7m、南北1.8mの楕円形を呈し、深さ60㎝を測る。中央には径90㎝、深さ20㎝の掘り込みがある。出土遺物は縄文土器・土師器がある。

SK－38（第267図、図版208）

東西3.7m、南北2.1mの長方形を呈し、深さは50㎝を測る。出土遺物は土師器がある。



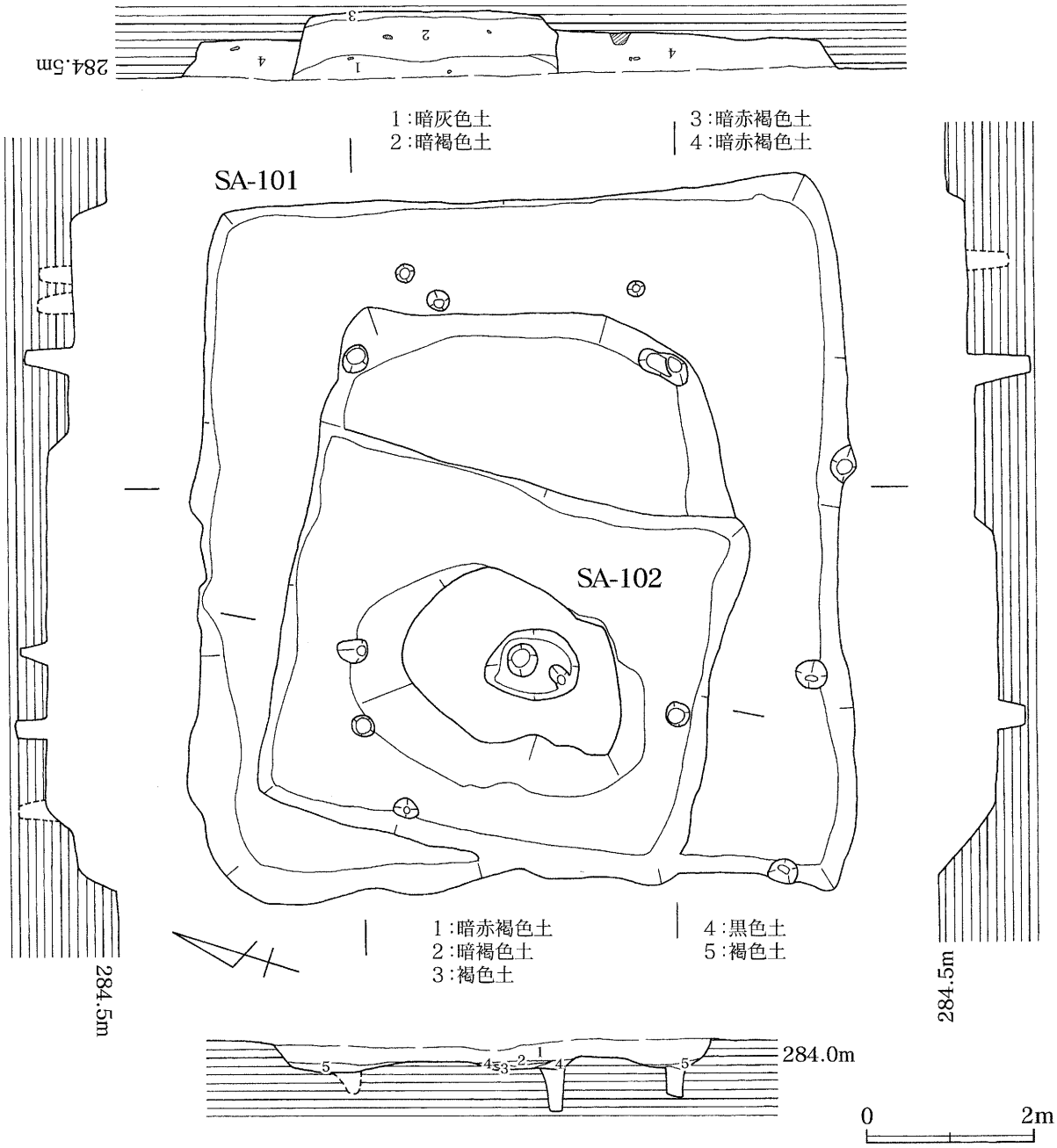
第200図　SA－98　遺構実測図



第201図　SA－100　遺構実測図

SK－42（第267図）

東西2.2m、南北1.8mの長方形を呈し、深さ20㎝を測る。遺物は土師器の甕が出土している。



第202図　SA－101・102　遺構実測図

SK－44（第270図、図版88・89・209）

1.3×1.5mの円形で袋状の土坑である。深さは50㎝を測る。出土遺物は弥生土器・土師器が多く出土している。石器は蛇紋岩製の磨製石斧、石鏃・打製石鏃が出土している。

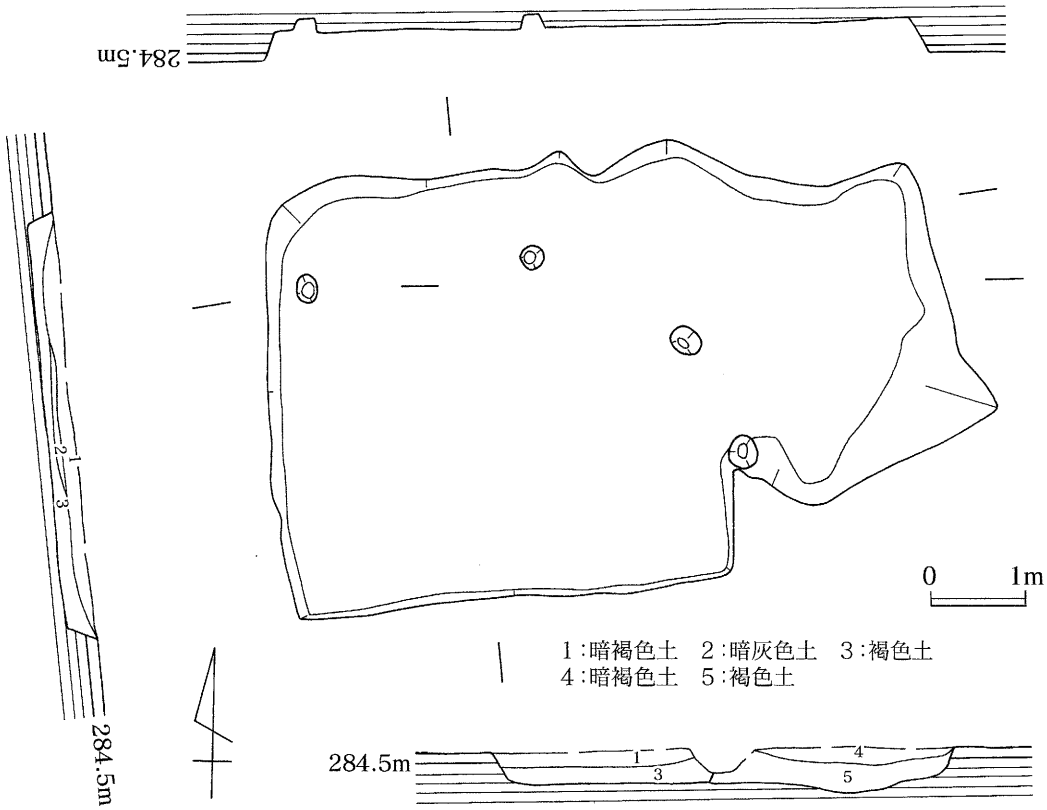
SK－45（第268図）

東西2.6m、南北2.4mの方形を呈し、深さ20㎝を測る。

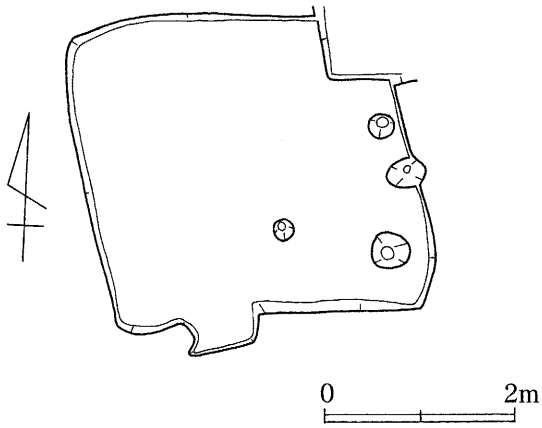
SK－59（第268図、図版208・212）

東西3m、南北4.1mの不整形を呈し、深さ30㎝を測る。出土遺物は弥生土器・土師器がある。

SK－66（第271図、図版92・209・210）



第203図　SA－106・107　遺構実測図

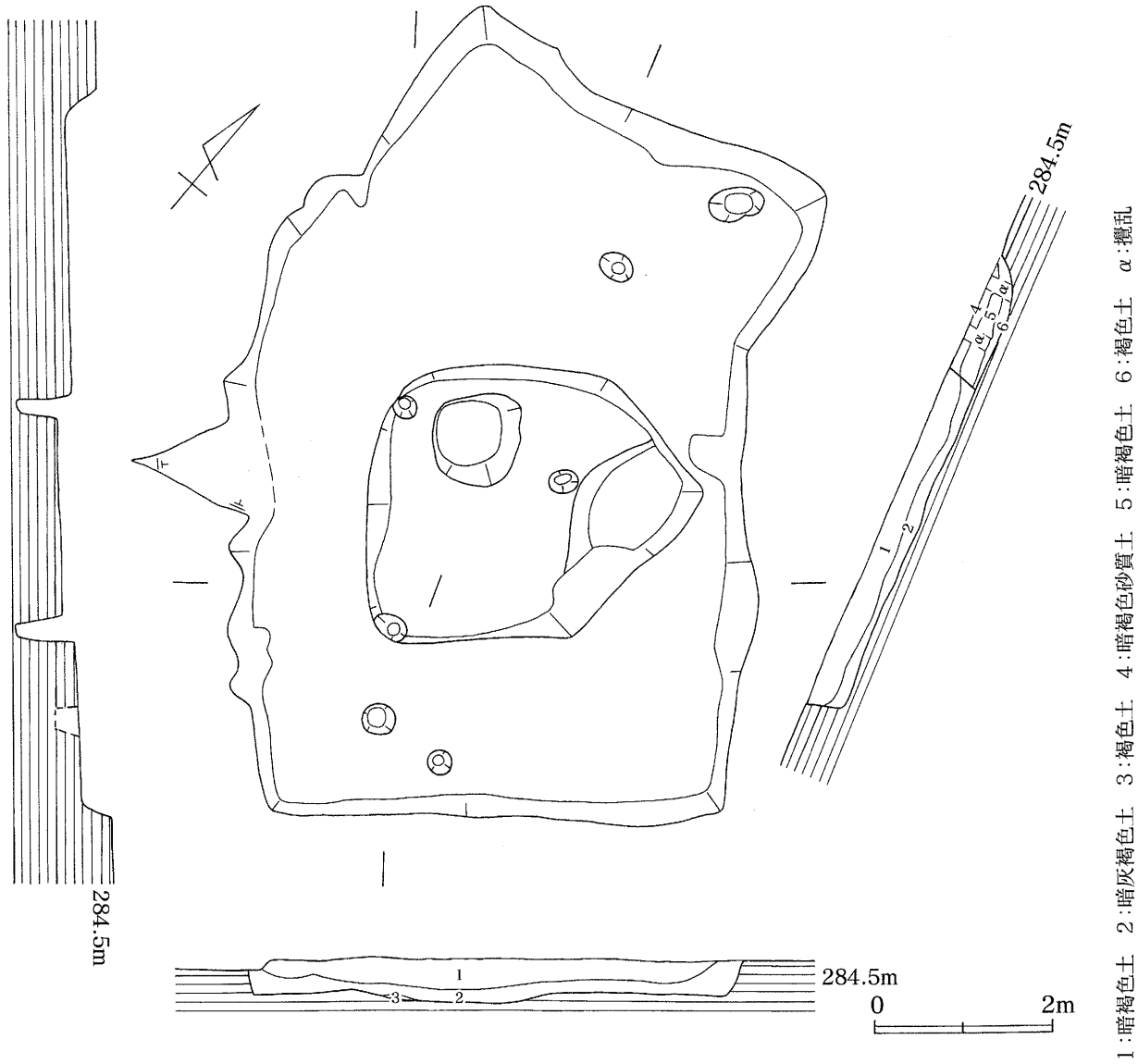


第204図　SA－108　遺構実測図

西側を後世の攪乱によって切られているが、推定で東西1m、南北1.3mの楕円形を呈する土坑である。深さは57㎝を測る。出土遺物は多く、弥生土器・土師器が主で、石器は打製石鏃が1点出土している。

SK－72（第269図、図版93・211）

東西2.9m、南北3.2mの不整形を呈し、深さ45㎝を測る。遺物は縄文土器・土師器が出土している。



第205図　SA－109・112　遺構実測図

SK－76（第269図、図版93・94・211・212）

推定で長径2.5m、短径2mを測る、深さ20㎝の楕円形を呈する土坑である。出土遺物は多く、土師器の壷を中心に出土している。

SK－79（第268図、図版94・213）

東西1.2m、南北1.45mの円形を呈し、深さ40㎝を測る。遺物は多く、土師器が出土している。

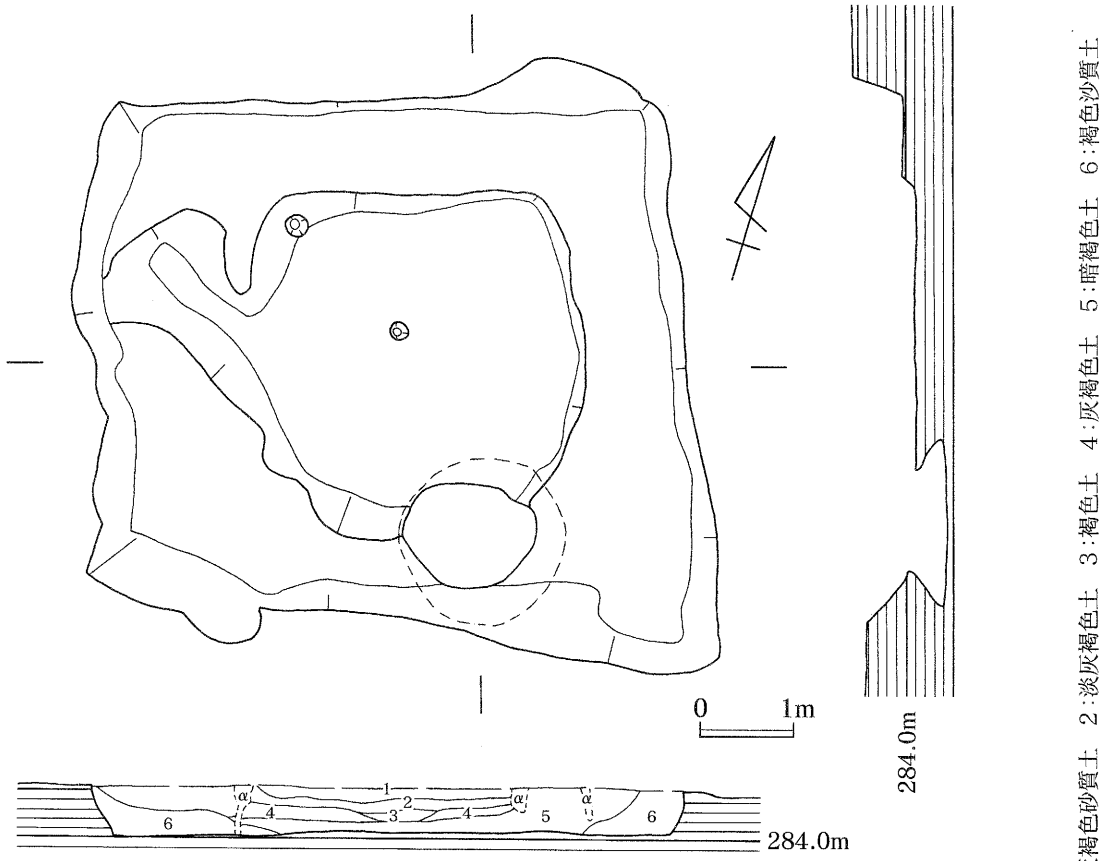
SK－109（第268図、図版95・214・215）

東西1.7m、南北1.8m、深さ40㎝の円形を呈している。出土遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器、石器は磨製石鏃がある。

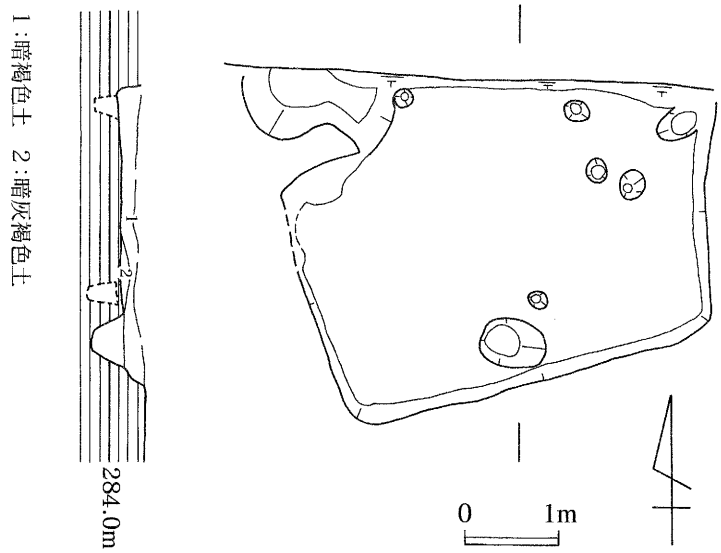
SK－124（第269図、図版96・97・216・217）

東西1.4m、南北1.5m、深さ50㎝を測る、円形を呈する土坑である。出土遺物は土師器が主で多く出土している。

SK－127（第268図、図版216）



第206図　SA－110　遺構実測図

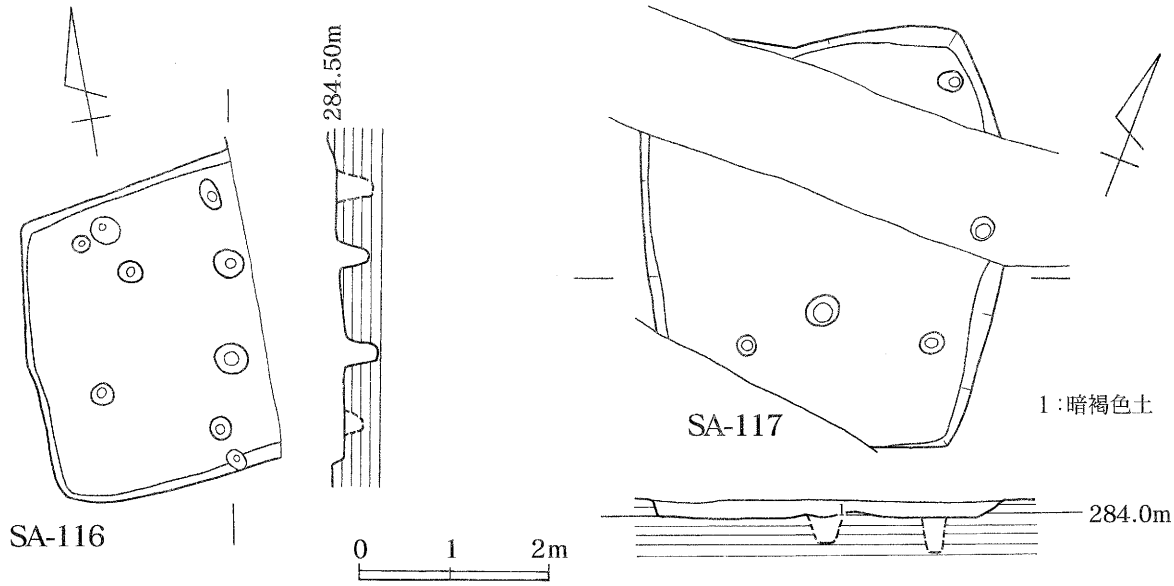


第207図　SA－111　遺構実測図

東西1.8m、南北2.2m、深さ30㎝の円形を呈している。出土遺物は少なく、土師器が出土したのみである。

SK－128（第269図、図版97・217）

東西1.3m、南北1.8m、深さ40㎝を測る。出土遺物は多く、土師器の壺・甕・高坏が出土している。



第208図　SA－116・117　遺構実測図

第6節　古代～中世

全調査区において、Ⅳa層、もしくはⅣb層で遺構検出を行った。その結果、掘立柱建物を4棟、溝状遺構を19条検出した。覆土は、すべて淡黒灰色土を主とする。

SB－1（第291図、図版98）

梁行2間（4m）、桁行（7.7m）で3面（北・東・西）に廂を有する。主軸方向はN2°Eである。

SB－2（第292図）

梁行1間（3.4m）、桁行（4.9m）で、主軸方向はN4°Eである。

SB－3（第292図）

梁行1間（1.9m）、桁行2間（5.2m）で、北に廂を有する。主軸方向はN81°Eである。

SB－4（第292図）

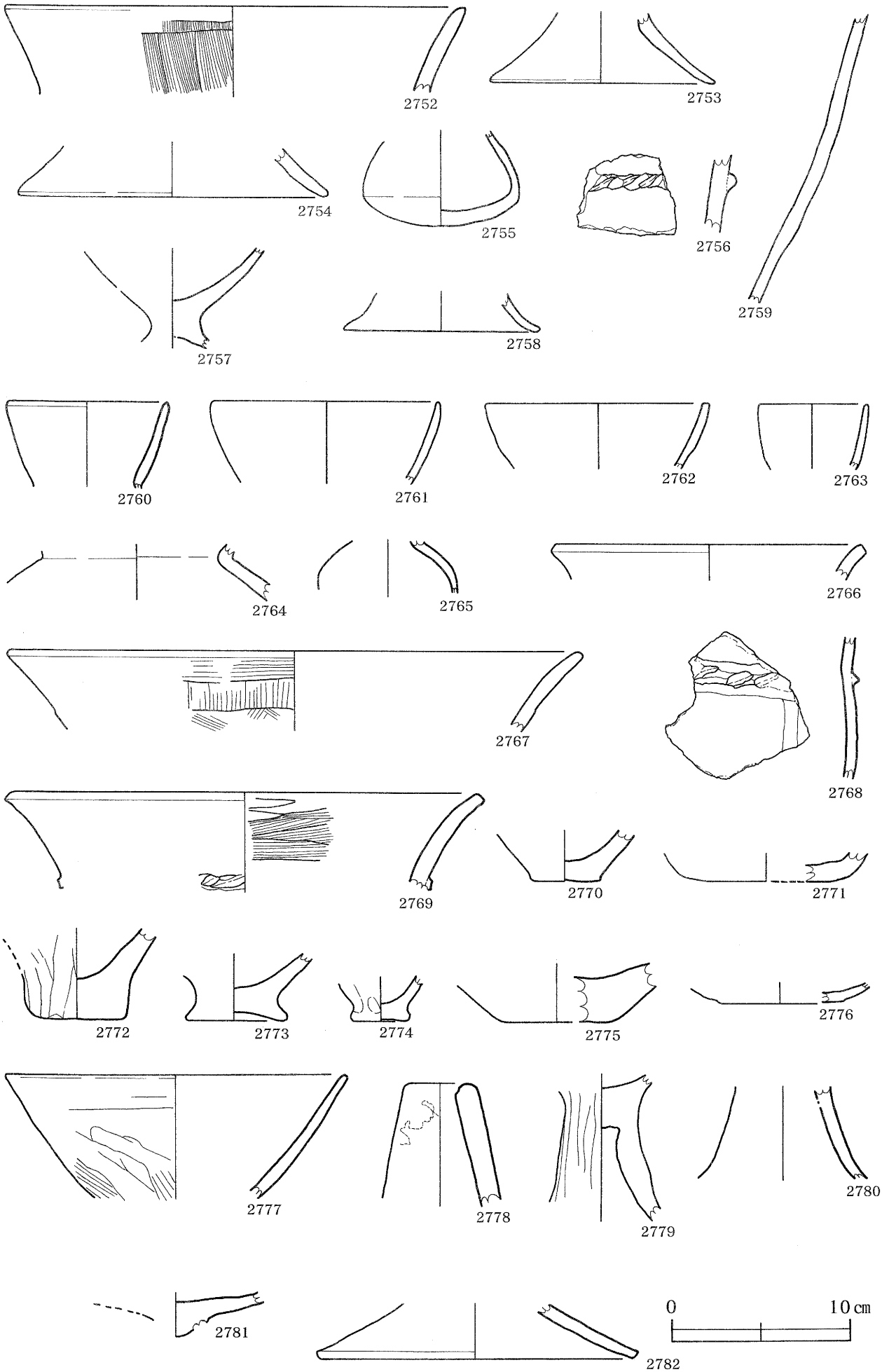
梁行1間（2m）、桁行（2m）で、主軸方向はN5°Eである。

SD－17（第293図）

幅32～56㎝、深さ30～80㎝で薬研掘りの溝である。覆土は黒色土である。

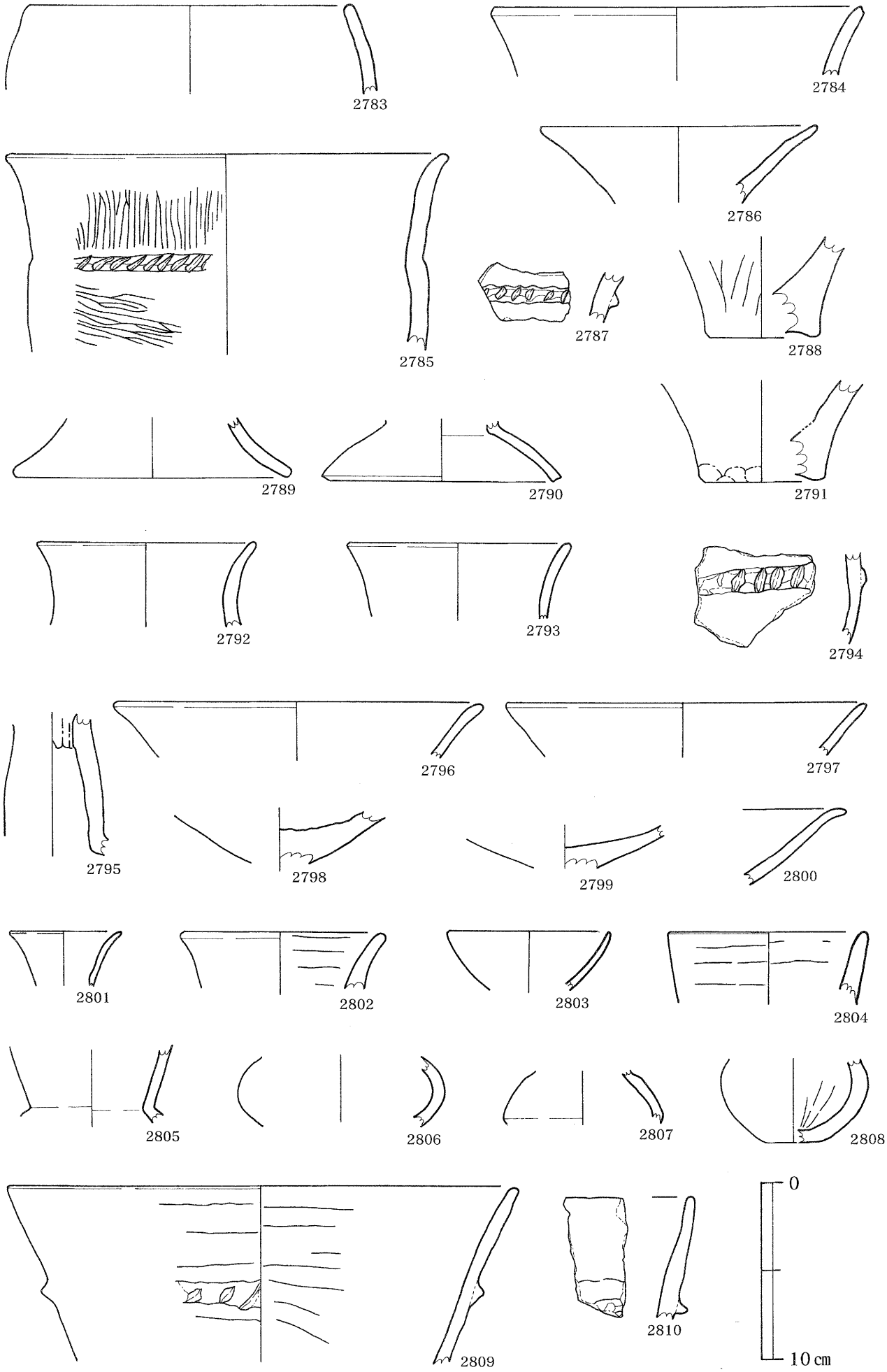
SD－18（第293図）

幅30～76㎝、深さ30～85㎝で薬研掘りの溝である。覆土は黒色土である。



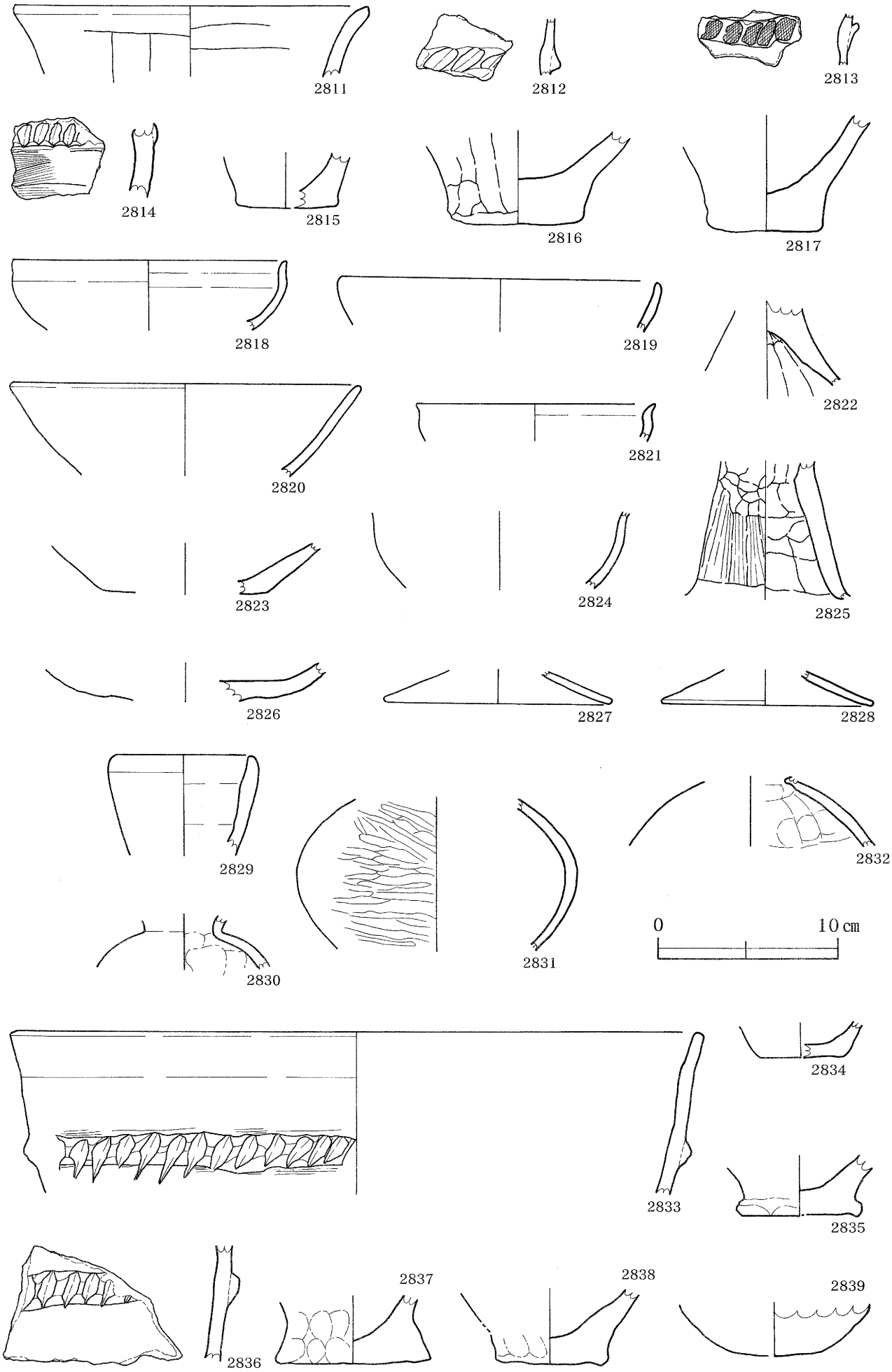
第209図　SA出土遺物実測図（78）

2752・2753：SA-94、2754～2759：SA-95、2760～2782：SA-97



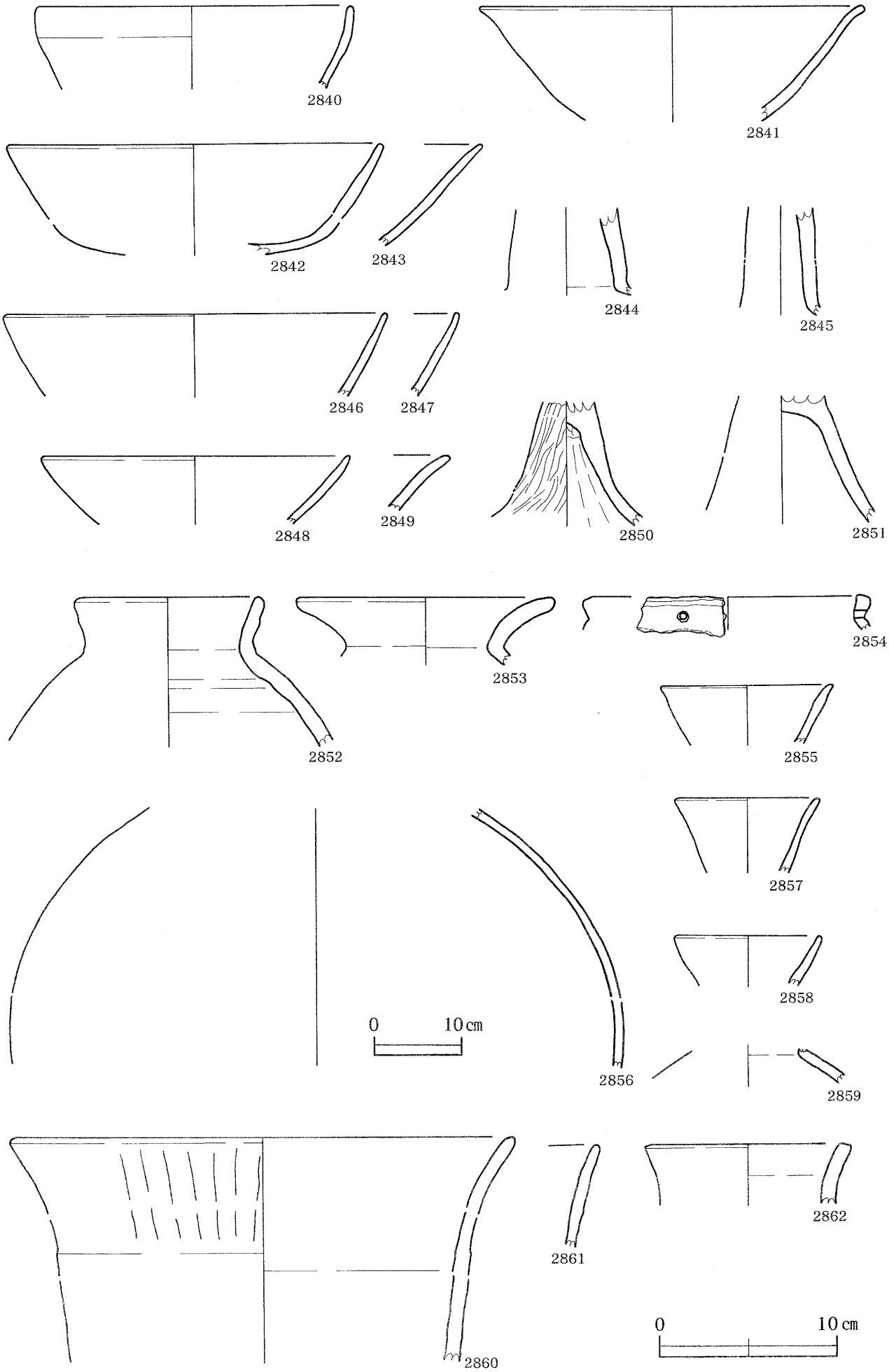
第210図　SA出土遺物実測図（79）

2783～2791：SA-98、2792～2800：SA-100、2801～2810：SA-101



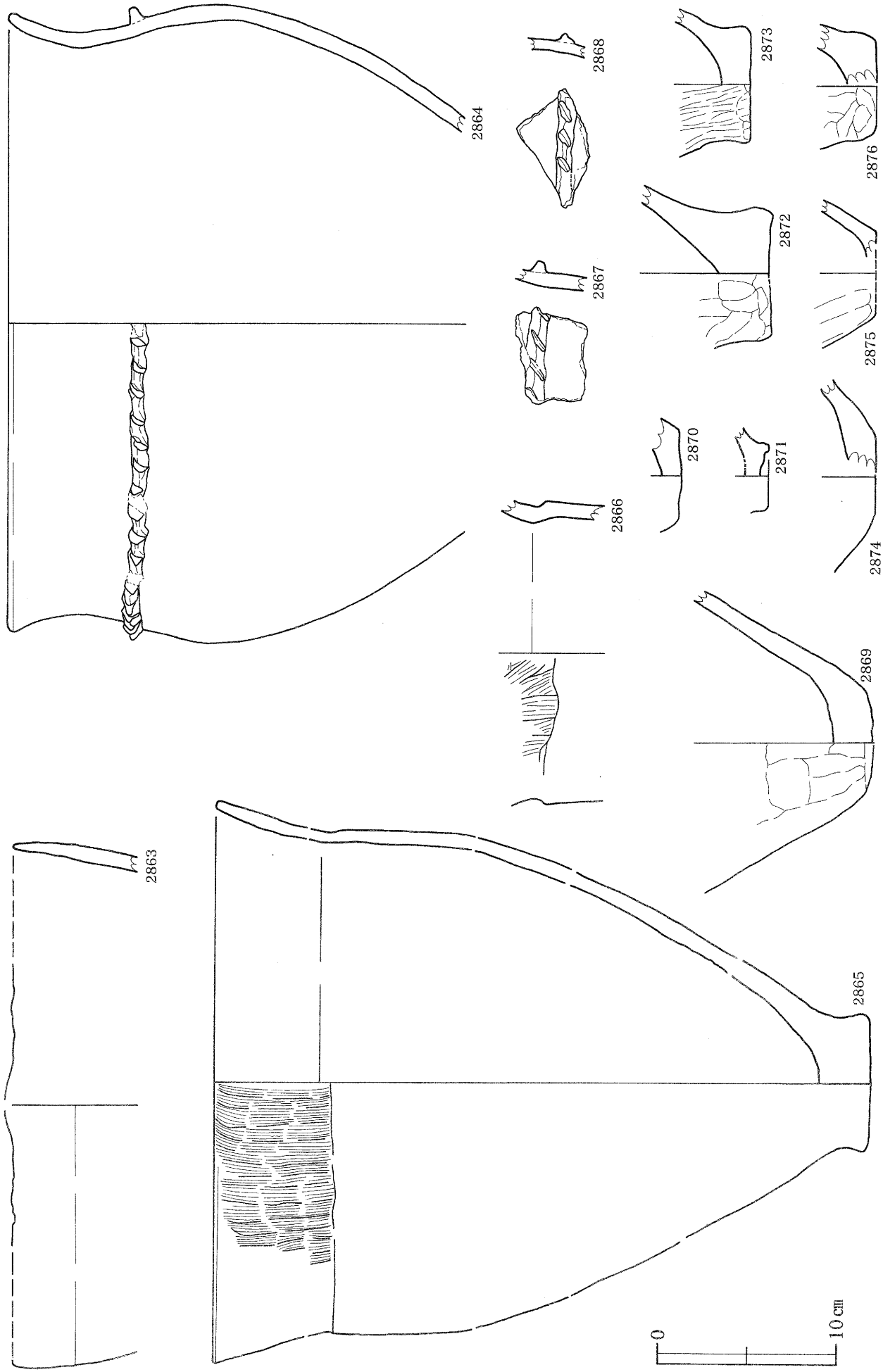
第211図　SA出土遺物実測図（80）

2811～2828：SA-101、2829～2839：SA-102



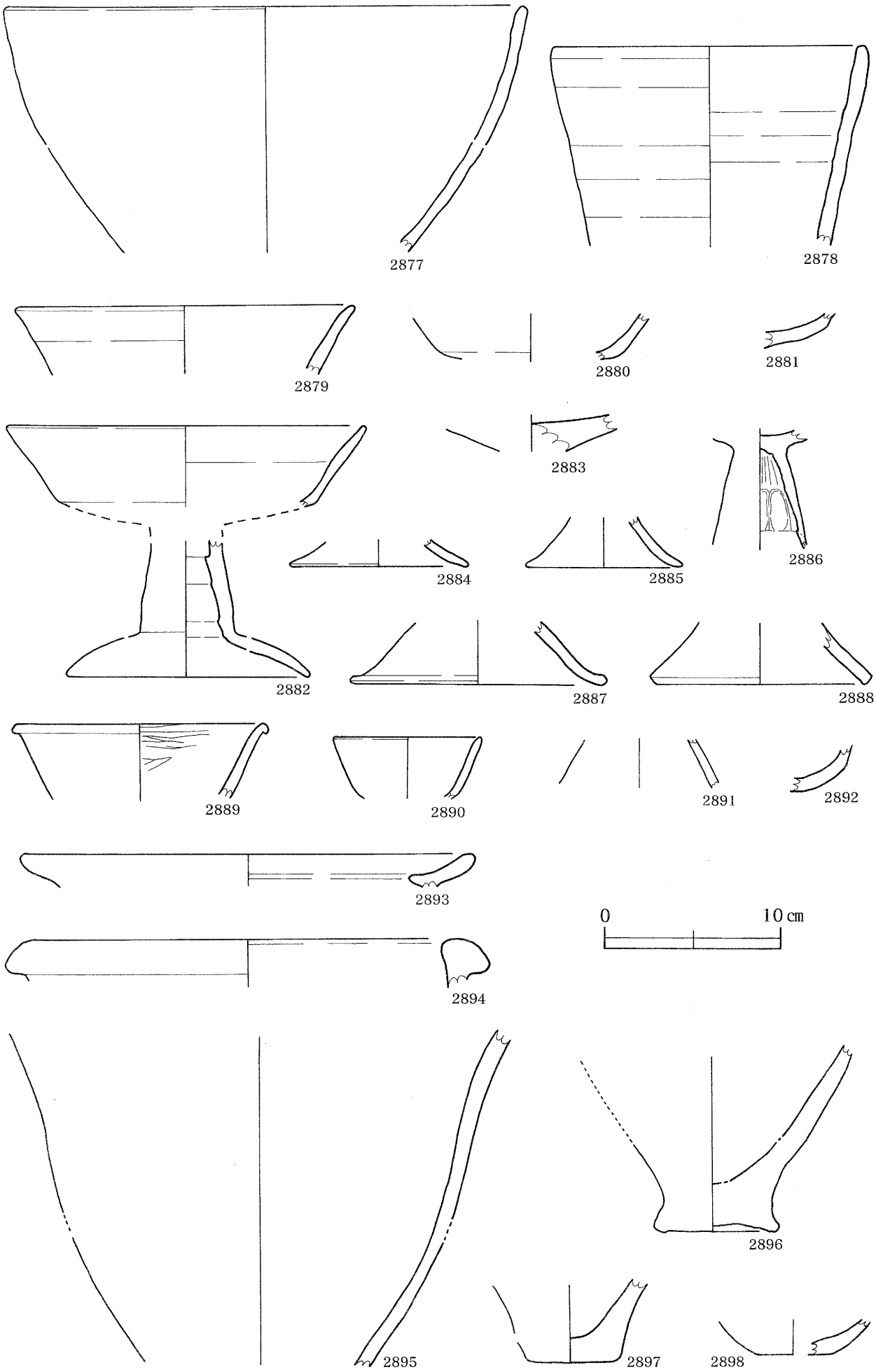
第212図　SA出土遺物実測図（81）

2840・2851：SA-102、2852～2862：SA-103



第213図　SA出土遺物実測図（82）

SA-103



第214図　SA出土遺物実測図（83）

2877～2888：SA-103、2889～2898：SA-106